

十年陸軍省達乙第
二十九號達ヲ以テ
改正

入營期限迄ニ養子分家等ヲ以免役願出ツル兵役ニ於テハ一切之ヲ許サス

第二十七條 本年徵兵選名簿記載ニ當タル者ノ内他府縣へ寄留ノ者ハ本令第六章第十三條ニ照準
シ其所置ニ及フヘキハ無論其戶主タル者他府縣へ寄留シ其子弟及ヒ厄介タル者ハ本令同章第十
四章ニ準スヘキト雖其本貫ヨリモ豫有無ヲ取糺シ本簿ノ末ニ付シ其由ヲ記スヘシ

但北海道へ全戸寄留スル者ハ免役ニ屬シ北海道ヨリ各府縣へ全戸寄留スル者ハ府縣一般ノ人
民ト同ク兵役ヲ帶ハシムヘシ

第二十八條 本令第六章第十二條ニ示シタル全國ノ男兒十七歲國民軍ニ入ラシムヘキハ其本年一
月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ滿十七歲ト成ル者ヲ前年十六歲ノ十二月取調へ成丁簿ニ記シ府
縣廳ニ備へ置キ而國民軍人員表離形ニ準シ十七歲ノ者幾人十八歲ノ者幾人ト順次四十歲ニ及ホ
レ之ヲ一大區又ハ一郡ニ括リ而又之ヲ一府縣ニ合セ翌年一月中ニ陸軍省へ差出スヘシ尤成丁簿
ハ所用ノ節節ニ應シ差出タスヘキヲ以出入死没等之アルトハ必ス筆削ヲ加ヘ置クヘシ

成丁簿離形

第何大區

(△印朱書)

姓 名	△何 某	△同	△同	△同
住 所	△何小區何町何丁目 何番地	△何小區何村何番地	△同	△同
戶 主	△何 某	△同人	△同	△同
誕 生	△年號月日	△同	△同	△同
族 業	△何 族	△農	△工	△商
備 考				

姓 名	△何 某	△同	△同	△同
住 所	△何小區何町何丁目 何番地	△何小區何村何番地	△同	△同
戶 主	△何 某	△同人	△同	△同
誕 生	△年號月日	△同	△同	△同
族 業	△何 族	△農	△工	△商
備 考				

國民軍人員表雛形

備考	明治八年十一月		何府國民軍人員表		主任官姓名印	
	何府	何大區	同	同	同	同
	年	七歲				
	十八歲					
	十九歲					
	二十歲					
	二十一歲					
	二十二歲					
	二十三歲					
	二十四歲					
	二十五歲					
	二十六歲					
	二十七歲					
	二十八歲					
	二十九歲					
	三十歲					
	冊一					
	冊二					
	冊三					
	冊四					
	冊五					
	冊六					
	冊七					
	冊八					
	冊九					
	冊十					
總計						

十年陸軍省乙第二十九號達ヲ以テ道加十九年陸軍省令第四十四號ヲ以テ廢止

第二十九條 成丁簿記載ノ内洋行修業或ハ他府縣ニ寄留等現今不在ノ者ハ各自其由並ヒニ出生年月等簿中備考ニ詳細ニ記載セ又他府縣ヨリ寄留ノ者ハ其本貫並ヒニ移住ノ歲月等右同様備考ニ記シ本簿ノ末ニ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ一纏メニ記載スヘシ

第三十條 陸軍ノ兵籍ニ入りタル者ト雖在郷中ハ其族屬ニ隨ヒ取扱フヘキハ固ヨリナレモ死沒轉居處刑及ヒ脱走總ヘテ身上ニ關スル事故アレハ常備兵ノ歸郷中ノ如キハ其時々後備軍ノ如キハ月末毎ニ其筋ヲ經テ所管ノ領臺ヘ届出スヘシ

第三十一條 後備軍召集ノ旅費ハ各自住居ノ地ヨリ營所迄ノ里程ヲ算シ徵兵入費概則ニ照準シ一時其府縣ニテ立替ヘ渡シ追ツテ明細決算表ヲ以其領臺ヘ申出ツヘシ

第三十二條 本令及ヒ此編中ニ於テ管内ヲ出入スル云々等ノ管内ハ各自管轄セラレタル府縣内ト心得ヘシ就キテハ他ノ府縣ト接シタル邊界ニ住居シタル者其管外ニ出ツルヲ禁スルモハ支障最多カルヘシ是故ニ此等ノ者ハ他管ト雖一泊途程ノ所ハ自己管内ト見做シ往來スルモ妨ケナシ

○達第百十二號 (十一月八日 輪廊附)

後備軍召集條例別冊之通相定候條此旨相達候事

明治八年十月廿三日

領臺 府縣

後備軍召集條例

第一條 凡後備軍召集法ハ平時戰時共速ニ之ヲ召集シ得且隊伍ニ編制スルヲ容易ニシテ支那ナキヲ要ス爰ニ記載スル所ノモノハ概テ平時復習ニ當テ召集スルノ順序トス然レモ戰時ニ在テ召集スル法モ亦此例ニ據ル唯其緩急ヲ異ニスル而已

第二條 復習ノ爲メ第一後備兵ヲ召集シ之ヲ各隊ニ分配スルモハ戰時ノ人員ニ適當スルヲ以テ別

明治八年十一月 陸軍省 達 達第百十一號 達第百十二號 (後備軍召集條例)

ニ隊伍ヲ編制スルコトヲ營所或ハ分屯ノ地ニ召集シ戰時ノ人員トナシ復習セシムルヲ法トス尤
 在營中ハ百事常備兵ト異ナルコトナシ
 第三條 毎年ノ復習ハ二月ヨリ五月中便宜ヲ量リ陸軍卿ノ許可ヲ得テ之ヲ行フ而シテ其期限ハ概
 乎四週間乃至八週間ヲ以テ例トス然レモ時トシテ之ヲ變更セサルヲ得ス
 但軍隊ノ都合ニヨリ八月ヨリ十月中ニ延期スルコトモアルヘシ
 第四條 凡ソ復習ノ術科ハ左表ノ通タルヘシ然リト雖モ該營司令長官ハ時宜ニ依リ之ヲ取捨スル
 コトヲ得ヘシ

第十一年陸軍省達
第三百二十五號達ヲ
以テ改正

歩兵	騎兵	野砲	山砲	工兵	輜重兵
體操	體操	砲隊運動	砲隊運動	體操	體操
生兵運動	乘馬徒歩	徒歩	生兵運動	生兵運動	乘馬徒歩
小隊運動	乘馬徒歩	小隊運動	同	小隊運動	乘馬徒歩
大隊運動	乘馬徒歩	射的術	同	小隊運動	乘馬徒歩
散兵運動	乘馬徒歩	射的術	同	散兵運動	乘馬徒歩
射的術	射的術	砲使用	砲使用	射的術	射的術
野營演習	野營演習	分隊運動	同	野營演習	野營演習
		砲隊運動	同	砲隊運動	
		射的術	射的術	砲隊運動	

第五條 第一後備兵ノ召集ハ凡ソ一ヶ月前ニ所管鎮臺司令長官ヨリ其府縣ニ左ノ書東ヲ以テ通報
 スヘシ
 但料紙ハ美濃界紙ヲ用ニ第十三條第二十二條皆同
 來ル何月何日ヨリ定例ノ通第一後備軍操練復習爲致候條其管下同軍各兵ハ兼テ御布達可有之
 最召集手續詳細之儀ハ其府縣駐在曹長ヨリ該區長へ通達ニ可及候此段及御達候也

年號 月 日
 府縣知事令宛
 何鎮臺司令長官
 官 姓 名

第六條 召集ノ期ニ至レハ後備軍司令ハ該營司令長官ノ命ヲ奉シ府縣駐在ノ曹長ニ達シ第一後備
 兵ヲ召集セシムヘシ
 第七條 駐在曹長ハ復習ノ期ニ於テ事務極メテ繁劇ナルハ後備軍司令ノ許可ヲ得テ其地方後備
 兵ノ内元下士ニ服役シタル者一二名ヲ撰拔シテ助手トナスコトヲ得ヘシ
 第八條 各駐在曹長其府縣下ノ兵員ヲ集合セシムル場所ヲ第一集合所ト云ヒ而シテ後備軍司令ノ
 許ニ集合スル場所ヲ第二集合所ト云フ
 第九條 第一集合所ニ於テ復習中居民ノ倉庫或ハ家屋ヲ借受ケ各兵ノ略服及ヒ私服ヲ入ルヘキ用
 ニ供スヘシ
 第十條 後備軍司令ハ豫メ鎮臺司令長官ノ許可ヲ得テ武庫主管ヨリ武器ヲ請取リ後備兵到着ノ
 分與スヘキ準備ヲ爲シ置クヘシ
 第十一條 後備軍司令ハ召集ノ兵員ニ應シ通行免狀ヲ製シ豫メ駐在曹長ニ渡シ置ヘシ
 第十二條 後備軍司令ハ召集ニ先テ各營所ニ分配スル兵員ヲ豫算シ一府縣下ノ兵員許多ノ差ヲ

第十一年陸軍省達
第三百二十五號達ヲ
以テ改正

生シ一營所ニ送附スルノ員ニ剩餘或ハ不足ヲ生スルハ他府縣ノ兵ト交互受付スヘキヲ前以テ駐在曹長ニ達シ置クヘシ
 但兵員寡少ニシテ各營所ニ分配スルニ足ラサルハ該營司令長官ノ許可ヲ得テ彼ノ營所ヲ省キ此ノ營所ノミ集合スルコトアルヘシ
 第十三條 駐在曹長ハ後備軍司令ノ命ヲ受ケ左式ノ書翰ヲ作り共人員ニ應シ通行免狀ヲ併セテ該府縣ノ區長ニ送達スヘシ

書式

明治何年兵種番號

第何大區何小區何郡何村住第一後備軍兵卒
 姓 名

同

同

此度定例之通操練復習有之候條右人員來ル何月何日某地へ無相違到着候様御取計可有之候也

年號 月 日

何府縣駐在
 官 姓 名 印

某府縣

第何區長

御 中

追テ通行免狀何枚差送候條各員へ御分配可有之候也
 通行免狀雛形寸法左ノ通
 但厚紙ニテ製スヘシ

十二月十八日以外

<p>此免狀ハ歸郷ノ上直ニ區長ニ差出スヘシ</p>	
<p>往</p> <p>一 旅費 金 何 程</p> <p>一 所持 金 何 程</p> <p>一 何年何月何日 發途 區長或ハ戶長 姓名 印</p> <p>一 何月何日何地某方ニ宿ス 何府(縣)第何大區何小區 區長或ハ戶長 姓名 印</p> <p>一 何日ヨリ何日迄病氣或ハ何々ニ依テ滞在 右 同 姓名 印</p> <p>一 何月何日何地乘船何月何日何地 上陸 何 船 長 姓名 印</p>	<p>還</p> <p>一 旅費 金 何 程</p> <p>一 所持 金 何 程</p> <p>一 何年何月何日 發途 後備軍書記 官 姓名 印</p> <p>其他書法上ニ同シ</p>
<p>通行免狀</p> <p>明治何年兵種 第何番 姓名</p> <p>自何府(縣)第何大區何小區何村(町)至何々營所往復</p> <p>後備軍司令 印</p>	

第十四條 區長ハ該區中第一後備兵ニ前條ノ旨趣ヲ通達シ各兵出發ニ際シテ通行免狀及ヒ徵兵令
 參考第三十一條ニ揭示スル如ク旅費ヲ渡シ其兵卒ヲシテ某ノ地ニ單行セシムヘシ
 第十五條 區長ハ召集ノ後備兵若シ病氣或ハ事故出來召集ニ應シ難キ者アルハ徵兵令第六章第
 三條ニ準シ各兵到着當日ニ第一集会所出張ノ駐在曹長ヘ遺漏ナク届出ヘシ
 第十六條 駐在曹長ハ預ル所ノ被服ヲ兼テ第一集会所ニ輸送シ置キ而シテ集會前日迄ニ同所ニ出
 張シ事務ヲ辨理スヘシ
 第十七條 駐在曹長ハ後備兵到着ニ當テ通行免狀ヲ検査シ人員ヲ較計シ兼テ預ル所ノ帽衣袴靴等
 ヲ分付シ其私服ヲ纏メ一名毎ニ木札ヲ付ケ之レニ番號及ヒ姓名ヲ記シ第九條ノ倉庫或ハ家屋ニ
 藏シ置キ又各區長ヨリ差出ス不參ノ届書ヲ取纏メ然ル後營所或ハ分屯ノ地ニ導クヘシ
 第十八條 若シ第十二條ニ揭示スル如ク他府縣駐在ノ曹長ニ交付スヘキ兵員アルハ其員中ニ就
 テ一二名ヲ撰擢シ之ニ取締ヲ命シ他ノ集会所ニ送附スヘシ
 第十九條 後備軍司令ハ後備兵ノ到着セシト名簿及ヒ病氣事故等ニテ不參ノ者ノ届書ヲ照査シ各
 員ニ武器ヲ分與シ然ル後之レヲ各隊長ニ交付スヘシ
 第二十條 師管ニアラサル營所或ハ分屯ノ地ニ在テハ後備軍司令豫メ武器ヲ輸送シ且副官ヲ差遣
 シ召集ノ事務ヲ總理セシムヘシ
 第二十一條 各隊長ハ後備軍司令ヨリ兵員ヲ受領シ之ヲ隊中ニ分賦スヘシ
 第二十二條 後備兵病氣或ハ事故等ニテ召集ニ應セサル者復習ノ半ハ迄ニ治癒シ或ハ事故了ルト
 ハ區長直ニ此者ニ通行ノ免狀ヲ與ヘ駐在曹長ノ許ニ至ラシムヘシ
 第二十三條 前條ノ者到着スレハ駐在曹長ハ通行免狀ヲ檢シ被服ヲ與ヘ後備軍司令ニ左ノ書簡ヲ
 添ヘ直ニ出途ヲ命スヘシ

書式

何府縣第何大區何小區何村第一後備軍兵卒

明治何年兵種番號

姓 名

右之者病氣全快或ハ事故相濟候旨届出候ニ付本日爲致發程候也

何府縣駐在

年號 月 日

官 姓 名 印

後備軍司令宛

第二十四條 後備軍司令ハ復習竣ルノ前豫メ後備兵ノ旅費ヲ請取置キ當日ニ至リ配當スルノ準備
 ヲ爲シ置クヘシ
 第二十五條 復習竣ルノ翌日各隊長ハ後備軍司令ト共ニ後備兵ヲ整列場ニ導キ人員武器ノ検査ヲ
 爲シ検査了レハ直ニ武庫主管ニ武器ヲ返却シ曹長一名軍曹一二名ヲシテ第二集会所ニ導カシム
 ヘシ
 第二十六條 其兵員第二集会所ニ到着スルハ後備軍司令ハ各員ノ通行免狀ヲ検査シ旅費ヲ渡シ其
 員中ニ就テ一二名ヲ選擢シ之ニ取締ヲ命シ第一集会所ニ到ラシムヘシ
 第二十七條 復習終ルノ日限ニ至レハ駐在曹長再ヒ第一集会所ニ出張スヘシ
 第二十八條 後備兵第一集会所ニ到着スルハ駐在曹長各員ノ通行免狀ヲ検査シ而シテ其被服ト
 私服トヲ交換シ各自歸路ニ就カシメ其被服ハ己レノ駐在所ニ送ルヘシ
 第二十九條 後備兵若シ途中ニ於テ故意被服ヲ破綻スル等ノ所業アルハ取締ノ者之ヲ取糺シ共
 姓名ヲ筆記シ置キ第一集会所ニ到着セシト駐在曹長ニ届出ヘシ
 第三十條 駐在曹長右等ノ者ノ姓名書ヲ受取ルハ更ニ本人ヲ取糺シ而シテ後共事由及姓名ヲ報

告書ニ記載シ後備軍司令ニ上申スヘシ

第三十一條 復習終リ歸郷スルハニ當リ若シ病氣ニ依テ出發スルコト能ハサルハ全快ヲ待テ歸郷ヲ命スヘシ

但病症ニヨリ不得止ルハ醫官ノ診斷書ヲ證シ車駕料ヲ給スルコトアリ然ルハ共事由ヲ通行免狀ノ内ニ書載スヘシ

第三十二條 復習終テ歸郷セシムルノルニ當リ在營中ノ犯罪軍律ニ係ル者ハ裁判官ニ引渡スヘシ其懲罰ニ屬シ期限未タ滿タサル者ハ其儘歸郷セシメ曹長ヨリ本人住居ノ區長ニ報知シ殘餘ノ罰ハ自宅ニ於テ禁錮セシムヘシ

第三十三條 後備兵各自歸郷スレハ區長ハ直ニ通行免狀ヲ取懸メ二十日以内ニ駐在曹長ノ許ニ返附スヘシ

陸軍全部

○達第百十三號 (十一月八日)

軍律第四十八條訓等ノ罰ヲ受クル者ハ新入等輩ノ後ニ列スト有之右席次ノ儀近衛隊ニ在テハ兵卒ノ後領臺ニ在テハ二等卒ノ後ニ列スル者ト可相心得此旨相達候事

近衛局 各領臺 教導團

○達第百十四號 (十一月九日)

今般陸軍武官休暇規則頒布候ニ付テハ去ル明治六年迄第二千八百五號壯兵休暇定期ハ廢棄勿論ニ候得共諸兵卒休暇人員ノ儀ハ步兵中隊ニ在テハ五名迄騎兵大隊工兵小隊砲兵小隊ニ在テハ四名迄輜重兵小隊ニ在テハ二名ヲ限リトシ其餘ハ同時ニ休暇不相成儀ト可心得此旨相達候事(達第百十四號五號ハ六年陸軍省第五百八十五號ニ載ス)

陸軍全部

○達第百十五號 (十一月十日 陸軍省)

看病人看病卒服務規則別冊之通知定條條此旨相達候事

十六年陸軍省達乙第五十號達第十七年同達乙第四十號達

十四年陸軍省達乙第六十八號達ヲ以テ武官休暇規則改正

九年陸軍省達第八十四號達ヲ以テ文中增加

二十一年同陸軍省達乙二百五十一號達ヲ以テ廢止

十二年陸軍省達乙第八十八號達ヲ以テ文中改正

明治八年十一月十日

(別冊)

看病人看病卒服務規則

看病人看病卒ハ會計監督長ニ統率シ各所管會計官ニ隸屬シ醫事ニ關涉スル事項ハ總テ醫官ノ指揮ニ從フ者トス其服務ノ綱領ハ病院條例ニ掲ホストイヘ且今爰ニ陸軍本病院領臺病院屯營病室ニ依テ其職務ノ細目ヲ區別スルコト左ノ如シ

第一章 一等看病人職務

第一條 一等看病人ノ人員ハ陸軍本病院ニ二人各領臺病院ニ一人ヲ率トス

第二條 一等看病人ハ醫官並ニ會計官ノ指揮ニ從ヒ病室内諸般ノ事務ニ服スヘシ

第三條 毎朝會計官ノ室ニ至リ出勤簿ニ捺印ス又自己ノ室内ニ於テ別ニ看病卒出勤簿ヲ設ケ捺印セシム月末ニ至リ其病氣引等ヲ區分シ勤惰表ヲ製シ會計官ニ呈スヘシ

第四條 毎日午前八時午後四時各病室ハ勿論浴室厠間ニ至ルマテ一々巡視シ汚穢不潔ノ箇所アレハ擔當ノ二三等看病人ヲ督責シ看病卒ヲシテ直ニ洒掃拂拭セシムヘシ

第五條 前條ノ外毎日午後七時ヨリ九時迄ノ間ニ於テ病室ヲ巡視シ患者ノ現員ヲ點檢記載シテ日表ヲ製シ翌日午前第七時限リ會計官ニ報告スヘシ

第六條 二等看病人以下其職務ヲ情リ或ハ言行ヲ慎マシ飲酒ハ勿論狼狽ノ小説ヲ讀ミ雜話高聲等ヲ爲ス者アレハ禁止致戒シ仍ホ改心セサル者ハ醫官及ヒ會計官ニ具陳スヘシ

第七條 職務ノ餘暇ヲ以テ二等看病人以下ニ看護ノ方法ヲ教導スヘシ

第八條 看病卒ヲ病院内各室ニ配置シ或ハ甲室ヨリ乙室ニ交換セシムルハ醫官ノ指揮ニ從ヒ處分シ而シテ會計官ニ報告スヘシ

明治八年十一月 陸軍省 達 達第百十五號 (看病人看病卒服務規則)

一四七七

第九條 會計官或ハ醫官ノ命令ハ二等看病人以下ニ遺漏ナク傳達スヘシ

第十條 危篤ノ患者ハ該室擔當ノ二三等看病人ト熟議シ看病卒中殊ニ誠實ノ者ヲ撰ビ之ヲ付シテ諸事懇切ニ注意看護セシムヘシ

第十一條 患者私用物購求ノ節ハ 手拭齒粉楊枝半紙香紙鏡筒石印郵 三等看病人其品目ヲ賬簿ニ記載シ毎週之ヲ湊合シ醫官ノ調印ヲ經テ差出スルハ會計官ヘ申告シ其會計官ヨリ該隊會計官ヘ通報ノ後物品若クハ金錢ヲ受領シ醫官及ヒ會計官ノ點檢ヲ歷テ之ヲ三等看病人ニ交付スヘシ

第十二條 各病院病室内消耗品ノ出納ヲ監視シ且備付被服寢具等ハ破損セラル様ニ常々注意スヘシ若シ破損セシモノ有ルハ具ニ之ヲ點檢シ三等看病人ヲシテ之ヲ受領簿ニ記載セシメ該室擔當醫官ノ調印ヲ得テ其破損品ヲ該院ノ會計官ニ還納シ更ニ新品ヲ受領スヘシ

第十三條 凡病院近傍ニ失火或ハ非常ノ事アリ災害將ニ至ラントスル時ハ患者ノ安ニ室外ニ出ルヲ禁シ醫官ノ指揮ニ從ヒ看病卒ヲ附シテ避シム其歩行スル能ハサル者ハ車載或ハ負擔シテ之ヲ避シムヘシ

第十四條 患者死亡スルハ醫官ノ指揮ニ從ヒ看病卒ヲシテ其死體ヲ屍室ニ移サシメ成規ノ如ク其隊號等級姓名年齢並ニ死没ノ年月日時刻ヲ記シテ床頭ニ掲ケ看病卒ヲシテ看守セシメ若シ生前遺托ノ言アレハ之ヲ詳記シ私有物ハ之ヲ保護シ死體交付ノ時併セテ之ヲ交付シ證書ヲ取り置クヘシ

第二章 二等看病人職務
第一條 二等看病人ハ看病卒二十八乃至三十一人ニ就キ一人ヲ率トス其職務ハ一等看病人ニ亞キ

九年陸軍省達第百十五號
三號達ヲ以テ文中
增加

同官不在ノ時ハ之ヲ代理スヘシ

第二條 二等看病人ハ各屯營病室毎ニ一人ヲ置キ該隊附醫官及ヒ會計官ノ指揮ニ從ヒ其病室内ノ事務ヲ管掌ス而シテ近衛及ヒ東京鎮臺等ニ在テハ本病院各鎮臺ニ在テハ該隊病院ニ管轄シ屯營病室ニ分屬セシムル者トス

第三條 毎朝會計官ノ室ニ至リ出勤簿ニ捺印ス其各屯營病室ニ在テハ自己ノ室内ニ於テ別ニ看病卒出勤簿ヲ設ケ捺印セシム月末ニ至リ其病氣引等ヲ區分シ勤惰表ヲ製シ該隊會計官ノ點檢ヲ經テ所管病院會計官ニ呈スヘシ

第四條 平常二等看病人並ニ看病卒ノ勤惰行狀ヲ監視シ苟モ職務ヲ怠リ言行ヲ慎マサル等ノ者アルハ懇切ニ教戒ヲ加ヘ仍ホ改メサレハ一等看病人ニ申告スヘシ

第五條 自己擔當ノ患者急劇ノ諸症ハ勿論總テ異狀アルヲ見ハ速カニ醫官ニ報告スヘシ若シ危篤ノ者アルハ看病卒中殊ニ誠實ノ者ヲ撰ミ之ヲ付シテ諸事懇切ニ注意看護セシムヘシ

第六條 屯營病室ニ在テハ毎日午前七時午後三時室内及ヒ浴室廁間ニ至ルマテ一々巡視シ汚穢不潔ノ箇所アレハ速カニ病室掛伍長ニ通知シ使役兵卒ヲシテ直チニ洒掃拂拭セシムヘシ

第七條 前條ノ外毎日午後七時ヨリ九時迄ノ間ニ室内ヲ巡視シ患者ノ現員ヲ點檢記載シテ日表ヲ製シ翌日午前第七時限リ該隊會計官ニ呈スヘシ

第八條 各屯營病室ニ在テ患者新タニ到ルハ先ツ病室ノ諸規則ヲ説示了會セシム若シ之ヲ犯ス者アラハ懇切ニ説諭シ仍ホ改メサルカ或ハ病狀ヲ詐僞スル等ノ事アレハ醫官ニ申告シ且病室掛伍長ニ通知スヘシ但規則ヲ説示セシメテ犯ス者アルハ己レ共責ニ任ス可シ

第九條 各屯營病室ニ於テ下士以下患者ヲ訪フ者アルハ醫官ノ許可ヲ得病室掛伍長ニ通知シテ相見セシムヘシ

第十條 凡屯營病室近傍或ハ非常ノ事アリテ災害將ニ至ラントスル時ハ患者ノ妄ニ室外ニ出ルヲ禁シ醫官ノ指揮ニ從ヒ病室掛伍長ニ通知シ使役兵卒ヲ附シテ之ヲ避シム其歩行スル能ハサル者ハ車輦或ハ負擔シテ之ヲ避ケシムヘシ

第十一條 患者狼リニ文書ヲ往復シ或ハ他人ト面語スル者アルトキハ其事情ヲ查問シ不審ノ事アラハ直チニ之ヲ醫官ニ報告スヘシ

第十二條 患者ノ内醫官ノ許可ヲ得スシテ室外ヲ徬徨スル者アラハ直チニ之ヲ制止シ且擔當看病卒ノ不注意ヲ督責スヘシ

第十三條 時々ノ命令布告ハ遺漏ナク看病卒ニ通知スヘシ

第十四條 職務上ニ於テ意見アラハ一等看病人ニ陳述シ指示ヲ乞フ可シ

第十五條 各屯營ニ分屬スル者ハ行軍ノ時列外ニ於テ跟行セシム若シ歩行ニ堪ヘサル患者アル時ハ醫官ノ證書ニ因リ患者ノ輸送ヲ掌トル者トス

第十六條 其兵隊宿陣ニ着シ醫官診按ノ時ハ之ニ從ヒ看病卒ヲシテ藥劑ノ用ニ供シ醫官ノ手術ヲ助ケシメ諸事ニ注意スヘシ

第十七條 滯陣中日常診察ノ時ト雖モ諸事ニ注意スルヲ前條ノ如シ

第三章 三等看病人職務

第一條 三等看病人ハ看病卒八人ニ就テ一人ヲ率トス

第二條 毎朝會計官ノ室ニ至リ出勤簿ニ捺印シ一二等看病人ノ指示ニ從ヒ看病卒ヲ指揮シ病室内重症ノ患者ハ晝夜ヲ論セス自ラ看病卒ノ率先トナリ懇切ニ看護スヘシ

第三條 看病卒ノ動作言語ニ注意シ其勤惰ヲ調査シテ一二等看病人ニ申告スヘシ

第四條 病室内ノ褥床被衣毛布蚊帳唾壺便器等ノ諸品ハ常ニ監視シ破碎毀損セサル様ニ注意セシム

第五條 病室内備付被服及ヒ器具等破損スルハ一等看病人ノ點檢ヲ經テ之ヲ受領簿ニ記載シ該室擔當醫官ノ調印ヲ受ケ故品ヲ該院會計官ニ還納交換シ更ニ新品ヲ領收スヘシ但シ藥劑並器械等ハ同上醫官ノ調印ヲ受ケ藥劑官ニ就テ受領スヘシ

第六條 病室内日用筆墨紙薪炭油等ノ消耗品ハ簿簿ニ其品目數量ヲ記載シ一等看病人ノ點檢ヲ經テ醫官ノ調印ヲ得テ會計官ニ呈シテ其現品ヲ受領スヘシ

第七條 各病院ニ在テ患者新ニ入院スルハ先ツ病室ノ諸規則ヲ説示了會セシム若シ犯スモノアラハ懇切ニ説諭スヘシ仍ホ改メサルハ之ヲ醫官ニ申告ス但説示セシメテ規則ヲ犯ス者アルハ己レ其責ニ任ス可シ

第八條 擔當スル處ノ室内廡下廁等ハ極メテ清潔ナラシメ若シ不潔汚穢有ルハ己レ其責ニ任スヘシ

第九條 患者病狀ヲ詐偽シ醫官ヲ欺罔セント謀ル者ヲ偵知スルハ直ニ其情狀ヲ醫官ニ陳述スヘシ

第十條 患者室外散歩ノ許可アルトハ各員ニ散歩札ヲ附シテ室外ニ出タシ歸室ノ時其札數ト人員ヲ照査シテ入室セシム但シ定時限ヲ過サシムヘカラス

第十一條 患者散歩ノルハ各室ヨリ看病卒一人ヲ附シテ監視セシメ庭内ノ樹木ヲ折リ塀牆ヲ攀ツル等ノ舉動ナカラシムヘシ

第十二條 凡ソ院外ノ人患者ヲ訪フハ其證書ヲ檢シ醫官ノ許可ヲ得テ看病卒一人ヲ附シテ面接所ニ於テ相見セシムヘシ

但重症ノ患者ハ醫官ノ許可ヲ得テ床頭ニ就テ相見セシムヘシ

第十三條 全治ヲ得或ハ廢兵トナリ退院スル者及ヒ死亡スル者等アルハ該室擔當ノ醫官ヨリ其處方箋ニ某月某日退院若ハ死亡ト朱書セシモノヲ受取病院第一課ノ醫官及ヒ會計官ニ送致スヘシ

第十四條 前條ニ由テ退院セル者アルハ其隊號等級姓名年齡月日等ヲ詳記シ一等看病人巡視ノ時之ヲ具陳スヘシ

第十五條 患者請求ノ物品ハ隊號等級姓名並ニ其品目ヲ牒簿ニ記載シ毎週之レヲ湊合シ醫官ノ調印ヲ受ケ之ヲ一等看病人ニ呈ス可シ

第十六條 前條ノ物品ヲ一等看病人ヨリ領收スルハ醫官ノ指揮ニ從ヒ之ヲ其本人ニ附與シ牒簿目次ノ下ニ受領ノ二字ヲ記注セシムヘシ

第十七條 二等看病人ニ代リテ行軍ニ從フハ總テ同官職務ノ條款ニ依ル可シ

第四章 看病卒職務

第一條 各病院ニ在テハ看病卒一人ニ付患者六人乃至十人ヲ率トス 重症ノ患者ハ各屯營病室ニハ看病卒一人ヲ置キ藥劑ノ用ニ供シ兼テ醫官ノ手術ヲ助クルモノトス

第二條 毎朝當該看病人ノ室ニ至リ出勤簿ニ捺印シ醫官及ヒ看病人ノ指揮ニ從ヒ患者藥劑ノ服用飲食ノ給與起臥ノ扶持等ニ從事ス但共之ヲ行フヲ深切懇篤ヲ盡スヲ以テ旨トス

第三條 藥劑ヲ服セシムルニ其分量並ニ時刻ヲ誤ル可ラス且飲食ハ總テ醫官ノ検査ヲ經サルモノハ假令患者懇請スルト雖モ決シテ與フ可カラズ

第四條 醫官回診ノ時ハ患者ノ床頭ニ侍シテ詳カニ其容體ヲ陳述シ又患者ニ異變ノ容體アルハ速ニ醫官ヘ報告スヘシ

第五條 患者攝生法ヲ守ラサルカ或ハ規則ヲ犯ス者アラハ必ス懇切ニ忠告シ仍ホ改メサルハ之

九年限軍省達第百三號達ヲ以テ但書增加

ヲ看病人ニ申告ス可シ若シ因循報知セサレハ己モ亦罰責アル可シ

第六條 病室内外共ニ穩靜ヲ主トシ清潔ヲ旨トスルヲ以テ一日二回ツ、必ス酒掃拂拭シ藥器食具等ヲ清潔シ時氣ノ寒暖ニヨリ被服裝脫等ニ注意シ其周圍ニ至ルマテ清潔ニスルヲ要トス

第七條 診察及喫飯ノ前後二十分時間ハ關戸ヲ開テ大氣ヲ流通セシムヘシ但賊風ノ恐アルハ此限ニ在ラス

第八條 大小便其他凡テ不潔ノモノハ速ニ除キ去リ夜間用ニル所ノ唾壺便器ハ毎朝之ヲ清潔シ晝間ハ屢之ヲ清潔ス可シ

第九條 患者散步沐浴ノ時ハ必ス附添ヒ之ヲ監護シ若シ脫院スル者アレハ己レ其責ニ任スル者トス

第十條 每室一名ツ、交番看守シ暖爐浴室廁間等晝夜トモ屢巡視シテ失火ヲ警メ別シテ煙突ノ不潔毀損等ナキヤウニ注意スヘシ

第十一條 患者ヲ訪フモノ有ルハ看病人ノ指揮ニ從ヒ共ニ面謁所ニ至リ相見セシムヘシ重症ノ患者ハ床頭ニ就テ相見セシムルヲ以テ必ス其側ニ侍ス可シ

第十二條 近火等總テ非常ノ節ハ醫官及ヒ看病人ノ指揮ニ從ヒ重症ノ患者ハ車輦或ハ負擔シテ共災害ヲ避ケシム可シ

第十三條 死者アレハ上官ノ指揮ニ從ヒ屍室ニ移シ臥床ニ臥サシメ白布ヲ以テ屍ヲ覆ヒ懇切ニ取扱ヒ其側ニ侍シテ之ヲ看守ス可シ

第十四條 行軍ノ時ニ當テハ外科器具並ニ初發ノ手術ニ必要ナル木綿等ノ諸具ヲ藏メタル背篋ヲ負擔シ以テ該隊ノ醫官ニ跟隨ス可シ

第十五條 負擔シタル背篋中藥品及器械ノ品目等盡ク暗知シ需用ニ臨テ溢漏アル可カラズ

九年陸軍省達第百二十號達ヲ以テ
百二十號增加
十九年陸軍省達乙
第十七號達ヲ以テ
廢止
十二年第四十六號
布告ヲ以テ廢止

第十六條 兵隊宿陣ニ若シ醫官診察ノ時ハ投劑貼膏並ニ綑帶外科等ノ手術ヲ助クヘ
○達第百十六號 (十一月十日) 陸軍全部
病馬院自今病馬廐ト改稱候爲心得此旨相達候事

○達第百十七號 (十一月十三日) 府 縣
徵兵令第四章第二條中揭示有之候人別表區畫之位置異同有之候テハ實際認方ニ於テ不都合有之候
條別紙寸法離形之通り其(府)縣ニ於テ製造可致此旨相達候事

尺
寸

△曲尺七寸

(△印ハ朱書)

徵兵		生誕	歳	數	氏名		宗門	
父	母				姓	名	氏	門
父	母							
祖	母							
兄	弟							
姉	妹							
子								

○達第百十八號 (十一月十三日)

近衛局各鎮臺
工兵各方面本署 士官學校

九年陸軍省達第百十五號達ニ依リ消

教導園

一般工具製作並格讀支給等ノ儀第四局ニ於テ管理ヲ工兵方面ニ於テ製作方取扱來候處製作ノ都合
モ有之自今砲兵本支廠ニ於テ製作方擔當爲致候條此旨爲心得相達候事
追テ翌年入用ノ見積並入費等ノ儀第三局第四局協議ノ上可相定候事

○達第百十九號 (十一月十四日) 鎮臺 府縣

來明治九年定規之通徵兵令附錄揭示ノ兵員致徵募候就テハ定期限徵兵使派出候條此旨相達候事
但第二軍管管下砲工輜重兵第三第五軍管管下砲工輜重兵第六軍管管下輜重兵ハ召集不致候事
○達第百二十號 (十一月十七日) 鎮臺 府縣

徵兵令附錄中步兵定尺ノ儀「五尺一寸以上」ト揭示候處今般本令御改訂ニ付テハ右「一寸」ノ二字ヲ
刪除候條此旨相達候事

○達第百二十一號 (十一月十七日 輪廓附)

陸軍全部

生兵概則別冊之通改訂候條此旨相達候事

明治八年十一月十七日

(別冊)

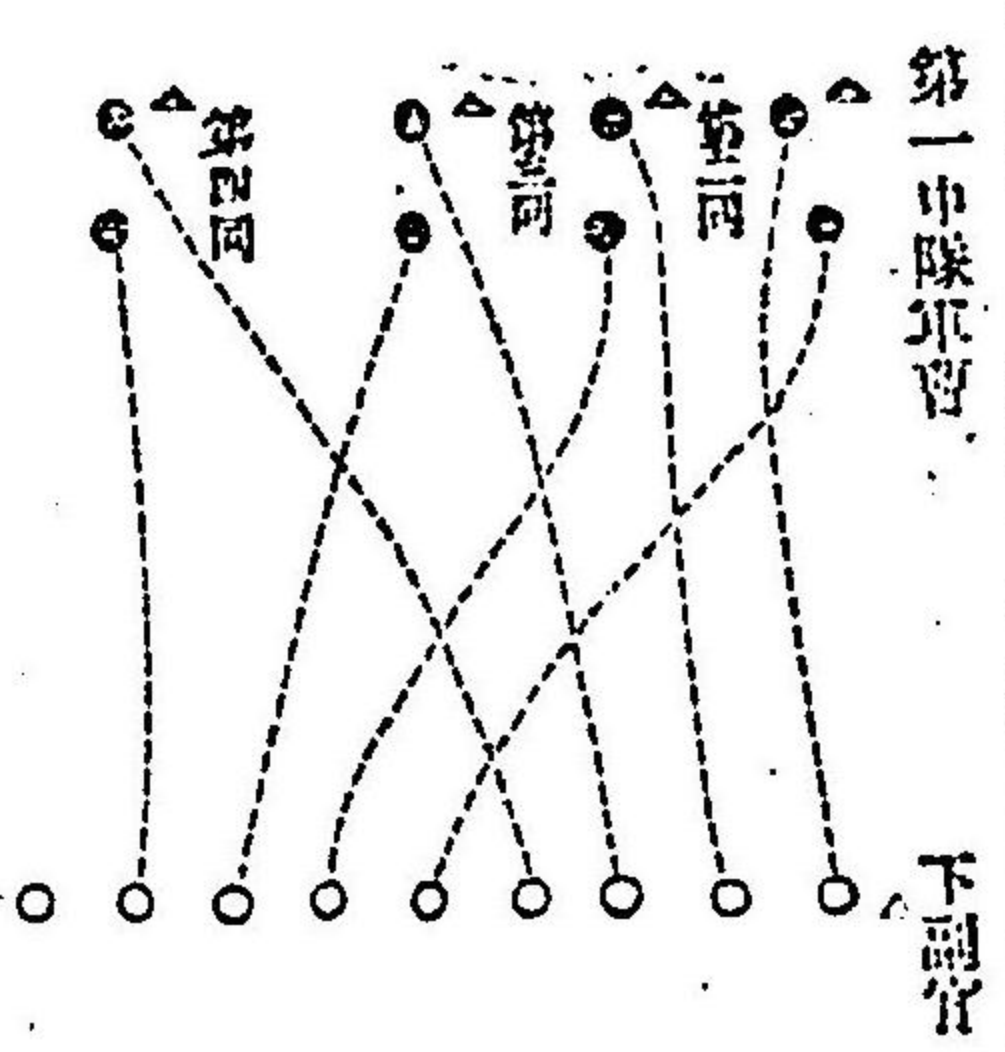
生兵概則

總則

第一條 此編中揭示セサル者ハ總テ諸兵ノ内務書ニ據テ施行スヘシ
第二條 屯營ノ結構練法ノ變革及ヒ實際ノ故障等ニテ司令將官此編中ノ定則ヲ變革シ或ハ増減ス
ルトキハ其事由ヲ具シ本省ニ上申シ許可ヲ請フヘシ其變革一時ノ故障ニ屬スル者ハ逐一上申セ
サルモ妨ナシ然レモ其事故止ムニ至リ直ニ故ニ復スヘシ

明治八年十一月 陸軍省 達 達第百十九號 達第百二十號 達第百二十一號 (生兵概則)

二十年陸軍省達第百二十四號達ヲ以テ廢止



人員ヲ區分シ中隊ニ配賦スレハ曹長ハ其人員ヲ檢シ中隊長ノ檢核ニ備ヘ其命ヲ受ケ若干ノ組合ニ分ツテ各伍長ニ配賦ス

但騎砲工及ヒ輜重兵ハ小隊長檢核ニ任ス

各伍長ハ部下ノ組合ヲシテ若干歩前進或ハ退却セシメ其姓名ヲ筆記シ所屬ノ軍曹ニ呈シ而シテ之ヲ各室内ニ誘引スヘシ

第六條 凡テ諸隊ノ徵兵ハ每歲常備兵員ノ三分一ヲ徵募シ各隊ニ編伍スルヲ以テ大隊中隊小隊ニ於ルモ之ヲ平等ニ分配シテ編伍スル者トス故ニ騎兵ノ大隊歩兵ノ中隊及砲工輜重ノ小隊共三歲ニシテ共一分ハ既ニ三年其一分ハ二年又其一分ハ則本年徵募スル所ノ新兵トスルナリ

第二章 被服配與ノ定則

第一條 徵兵編伍ノ後各中隊ニ於テ伍長組合ノ順次ヲ以テ被服ヲ配與ス

但砲工騎及ヒ輜重兵ハ各小隊ニ於テ本文ニ準シ之ヲ給與ス

徵兵ハ二等兵卒ニ命セラルハニ非サレハ正服ヲ給ヒ且略服モ徵章ヲ附セサル者トス

第二條 給養掛軍曹ハ曹長ノ指揮ヲ受ケ組合ノ人員ニ應シ左ノ物品ヲ伍長ニ配與ス

略帽 略衣 略袴 襦袢 袴下 靴 靴下 外套 手帖

但步砲兵ノ脚半騎砲輜重兵ノ長靴腹帶手套及工兵ノ土工服脚半雨靴ノ如キハ其演習所要ノ期ニ至リ給與スル者トス

第三條 伍長前條ノ物品ヲ給養掛軍曹ヨリ受領スレハ部下ノ組合ヲ一線ニ布列シ右翼ヨリ順次ニ故衣ヲ解脫セシメ之ニ前條被服ヲ與フ而シテ其被服身體ニ適スルト適セサルト伍長ヨリ給養掛軍曹ニ報シ其適セサル者ハ給養掛軍曹一閱ノ上交換ヲ請フヘシ

給養掛軍曹ハ徵兵ノ目前ニ於テ手帖並ニ被服給與牒ニ其姓名及ヒ被服ノ番號ヲ記載ス

但伍長ハ其故衣ヲ纏メ一名毎ニ紙札ヲ附シ之ニ姓名ヲ記シ給養掛軍曹ニ呈ス軍曹ヨリ之ヲ附添ノ區長(戶長)ニ返付ス尤郷里ニ送還シ或ハ賣却スル等本人ノ望ニ任スト雖モ右ニ屬スル入費ハ自辨タルヘシ

被服支給中ハ所屬ノ軍曹之ヲ監視スヘシ

第四條 被服ノ支給終レハ伍長ハ其室中ニ於テ其組合ヲ圍列セシメ室内起居ノ定則等ヲ教諭スヘシ

第三章 讀法及誓文ノ定則

第一條 徵兵入營ノ翌日各中隊ニ於テ讀法及ヒ誓文ヲ爲サシム其方法及ヒ列席ノ官左ノ如シ

中隊長 中少尉 曹長

但砲工及ヒ輜重兵ハ小隊騎兵ハ大隊ニ於テ其隊長之ヲ行フ

第二條 軍曹ハ部下ノ徵兵ヲ誘引シ中隊長ノ面前若干距離ノ地ニ於テ二線ニ布列ス

曹長ハ中隊長ノ側ニ位シ讀法ハケ條ヲ誦讀シ之ヲ聽聞セシム

第三條 讀法畢レハ其心志ノ確實ヲ證セシムル爲メ左式誓文牒ニ署名シ且ツ花押ヒシム

誓文條々

- 一 平時戰時トモ國家ノ爲メ身命ヲ擲テ忠勤ヲ盡シ可申事
- 一 長官並ニ上官ヨリ申付ラレ候儀如何ナル事ト雖モ誠實ニ相守リ可申事
- 一 平時戰時トモ脱走致申間敷事
- 一 父母ノ病氣タリト漫リニ歸省願ヒ申間敷事
- 右ノ條々違背仕間敷若シ之ニ背キ御掟ヲ破リ候節ハ公ケノ御處置有之ノミナラス神罰ヲ蒙リ可申依テ誓文如件

年月日

姓名花押

誓文終レハ各軍曹ノ指揮ニ從テ退散ス

第四章 生兵教導ノ定則

第一條 徵兵入隊後小隊科目即在表卒業迄ハ生兵ト稱シ專ラ教練ヲ主トスルヲ以テ當番及ヒ食事

番ノ外諸勤務及ヒ他ノ使役ヲ免除スル者トス

但騎砲及ヒ輜重兵ノ如キ乘馬兵ハ入營翌日ヨリ二ヶ月ヲ歷レハ既守衛ヲ命スル者トス

徵兵六ヶ月間演習スヘキ術科左表ノ如シ

步兵	騎兵	工兵	輜重兵	砲兵	野砲隊	同	同
體操術	體操術	體操術	體操術	體操術	體操術	體操術	體操術
生兵教練	乘隊備教練	生兵教練	乘隊備教練	生兵教練	野砲使用	乘同	乘同
小隊教練	乘生兵教練	小隊教練	乘生兵教練	野砲使用	野砲使用	野砲使用	野砲使用
徵兵教練	乘小隊教練	徵兵教練	乘小隊教練	小銃射的	乘小隊教練	小銃射的	小銃射的

第十一年陸軍省達第百六十四號達ヲ以テ改正

第十二陸軍省達第百三十七號達ヲ以テ文中改正

射的術	徒徵兵教練	射的術	徒射的術	小隊教練	徒小隊教練
徒射的術	對壕術之一部				駐馬術

生兵既ニ生兵教練ニ熟スレハ射的教練ニ從事シ小隊教練以下諸術科ト共ニ之ヲ演習ス而シテ小隊及ヒ徵兵ノ教練ニ習熟シ射的ノ演習粗終レハ大隊長之ヲ検査シ聯隊長ニ申告ス聯隊長ハ其熟否ヲ検査シ之ヲ司令將官ニ上申シ檢閱使ノ檢閱ヲ經テ二等兵卒ニ命セラル、者トス

但騎砲工及ヒ輜重兵ノ如キ現今聯隊編制ニ至ラサル者ハ大(小)隊長直ニ司令將官ニ上申ス

徵兵二等兵卒ノ命ヲ蒙レハ衛戍其他ノ諸勤務ニ服役シ且大隊教練ニ移ル而シテ此科ニ習熟シ射的術ヲ卒業スルハ諸教練等ハ總テ一般ノ兵卒ト同一ニ爲スヘシ

但騎兵ハ步兵ニ同シ砲兵ハ橋樑野堡ノ二科工兵ハ對壕抗道橋樑及ヒ野堡ノ四科輜重兵ハ馭者術及ヒ馭馬術トス

第二條 聯隊長ハ前條演習ノ休憩時間ヲ適宜ニ課シ各大隊長ニ命シ下士ヲシテ生兵ニ左ノ教科ヲ口授セシム

但騎砲工及ヒ輜重兵其他各地ニ分屯スル大隊ノ如キハ其大(小)隊長本條ニ準シ施行スヘシ

生兵口授ノ教則

第一科 陸軍一般ノ心得

第一 兵卒應記スヘキ兵隊ノ稱號

第二 所屬部隊ノ稱號

第三 武官ノ階級

第四 同階級ノ徽章

第五 自己ト同兵種ノ諸隊ノ區分
 第六 誓文及ヒ讀法
 第七 服從定則
 第八 願請訴訟
 第九 陸軍敬禮式

第二科 勤務一般ノ心得
 第一 被服器械ノ拂拭及身體ノ清潔
 但乘馬兵ニハ馬匹手入法ヲモ口授スヘシ

第二 室中ノ定則
 第三 給料及ヒ被服ノ定額

第三科 手銃一般ノ心得
 第一 手銃部分ノ名號
 第二 同解散及ヒ附接清拭法
 第三 同一般ノ注意
 但他ノ四兵ニ在テハ各科所用ノ兵器凡テ本條ニ準ス

第四科 衛戍一般ノ心得
 第一 衛戍ノ職務
 第二 哨兵ノ職務
 第三 斥候及ヒ巡察ノ問查
 第四 衛兵及ヒ哨兵敬禮

十二年陸軍省布第
十一號達第百二十一號
十四年同達第百二十一號
達ヲ以テ廢止

第三條 前條ノ教科ハ生兵中定課ノ諸演習ト同時ニ卒業スル者トス

第五章 營外歩行ノ定則

第一條 徵兵ハ生兵中日曜日及ヒ祝祭日ノ外營外歩行ヲ許サス且ツ假令ロ父母ノ疾病死亡ト雖モ
 歸省ヲ許サハル者トス然レモ已ムヲ得サル事情アレハ時トノ二十四時間内ノ外出ヲ許ス可シ

第二條 日曜日及ヒ祝祭日ニ於テ各組合ノ伍長其部下ノ生兵ヲ誘引シ營外遊歩ヲ爲サシム若シ伍
 長事故アリテ同伴シ難キハ他ノ組合伍長ニ托シ遊歩セシムヘシ

第三條 二等兵卒ノ命ヲ蒙レハ日曜日及ヒ祝祭日ニ於テ營外獨歩ヲ許スト雖モ猶務メテ戰友ト同
 伴センコトヲ要ス此時ニ當テハ伍長歸營ノ時限ヲ示シ且ツ之ニ注意スヘキ件々ヲ懇ロニ教諭スヘ
 シ

○達第百二十二號 (十一月十八日 陸軍省)

後備軍官員服務概則別冊之通相定候條此旨相達候事
 但後備軍管轄官員條例並ニ軍管派出徵兵課心得書ハ自今可爲廢止候事
 明治八年十一月十七日
 陸軍全部 鎮臺府縣

(別冊)

後備軍官員服務概則

第一條 後備軍ノ官僚ハ之ヲ分ツテ司令副官書記及ヒ府縣駐在曹長トス而卷末配置表ニ記載スル
 如ク各官各地ニ駐劄シ其管内後備軍下士兵卒ノ原簿ヲ掌リ而進退死没等總ヘテ其身上ニ關スル
 事件ヲ管理ス因ツテ其職掌ノ概則ヲ掲グルルノ如シ

第二條 司令ハ本臺司令長官ニ隸屬シ各師管ニ常駐シ副官以下ノ官僚ヲ管轄シ以一切ノ事務ヲ整

理ス抑此概則ニ於テ其事ノ舉カルト否サルトハ專其責ニ任スルヲ以假令瑣末ノ事タリモ細心注意シ以之ヲ施行スヘシ

第三條 副官ハ司令ノ命ニ服從シ常ニ之ヲ扶翼ス而後備軍會計ノ事務ニ至リテハ副官主トシテ之ヲ掌ル書記ハ司令及ヒ副官ニ關シ專記註書寫ノ事ヲ掌ル

第四條 府縣駐在曹長ハ該府縣ノ屬籍ニ非サル者ヲ以之ニ任ス而平常其府縣内後備軍下士兵卒ノ簿册ヲ掌ル若死没轉居脱走等一切ノ届出ハ區長ヨリ之ヲ管屬ニ差出サシメ管屬先ツ之ヲ曹長ニ移ス曹長ハ區長姓名ノ次へ更ニ署名押印シ而後領臺へ差出ス爲更ニ管屬ヨリ本人所屬ノ後備軍司令へ送致スル者トス故ニ曹長ハ署名押印ノ時ニ當リ必原簿ヲ訂正シ而召集ノ際差誤礙滞ナキヲ要ス

但第二後備軍服役中管外ニ所用アリテ其往先等届出ツルルハ曹長詳ニ之ヲ記シ置キ第一後備軍非常屯集ノ節ハ速ニ歸家セシムヘシ

第五條 第一後備軍服役中止ムヲ得サル事故アリ其管内ヲ出テソフヲ願フルハ第四條届書ヲ差出ス手順ト異ナルコトヲ司令ハ其事實ヲ審案シ非常ハ勿論復習期限ニ妨害ナキヤ否ヤヲ糾シ本臺へ具狀シテ施行スヘシ

但出願ノ事件已ニ許可セルルハ必司令ヨリ其趣キヲ府縣駐在曹長ニモ達スヘシ
第六條 後備軍服役中轉居スル者一軍管内ニ在ルルハ司令其原籍ヲ交互受送ス若他軍管ニ在ルルハ必之ヲ本臺司令長官ニ致シ以送達スヘシ

但略服及ヒ靴等ハ直ニ駐在曹長ヲシテ本人へ渡シ以新住地ノ駐在官へ差出サシム若屬下遠隔ノ地ニテ本人願ヒ依リ其費用ヲ償ヒ駐在官ヨリ直ニ送達ヲ請フルハ之ヲ許スモ妨ケナシ其他管ニ送ルルハ詳細其事由ヲ書シ以互ニ通知スヘシ

第七條 後備軍下士兵卒ノ略服及ヒ靴等ハ府縣駐在曹長常ニ之ヲ管掌シ敗毀損傷等之アルルハ其事由ヲ司令ニ開具スヘシ司令ハ之ヲ定規ニ照ラシテ取計フヘシ

第八條 例年常備及ヒ第一後備ノ滿期ニ當ルヘキ者ニ就キテ司令預府縣毎ニ兵種ヲ分チタル各役入籍ノ姓名帖ヲ作り先ツ之ヲ駐在曹長ニ移シ最寄市邑ニ連續シタル一列ノ番號ヲ記シ差出サシメ以各役各自ノ番號ヲ定メ本臺長官ノ許可ヲ受ケ其割符ヲ製シ曹長或ハ書記ヲシテ各兵へ授與セシム然ル後前役割符ヲ引上ケ滿期ノ印ヲ捺シ復曹長或ハ書記ヲシテ本人へ返付セシムヘシ
但第一後備滿期ノ者ハ四月一日在役ノ現員ニ依リ以割符ヲ製スル者トス尤モ滿期ナラスマテ不時ニ入籍スル者ハ本條ノ例ニ非ス

第九條 凡後備軍ニ編入スル者若本人ノ籍甲鎮臺管下ニ在リテ乙鎮臺ニ服役セルルハ乙鎮臺ニ於テハ常備免役申付之ヲ甲鎮臺ニ報告シ名簿等送達セシム故ニ甲鎮臺ニ於テハ司令其割符ヲ制シ駐在曹長ヲシテ之ヲ本人ニ授與セシムヘシ

第十條 後備軍割符ヲ製スル時ニ當リ常備簿ニ準シ各自ノ番號姓名ヲ記シ第二後備軍割符名簿ト題シ各二部ヲ製シ其一部ハ割符ト割印シ該師管ニ備置キ一部ハ本臺司令長官ノ手ヲ經テ本省へ差出スヘシ

但下士並ヒニ近衛兵ヨリ編入ノ者ハ該臺ニ於テ割符名簿ヲ差出セル節名簿定則中同斷取扱ヒノ法第三項ニ示シタル名簿更ニ相添ヘ同時ニ差出タスヘシ

第十一條 第一後備軍召集ノ件々ハ總ヘテ後備軍召集條例ニ詳ナルヲ以復茲ニ掲ケス尤第二後備軍ヲ召集スル等モ概同書ニ據テ以之ヲ行フ者トス
第十二條 復習及臨時召集ノ時其住所ヨリ營所迄ノ旅費ハ徵兵令參考第三十一條ニ準シ里程ノ遠近ニ應シ其管屬ニ於テ徵兵入費概則ニ照準シ一時立替ヘ渡シタル明細決算帖ヲ以先ツ駐在曹長

九年陸軍省達第百五十九號達ヲ以テ改正

ニ移シ曹長之ヲ點檢シ冊尾ニ署名押印シ而後鎮臺へ差出ス爲更ニ管廳ヨリ其後備軍司令へ送致スヘシ其歸郷ノ旅費ハ司令之ヲ鎮臺會計部ヨリ受取り書記ヲシテ直ニ之ヲ本人へ渡サシムヘシ但臺下ニ非サル營所ニ於テハ復習或ハ臨時召集ノ者到着ノ上其人員里程ヲ調ヘ司令ヨリ之ヲ鎮臺ニ報シ預メ其旅費ヲ受取り置キ歸郷ノ節亦書記ヲシテ之ヲ渡サシムヘシ

第十三條 復習全ク終レハ司令ハ即各聯隊ヨリ各兵復習中ノ勤惰若クハ不參又ハ罪科ヲ蒙リタル等ノ報告ヲ受ケ書記ヲシテ各自名簿ニ記注セシメ又之ヲ駐在曹長ニ報スヘシ

第十四條 後備軍諸官僚ハ固ヨリ後備軍ノ事務管轄ヲ以專任トスト雖平常更ニ徵兵ノ事務ヲ擔當スルヲ猶後備軍ニ於ケルト異ナルヲナシ故ニ常備及ヒ補充兵ノ原簿ヲ併セ掌リ而死沒脫走除役轉居等アルトハ即其原簿ヲ校正シ常時明瞭ナラシムヘシ

第十五條 常備并ニ補充兵ノ入營期日前ニ於テ各師管ノ司令本年同兵ノ明細連名籍ニ割印籤簿ヲ添へ其聯隊ニ送附スヘシ既入營ノ期日ニ至レハ其聯隊ニ於テハ右連名籍及ヒ籤簿ヲ以各兵ノ骨相并ニ所持ノ割符ヲ對照シ然ル後入營セシムル者トス故ニ司令ハ同時同所ニ參列シ各兵ヲシテ不都合ナキ様取扱フヘシ其師管中ニ保有スル營所へハ副官ヲシテ同時限ニ參列セシムヘシ其事務ハ司令ノ扱ヒト異ルコトナシ

第十六條 入營ノ兵卒途中或ハ營所外滞在中番號割符ヲ損傷遺失スルトハ司令其本人口書并ニ附添戸長ノ添書ヲ審按シ其罰除役以上ニ該ラサル者ト見認ムルトハ更ニ割符ヲ附與シ入營セシム其趣キヲ本臺司令長官へ具狀スヘシ

第十七條 常備新兵入營ニ當リ病氣或ハ他ノ事故ニテ入營遲延ノ者其事故既濟或ハ快起等ノ節ハ即日届出ヘキハ固ヨリナレ月日ヲ累テ病狀猶舊ニ仍ル者徵兵令參考第十一條ノ如ク届出ルトハ司令簡條詳細書ヲ以本臺司令長官ノ手ヲ經テ本省へ差出スヘシ

第十八條 常備缺員ヲ補フ爲補充兵ヲ要スルトハ一軍管内府縣ヲ平均シ補充番號順序ニ入營セシムヘキヲ以臺下ノ司令府縣毎ニ同年常備ノ最高番號ヲ調ヘ同府縣同年補充番號ノ最低番號ヨリ順序ニ續昇リ同年同府縣内ニ同番號無キ様ニ以各自ノ番號ヲ定ムル者トス但割符ハ該司令ニ於テ製スヘシ

第十九條 補充兵ヨリ常備兵トナル者ノ籤簿ハ各二部ヲ製シ割符ト割印シタル一部ハ該師管ニ備置キ一部ハ本臺司令長官ノ手ヲ經テ本省へ差出スヘシ

第二十條 每歲各府縣ニ於テ徵兵諸名簿編制ノ上ハ先ツ駐在曹長ニ移シ曹長一應之ヲ取札シ冊尾へ署名押印シ而後徵兵令第六章第十三條ニ準シ更ニ管廳ヨリ本省へ差出スヘシ且徵兵署開設中ハ該官同署ニ出頭シ兼テ見聞スル所ノ地方ノ實況ヲ徵兵使ニ申告シ又ハ同使ノ指揮ヲ受ケ共事務ヲ助クヘシ

第二十一條 臺下駐劄ノ司令ハ軍管内其他ノ司令ハ每師管府縣ノ陸軍兵籍ニ入ル者ノ名簿ヲ備置キ死沒轉居處刑及ヒ脱籍等一切ノ事故ハ其所管ヨリノ報告ヲ以明瞭ニ記錄シ有事ノ日之ヲ募ルニ淹滞無ラシメシムコトヲ要ス依ツテ其帖簿ヲ分ツ左ノ如シ

常備兵明細連名籍 補充兵明細連名籍
第一後備軍名簿 第二後備軍名簿

第二十二條 總ヘテ此概則中鎮臺司令長官ノ手ヲ經テ本省へ差出スヘキ者或ハ本臺ニ於テ取扱フヘキ事務ハ其臺下常駐ノ司令擔任集成シテ之ヲ施行スヘシ

明治八年十一月 陸軍省 達 第百二十二號 (後備軍官員服務規則)

六	鎮	師	營	少	佐	大	尉	中	尉	少	尉	曹	長	軍	曹	伍	長	
	東	京	第	一	司	令	副	官	府	縣	駐	在	記	官	縣	駐	在	記
	東	京	第	二	司	令	副	官	府	縣	駐	在	記	官	縣	駐	在	記

九年陸軍省達第百十八號達ヲ以テ改正

備考	表 級 等 員 官 軍 備 後 盡 領 管										
	熊本		廣島		大阪		名古屋		仙臺		
表中官員定位アリト雖現今人員未タ備ハラサルヲ以テ或ハ上級ノ職ヲ兼シ或ハ下級ノ勤ニ服セシムルコト有ルヘシテ下ノ書記ハ曹長一名ヲ加ヘ其他ハ軍曹伍長ノ中ヲ以テス	第十四	第十三	第十二	第十一	第十	第九	第八	第七	第六	第五	第三
	司令	司令	司令	司令	司令	司令	司令	司令	司令	司令	司令
	副司令	副司令	副司令	副司令	副司令	副司令	副司令	副司令	副司令	副司令	副司令
	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官
	縣駐在	縣駐在	縣駐在	縣駐在	縣駐在	縣駐在	府縣駐在	縣駐在	縣駐在	縣駐在	縣駐在
	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書	書
	記	記	記	記	記	記	記	記	記	記	記

第十九年陸軍省達第百二十八號修正

第一		第六		第四		第八	
管師一第	管師一第	管師一第	管師一第	管師一第	管師一第	管師一第	管師一第
書記	副官	司令	司令	書記	副官	司令	司令
三	一	一	一	三	一	一	一
縣	府	管	管	縣	府	管	管
熊	山	靜	足	崎	神	東	京
谷	梨	岡	崎	玉	奈	川	京
一	各	長	曹	一	各	長	曹

達第百三十號達ヲ以テ正誤

考 備	管 軍 三 第		管 軍 二 第		管 軍	
	司令副官及書記ハ師管營所ノ地ニ居住シ曹長ハ府縣廳下ノ地ニ居住ス 一縣他鎮守或ハ兩師管ニ跨ルモ曹長一名ヲ以テ之ニ任ス	管師七第	管師六第	管師五第	管師四第	管師三第
書記		副官	司令	書記	副官	司令
	一	一	二	一	一	二
	縣	管	縣	管	縣	管
	敦	新	石	愛	筑	波
	賀	川	川	知	摩	松
	一	各	長	曹	一	各
	管	軍	六	第	管	軍
	管師四十第	管師三十第	管師二十第	管師一十第	管師十第	管師九第
	書記	副官	司令	書記	副官	司令
	二	一	一	三	一	一
	縣	管	縣	管	縣	管
	長	佐	三	福	小	大
	崎	賀	猪	岡	分	島
	一	各	長	曹	一	各
	管	軍	六	第	管	軍
	管師四十第	管師三十第	管師二十第	管師一十第	管師十第	管師九第
	書記	副官	司令	書記	副官	司令
	二	一	一	三	一	一
	縣	管	縣	管	縣	管
	長	佐	三	福	小	大
	崎	賀	猪	岡	分	島
	一	各	長	曹	一	各

後備軍官服務概則附錄

第一條 後備軍官僚ハ現今第一第三及ヒ第四軍管中ニ含有スル各師管ニ共全員ヲ備ヘ他ノ軍管ニ在テハ司令副官各一名書記二名若クハ三名ヲシテ暫ク本營下ニ駐劄シ軍管内後備軍下士兵卒及ヒ徵兵ノ事務ヲ取扱ハシメ師管毎ニ之ヲ置カス而シテ其職掌ノ如キハ凡テ概則中ニ示ス權限ニ異ナルコトナシ若シ新兵入營其他臨時ノ事故アリテ師管毎ニ出張ヲ要スルハ本營下常駐ノ中ヨリ分派スヘシ

第二條 總テ司令ヨリ府縣駐在曹長ヲシテ各兵ニ達スヘキ諸布令其他劄符授與等ノ如キハ該區戶長ヲシテ本人ニ達セシムル爲メ其管轄屬ニ送達スヘシ

第三條 府縣廳ニ於テハ駐在曹長ノ署名押印ヲ要スヘキモノ或ハ本人所屬ノ司令ニ送達スヘキ各自ノ願屆等ハ凡テ管轄屬ヨリ其領臺ニ送致スヘシ

但例年進達ノ徵兵諸名簿ハ直ニ本省ニ進達スヘシ

陸軍全部

太政官第五十四號 達第百二十三號

各官僚ニ於テ使役ノ職工並人夫其職事ノ爲メニ死傷候節ハ本年太政官達官役人夫手常規則ノ通ルヘク候へ共右取計手順ノ儀自今各所管長官ニ於テ規則ニ照準シ處分ノ上其旨詳細可届出此旨相達候事

陸軍全部

第十三號陸軍省達第百二十三號 達第百二十三號 達第百二十四號

○達第百二十四號 (十一月二十四日) 明治七年二月下士服役期限定期發行前壯兵ヨリ任用ノ下士ニシテ服役年限未定ノ者服役期限ノ儀其拜命ノ日ヨリ滿四ヶ年近衛隊附ノ下士ハ其附屬スル日ヨリ滿五ヶ年ト相定候旨同年布第五十六號ヲ以テ相達候處右下士ノ内其後近衛ヨリ領臺ニ或ハ領臺ヨリ近衛ニ遷轉候者ト雖モ最初相定候通ノ年限ヲ服役可致儀ト可相心得此旨相達候事

達第百二十四號 達第百二十四號

○達第百二十五號 (十一月二十四日)

陸軍各兵下士並近衛下士俸給表別表之通改訂候條此旨相達候事

陸軍全部

(別表)

官名		兵種		等級		日		均平		ヶ月		一	
曹長		曹											
步	一等	步	一等	七圓八拾壹錢七厘	九拾三圓八拾〇錢五厘	步	一等	七圓八拾壹錢七厘	九拾三圓八拾〇錢五厘	步	一等	七圓八拾壹錢七厘	九拾三圓八拾〇錢五厘
騎	一等	騎	一等	八圓六拾九錢八厘	八拾〇圓三拾〇錢	騎	一等	八圓六拾九錢八厘	八拾〇圓三拾〇錢	騎	一等	八圓六拾九錢八厘	八拾〇圓三拾〇錢
砲	一等	砲	一等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢	砲	一等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢	砲	一等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢
工	一等	工	一等	九圓〇三錢	九拾六圓三拾六錢	工	一等	九圓〇三錢	九拾六圓三拾六錢	工	一等	九圓〇三錢	九拾六圓三拾六錢
輜	一等	輜	一等	八圓三拾九錢九厘	九拾六圓三拾六錢	輜	一等	八圓三拾九錢九厘	九拾六圓三拾六錢	輜	一等	八圓三拾九錢九厘	九拾六圓三拾六錢
步	二等	步	二等	八圓〇三錢	九拾六圓三拾六錢	步	二等	八圓〇三錢	九拾六圓三拾六錢	步	二等	八圓〇三錢	九拾六圓三拾六錢
騎	二等	騎	二等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢	騎	二等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢	騎	二等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢
砲	二等	砲	二等	六圓九拾九錢三厘	八拾七圓四拾七錢	砲	二等	六圓九拾九錢三厘	八拾七圓四拾七錢	砲	二等	六圓九拾九錢三厘	八拾七圓四拾七錢
工	二等	工	二等	八圓三拾九錢九厘	九拾六圓三拾六錢	工	二等	八圓三拾九錢九厘	九拾六圓三拾六錢	工	二等	八圓三拾九錢九厘	九拾六圓三拾六錢
輜	二等	輜	二等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢	輜	二等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢	輜	二等	七圓三拾六錢九厘	八拾八圓三拾三錢
步	三等	步	三等	六圓九拾九錢三厘	八拾七圓四拾七錢	步	三等	六圓九拾九錢三厘	八拾七圓四拾七錢	步	三等	六圓九拾九錢三厘	八拾七圓四拾七錢
騎	三等	騎	三等	六圓四拾七錢九厘	八拾四圓三拾九錢	騎	三等	六圓四拾七錢九厘	八拾四圓三拾九錢	騎	三等	六圓四拾七錢九厘	八拾四圓三拾九錢
砲	三等	砲	三等	五圓九拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	三等	五圓九拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	三等	五圓九拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
工	三等	工	三等	五圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	工	三等	五圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	工	三等	五圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
輜	三等	輜	三等	五圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	輜	三等	五圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	輜	三等	五圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢
步	四等	步	四等	四圓九拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	四等	四圓九拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	四等	四圓九拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
騎	四等	騎	四等	四圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	四等	四圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	四等	四圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
砲	四等	砲	四等	四圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	砲	四等	四圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	砲	四等	四圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢
工	四等	工	四等	三圓九拾九錢三厘	八拾三圓九拾九錢	工	四等	三圓九拾九錢三厘	八拾三圓九拾九錢	工	四等	三圓九拾九錢三厘	八拾三圓九拾九錢
輜	四等	輜	四等	三圓五拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	四等	三圓五拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	四等	三圓五拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
步	五等	步	五等	三圓一拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	五等	三圓一拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	五等	三圓一拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
騎	五等	騎	五等	二圓七拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	五等	二圓七拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	五等	二圓七拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
砲	五等	砲	五等	二圓三拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	五等	二圓三拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	五等	二圓三拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
工	五等	工	五等	二圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	五等	二圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	五等	二圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢
輜	五等	輜	五等	一圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	五等	一圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	五等	一圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
步	六等	步	六等	一圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	六等	一圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	六等	一圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
騎	六等	騎	六等	一圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	六等	一圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	六等	一圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
砲	六等	砲	六等	一圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	六等	一圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	六等	一圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
工	六等	工	六等	一圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	六等	一圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	六等	一圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢
輜	六等	輜	六等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	六等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	六等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
步	七等	步	七等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	七等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	七等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
騎	七等	騎	七等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	七等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	七等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
砲	七等	砲	七等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	七等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	七等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
工	七等	工	七等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	七等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	七等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢
輜	七等	輜	七等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	七等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	七等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
步	八等	步	八等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	八等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	八等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
騎	八等	騎	八等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	八等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	八等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
砲	八等	砲	八等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	八等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	八等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
工	八等	工	八等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	八等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	八等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢
輜	八等	輜	八等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	八等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	八等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
步	九等	步	九等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	九等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	步	九等	〇圓二拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
騎	九等	騎	九等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	九等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	騎	九等	〇圓八拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
砲	九等	砲	九等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	九等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	砲	九等	〇圓四拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢
工	九等	工	九等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	九等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢	工	九等	〇圓〇三錢	八拾三圓九拾九錢
輜	九等	輜	九等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	九等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢	輜	九等	〇圓六拾七錢九厘	八拾三圓九拾九錢

明治八年十一月 陸軍省 達第百二十五號

伍長		砲		工		輜	
一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等
拾貳錢七厘	拾壹錢四厘	拾貳錢七厘	拾壹錢四厘	拾貳錢七厘	拾壹錢四厘	拾貳錢七厘	拾壹錢四厘
三圓八拾六錢三厘	三圓四拾六錢八厘	三圓八拾六錢三厘	三圓四拾六錢八厘	三圓八拾六錢三厘	三圓四拾六錢八厘	三圓八拾六錢三厘	三圓四拾六錢八厘
四拾六圓三拾五錢五厘	四拾六圓三拾五錢五厘	四拾六圓三拾五錢五厘	四拾六圓三拾五錢五厘	四拾六圓三拾五錢五厘	四拾六圓三拾五錢五厘	四拾六圓三拾五錢五厘	四拾六圓三拾五錢五厘

近衛各兵下士俸給表

曹長		曹		砲		工		輜		步		騎	
一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等
貳拾七錢三厘	貳拾五錢八厘	貳拾七錢三厘	貳拾五錢八厘	貳拾七錢三厘	貳拾五錢八厘	貳拾七錢三厘	貳拾五錢八厘	貳拾七錢三厘	貳拾五錢八厘	貳拾七錢三厘	貳拾五錢八厘	貳拾七錢三厘	貳拾五錢八厘
八圓三拾〇錢四厘	七圓八拾五錢八厘	八圓三拾〇錢四厘	七圓八拾五錢八厘	八圓三拾〇錢四厘	七圓八拾五錢八厘	八圓三拾〇錢四厘	七圓八拾五錢八厘	八圓三拾〇錢四厘	七圓八拾五錢八厘	八圓三拾〇錢四厘	七圓八拾五錢八厘	八圓三拾〇錢四厘	七圓八拾五錢八厘
九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘	九拾九圓六拾四錢五厘

伍長		砲		工		輜	
一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等
拾六錢七厘	拾五錢四厘	拾六錢七厘	拾五錢四厘	拾六錢七厘	拾五錢四厘	拾六錢七厘	拾五錢四厘
四圓〇八錢	四圓〇八錢	四圓〇八錢	四圓〇八錢	四圓〇八錢	四圓〇八錢	四圓〇八錢	四圓〇八錢
六拾〇圓九拾五錢五厘	六拾〇圓九拾五錢五厘	六拾〇圓九拾五錢五厘	六拾〇圓九拾五錢五厘	六拾〇圓九拾五錢五厘	六拾〇圓九拾五錢五厘	六拾〇圓九拾五錢五厘	六拾〇圓九拾五錢五厘

○達第百二十六號 (十一月二十七日) 陸軍全部

今般陸軍武官制服制改正相成候ニ付テハ佐尉官准士官并ニ右同等ノ票所用ノ正劍軍刀並ニ右ニ屬スル帶緒及飾帶ハ本省ニ於テ製作ノ上相渡代價ハ月賦ヲ以テ上納爲致候旨ニ有之候條爲心得此旨相達候事

但正劍軍刀及附屬具ハ第三局飾帶ハ第五局ニ於テ調製ノ上直ニ可相渡候條各所管ニテ官姓名書取廻メ前以テ兩局ヘ差出置可申候事

○達第百二十七號 (十一月二十五日 輪原附) 陸軍全部

陸軍游泳概則別冊之通相定候條此旨相達候事

明治八年十一月二十二日

游泳概則 第一條 凡ソ軍人游泳術ヲ精究練熟スルハ軍隊一般必須ノ要件トス游泳術ニ熟セサレハ溺没ノ憂アルヲ以テ平時戰時ヲ論セズ涉水ニ臨ミ遂巡シテ事機ヲ誤ルニ至リ及ヒ水中動作ニ從事スルコト能ハス是レ其必須ナル所以ナリ

第二條 游泳演習ハ軍隊教練必須ノ一部タルヲ以テ毎年暑中各隊ニ於テ之ヲ演習スヘシ但游泳ニ適宜ナル場所ナキ地ニ屯駐シ已ムヲ得サル兵隊ニ在テハ此限ニアラス

第三條 游泳ノ時日ハ各地ノ氣候ニ依テ斟酌セサル可カラスト雖而概テ毎年六月十五日ヨリ九月

明治八年十一月 陸軍省 達 達第百二十六號 達第百二十七號

○達第百二十六號 (十一月二十七日) 陸軍全部
○達第百二十七號 (十一月二十五日 輪原附) 陸軍全部

第十五日ニ至ルノ間ヲ以テ近衛鎮臺教導團ノ長官其時日ヲ定メ陸軍卿ニ報告スヘシ
第四條 游泳場ハ川海若クハ池等ニ就テ水質ノ良否清濁水勢ノ緩急深淺廣狹等ヲ精密ニ實檢シテ之ヲ選定スヘシ

第五條 各隊長或ハ游泳主管ノ上長官毎年游泳時期ニ先チ教官兼任ノ士官ヲ誘ヒ行キ務テ屯營ノ近所ニ於テ游泳場ヲ撰ミ軍醫ヲシテ水質ヲ檢査セシメ而後其隊長ヨリ所管ノ司令長官ニ詳細具狀シ裁決ヲ請フ長官可否ヲ決シ許可ノ上ハ陸軍卿ニ其旨ヲ報告スヘシ

第六條 游泳場ハ衛(營)(團)(營所)ノ長官ヨリ其地方官或ハ他官廳所轄ノ場所ナレハ其廳ノ官員ト商議ノ上之ヲ定メ游泳器械ノ設備及ヒ災害豫防ノ方法其他地方關係ノ事項ハ一々諮議ヲ遂ケ承諾ノ上施行致シ其趣長官ヨリ陸軍卿ニ報告スヘシ

第七條 各聯隊ニ在テハ大隊長一名又分屯隊及騎砲工輜重兵ノ大(小)隊ニ在テハ其隊長游泳一般ノ事務ヲ總理シ士官以下ヲシテ教官ヲ兼任セシム其人員左ノ表ニ掲ケル如シ

兵種	教官				遊手
	每一大隊	每一小隊	每一中隊	每一小隊	
歩兵科	三	《	《	《	若干
騎兵科	二	《	三	《	若干
砲兵科	二	《	三	《	若干
工兵科	《	二	《	三	若干
輜重兵科	《	一	《	二	若干

遊手ハ兵卒中未熟ナル者ノ多キニ隨テ多員ヲ要スルヲ以テ豫メ定員ナシト雖モ概シ兵卒六名乃至十二名ニ就キ一名ノ比例ヲ以テ適宜トス

分屯隊ニ在テモ人員十名以上ニハ教官一名九名以下ニハ助教一名ヲ附スヘシ

第八條 教官ハ隊中尉官ノ内游泳術ニ最熟練ノ者ヲ撰ミテ之ヲ兼任セシム其職掌ハ游泳主管ノ上官ニ隸シテ隊中ノ游泳ヲ教導シ兼テ游泳場一般ノ監視ヲ司トリ且其事務ニ就テハ主管ノ上官ヲ補翼スル者トス

第九條 助教ハ下士ノ游泳術ニ最熟達セル者ノ兼任ニシテ教官ノ令ヲ奉シテ下士已下ニ游泳ヲ教導シ禁令ノ條款ヲ嚴守セシメ殊ニ演習ノ際ハ百方ニ注目シテ溺没ノ憂ナキ操警戒ヲ加ヘ且遊手ヲシテ丁寧ニ兵卒ヲ教導セシムルヲ任トス

第十條 但其伍長ニテ兼任セル者ハ成ヘク伍長以下ノ教導ヲ掌トルヘシ

第十一條 游泳場ノ廣狹ト總人員ノ多寡ニ由テ一隊同時ニ演習ヲ爲シ或ハ其隊ヲ適宜ニ分割シテ順次ヲ定メ平等ニ演習セシムヘシ然レモ少クモ一週間ニ二回或ハ三回ノ演習ヲ爲スヘキヲ要ス

第十二條 毎年游泳ヲ始ムルニ先チテ各隊長其部下ニ禁令ノ條款ヲ告諭シ之ヲ嚴守セシムルヲ要ス其條款各地ノ景況ニ應シテ特別ニ戒ムヘキ者亦之有リト雖モ一般普通ニ箴戒スヘキ概略ヲ示ス左ノ如シ

其一 病ニ罹ル者ハ假令輕微ノ症ト雖モ軍醫ノ許可ヲ得サル者ハ游泳スルヲ禁ス
其二 發汗セシ時直ニ水中ニ入ルコト勿レ暫ク休憩シテ汗ノ乾キタル後入ルヘシ

其二 水中ニ入ルハ先ツ頭部ニ水ヲ濃キ兩耳ヲ濕シ且水中ニ在ル間時々頭部ヲ水中ニ浸スヲ要ス

其四 飲食ノ后直ニ水中ニ入ルヲ禁ス
其五 疲勞スルニ至ル迄游泳ヲ久フスルコト勿レ

其六 游泳中水漲ニ遭フ時ハ疾速ニ上陸シ歸營ノ理裝ヲ爲スヘシ

第十三條 諸武學生徒ニ在テモ此概則ニ照準シ適宜ニ游泳場ヲ設ケテ每歲演習スヘキ者トス
○達第百二十八號 (十一月二十七日) 陸軍全部

十六年陸軍省達乙
第四十二號達ニ依
リ消滅

今般御改正相成候陸軍武官服制圖例中飾緒ハ參謀科及ヒ傳令使而已之ヲ用ユト有之候處去ル七年七月三日布第百五十九號ヲ以テ相達置候准官參謀科ノ將校ト雖モ各共本科ノ服相用候ハ勿論ニ候得共右參謀科ノ飾緒ハ着用不苦儀ト可相心得此旨相達候事

十八年陸軍省達乙
第二十號達ヲ以テ
概則廢止

○達第百二十九號 (十二月二日) 陸軍全部

十四年陸軍省達甲
第七號達ニ依リ消
滅

本年十月達第七十六號ヲ以テ相達候砲兵本廠生徒概則第一條中鑄工ノ下現今未タ置カス之七字刪除候條此旨更ニ相達候事

鎮臺府縣

○達第百三十號 (十二月二日) 陸軍全部

達第百三十七號達
委右十九年陸軍省
令乙第十號ニ依リ
消滅

本年十一月達第百二十二號ヲ以テ相達候後備軍官員服務概則中六管鎮臺後備軍官員配置表第七師管ノ線畫内書記ノ下「一」トアルハ「二」ノ誤ニ候條此旨相達候事

陸軍全部

各所兵營煖室燈代用火鉢備附ノ儀是迄於第五局取扱來候處自今工兵方面ニ於テ取計候様相達候條此旨相達候事

十一年陸軍省達乙
第六十六號達乙第
六十七號達委右

○達第百三十二號 (十二月三日) 陸軍全部

陸軍全部

後備軍兵卒等級ノ備置下士及ヒ一等卒ノ者ハ一等卒ニ二等卒ノ者ハ如故二等卒ニ相定候條此旨相達候事

九年陸軍省達第八
十九號達ニ依リ消
滅

○達第百三十三號 (十二月五日) 陸軍全部

陸軍全部

將校病引及蹄省中減給方法ノ儀内務書發行以後ノ分於各所管決算ノ儀ハ俸給全數ヲ本拂ニ相立病引等ハ實費決算表ニ組入別途返納可致此旨相達候事

十一年陸軍省達乙
第五十一號達ニ
依リ消滅

○達第百三十四號 (十二月五日) 陸軍全部

陸軍全部

今般太政官第百四號御達ニ相成候ニ付テハ自今勅奏任官任叙請書宛所ノ儀ハ式部寮宛ニ可相認此旨相達候事

二十一年陸軍省達
達第百四十三號
達委右

○達第百三十五號 (十二月七日) 陸軍全部

陸軍全部

各病院及ヒ病室ニ於テ自辨ヲ以テ治療ヲ受候者藥價ノ儀自今一日分金四錢二厘ツ、可相納此旨相達候事

九年陸軍省達第十
七號達委右十九年
陸軍省令第十號ニ
依リ消滅

○達第百三十六號 (十二月八日) 陸軍全部

陸軍全部

諸官廨兵營等ハ備附ノ煖爐及扈厨等ノ烟突掃除ノ儀ハ自今各工兵方面ニ於テ時々見計ヲ以テ施行可致此旨相達候事

十二年陸軍省達乙
第七十六號達ヲ以
テ本支廢止

○達第百三十七號 (十二月九日) 陸軍全部

陸軍全部

各所兵營煖室燈代用火鉢備附ノ儀自今工兵方面ニ於テ取計候旨本年達第百三十一號ヲ以テ相達置候處各生徒室及ヒ病院並病室共兵營同様工兵方面ニ於テ爲取計候條此旨相達候事

九年陸軍省達第三
十號達委右十九年
陸軍省令第十號ニ
依リ消滅

○達第百三十八號 (十二月九日) 陸軍東京部内

陸軍東京部内

但願中備附ノ儀ハ從前ノ通可相心得候事

十九年勅令第四十八號ヲ以テ取制改正

十六年陸軍省達乙第四百四號達ヲ以テ廢止

十六年陸軍省達乙第四百四號達ヲ以テ附則ヲ定ム

十五年陸軍省達乙第六十二號達ヲ以テ文中改正

十五年陸軍省達乙第六十二號達ヲ以テ文中改正

檢閱使技術並室内細密検査致候節此度ニ限り軍服用候儀モ有之候條爲心得此旨相達候事

○達第三百二十九號 (十二月十二日)

陸軍全部

改正陸軍制服圖樣章第五圖第六圖へ會計軍醫馬醫部云々ト記載ノ中「軍醫馬醫」ノ四字衍字ニ付刷去候條此旨相達候事

○達第四百十號 (十二月十三日 輪廊附)

陸軍全部

鎮臺營所犯罪處置條例別冊之通相定候條此旨相達候事
但從前之鎮臺本分營犯罪處置條例ハ廢止ニ屬シ候事

明治八年十二月十日

(別冊)

鎮臺營所犯罪處置條例

第一條 凡隊中罪犯有テ發覺シ若クハ未タ發覺セサルモ疑ノ容ルヘキ者アレハ上級ノ官ヨリ速ニ停住ヲ命スルヲ法トス

但其罪犯他隊ニ屬スル者ハ之レヲ其所管ノ長官ニ報シ停住ヲ命セシム

第二條 既ニ停住ヲ命シタル上ハ直ニ長官ニ申告シ長官共罪狀ヲ審辨シ其犯罪營内諸規ニ係リ懲罰ニ屬スヘキト軍律ニ係リ軍法會議ニ屬スヘキトヲ分辨シ各其處置ニ從フヘシ

第三條 凡懲罰ハ一隊ノ長官ニ委任セラレタルヲ以テ犯罪懲罰ニ係ル者ハ其成典ヲ守リテ罰ニ處スルハ一ニ長官ノ權内ニ在リテ他ニ論及スルコトナシ

第四條 其犯罪軍律ニ係リ軍法會議ニ屬スヘキ者ハ先ツ主理副官ト議シ之レヲ訊問シ供狀ヲ作り末尾ノ糺彈ニ至リ犯罪人ノ階級ニ從ヒ議長議員列坐左ノ如シ

罪犯階級	議長階級	議員階級
下士兵卒	大佐或中佐	少佐一人 大尉二人 中尉一人 少尉一人 曹長一人
少尉	同	少佐一人 大尉二人 中尉二人 少尉二人
中尉	同	少佐一人 大尉二人 中尉二人
大尉	大佐	中佐一人 少佐二人 大尉二人
少佐	少將	大佐四人 中佐二人 少佐二人
中佐	同	大佐四人 中佐二人
大佐	中將	少將四人 大佐二人
少將	大將	中將四人 少將二人
中將	同	大將二人 中將四人
大將	同	大將海軍三人 中將三人

十五年陸軍省達乙第六十二號達ヲ以テ第六條ヲ加ヘ第五條ヲ六條ニ改ム

右列坐少將以下ハ鎮臺ノ司令將官即チ中將ヨリ之レヲ命ス中將以上ハ陸軍部之ヲ命ス
第五條 共會議ニ附スルハ期日ニ於テ席ヲ設ケ議長議員列シ犯人ヲ其前ニ引カレテ書記筆硯ヲ取テ傍ニ坐シ以テ詢問ヲ始ム其位置左ノ如シ

明治八年十二月 陸軍省 達 第三百四十號

(印ハ赤)

監獄長官
 ○○○○○○
 書記
 ○○○○○○
 監手
 ○○○○○○
 罪囚
 ○○○○○○
 監獄
 ○○○○○○

△ハ定位ニシテ其糾弾スル者席ヲ移ス○ノ位置ノ如シ

但職員ノ多少本文定則アリト雖當分兵員些少ニ付必ス拘泥スヘカラス且會計部並軍醫部等ノ大小武官ニ於ル皆其犯人ノ階級ニ從ヒ此表ト異ナルコトナシ准士官及試補ノ官ハ少尉ノ地位ニ

文官奏任以上ハ尉官以上ノ等級ニ判任ハ下士ニ等外ハ兵卒ニ準シテ法ノ如ク區處スヘシ

第六條 凡罪狀未タ明瞭ナラスト雖重大ノ見込アリテ逃走自盡等ノ惡レアル者ハ狀ヲ盡シテ長官

ニ申告シ或ハ監倉ニ錮シ或ハ牢獄ニ投スルヲ得ヘシ

第七條 凡推鞠ノ法主理專ラ之ニ任シ勉メテ諸證ニ據リ辨詰シ漫リニ暴酷掠治スルヲ許サス書記曹長傍ニ在リテ書記ハ犯人ノ口語ヲ記上シ曹長ト同シク問々解諭說導シ犯人ヲシテ誑瞞ノ心ヲ去リ懼怖服罪ノ害ナク其情ヲ盡サシムヘシ

但書記事務多端ニ涉ル時ハ曹長ノ中其任ニ堪ル者ヲ撰ミ之ニ充ツ

第八條 其罪犯據證的確ニシテ猶剛情首伏セサル者始メテ拷掠究治スルヲ許ス

第九條 凡營所ニ在テ下士兵卒放逐以下ノ刑ニ當ル者ハ法ノ如ク會議ニ附シ直ニ處決スルヲ許ス

徒刑以上ニ當ル者ハ獄ニ錮シ時ヲ以テ本營ニ附スヘシ其鎖臺ニ於ル下士兵卒徒以下ノ刑ニ當ル

十五年陸軍省達乙
 第七十一號達乙
 第六十二號達乙
 第五十五號達乙
 第五十六號達乙
 第五十七號達乙
 第五十八號達乙
 第五十九號達乙
 第六十號達乙
 第六十一號達乙
 第六十二號達乙
 第六十三號達乙
 第六十四號達乙
 第六十五號達乙
 第六十六號達乙
 第六十七號達乙
 第六十八號達乙
 第六十九號達乙
 第七十號達乙
 第七十一號達乙
 第七十二號達乙
 第七十三號達乙
 第七十四號達乙
 第七十五號達乙
 第七十六號達乙
 第七十七號達乙
 第七十八號達乙
 第七十九號達乙
 第八十號達乙

同上

十二年陸軍省達乙
 第二十二號達乙
 第二十三號達乙
 第二十四號達乙
 第二十五號達乙
 第二十六號達乙
 第二十七號達乙
 第二十八號達乙
 第二十九號達乙
 第三十號達乙
 第三十一號達乙
 第三十二號達乙
 第三十三號達乙
 第三十四號達乙
 第三十五號達乙
 第三十六號達乙
 第三十七號達乙
 第三十八號達乙
 第三十九號達乙
 第四十號達乙
 第四十一號達乙
 第四十二號達乙
 第四十三號達乙
 第四十四號達乙
 第四十五號達乙
 第四十六號達乙
 第四十七號達乙
 第四十八號達乙
 第四十九號達乙
 第五十號達乙

十五年陸軍省達乙
 第六十二號達乙
 第六十三號達乙
 第六十四號達乙
 第六十五號達乙
 第六十六號達乙
 第六十七號達乙
 第六十八號達乙
 第六十九號達乙
 第七十號達乙
 第七十一號達乙
 第七十二號達乙
 第七十三號達乙
 第七十四號達乙
 第七十五號達乙
 第七十六號達乙
 第七十七號達乙
 第七十八號達乙
 第七十九號達乙
 第八十號達乙

同上

十五年陸軍省達乙
 第六十一號達乙
 第六十二號達乙
 第六十三號達乙
 第六十四號達乙
 第六十五號達乙
 第六十六號達乙
 第六十七號達乙
 第六十八號達乙
 第六十九號達乙
 第七十號達乙
 第七十一號達乙
 第七十二號達乙
 第七十三號達乙
 第七十四號達乙
 第七十五號達乙
 第七十六號達乙
 第七十七號達乙
 第七十八號達乙
 第七十九號達乙
 第八十號達乙

十二年陸軍省達乙
 第七十二號達乙
 第七十三號達乙
 第七十四號達乙
 第七十五號達乙
 第七十六號達乙
 第七十七號達乙
 第七十八號達乙
 第七十九號達乙
 第八十號達乙

者ハ直ニ之ヲ處決シ死刑ニ當ル者ハ狀ヲ具シ本省ニ報シ陸軍裁判所ノ論決ヲ經卿之ヲ奏請シ上裁ヲ取リ該臺ニ移シテ正ニ刑ニ行ハシム

但東京ニ在テハ錮二十八日以上ノ罪犯アル毎ニ裁判所ニ附シテ處置セシム

第十條 其尉官ノ犯罪軍律ニ當ル者ハ法ノ如ク會議ニ附シ其罪閉門以下ハ司令將官直ニ之ヲ處決

シテ後チ本省ニ報スヘシ其降官以上或ハ輕罪ト雖疑似決シ難キ者及佐官ノ犯罪ハ狀ヲ具シテ本省ニ報シ陸軍裁判所ノ論決ヲ經卿之ヲ上請シテ上裁ヲ取ルヲ要ス

第十一條 其營所佐尉官ノ犯罪ハ停任ヲ命シタル上本省ニ送附シ法ノ如ク處置ス

第十二條 凡鎖臺營所等臨時出張ノ枝隊ハ軍律ニ當ルノ罪犯ヲ處斷スルヲ許サス皆所管ノ鎖臺營所ニ送附スヘシ

○達第四百一十一號 (十二月十三日) 陸軍全部

先般武庫司被廢候ニ付事務爲取摺元同司中へ兵器取摺掛ヲ置候處右御用相濟候ニ付悉皆爲引拂候條此旨爲心得相違候事

○達第四百一十二號 (十二月十四日 輪廓附) 陸軍全部

當省條例中第一條卿官房職員別紙之通改正候條爲心得此旨相違候事

(別紙)

陸軍省條例

第一條 卿一人

卿官房

房長參謀大佐一人 副長參謀中佐一人 傳令使參謀少佐一人

砲兵少佐一人 傳令尉官步兵大尉一人 騎兵大尉一人

明治八年十二月 陸軍省 達 達第四百一十一號 達第四百一十二號

工兵大尉一人 課 僚 二人

- 一本省へ到來シタル公文書贖開封受領日記記注並ニ送達ノ事
- 一天皇並ニ三職ト擬議往復ニ係ル書類取纏メノ事
- 一驛遞無賃送達並ニ對簽送達ノ事務取扱ノ事
- 一卿へノ面謁人取扱ノ事但定日アリ
- 一新聞紙發兌ノ諸社ト通報ノ事
- 一未タ施行ニ至ラサル事柄若クハ秘密ナル事柄取扱ノ事
- 一其事柄省内各局ニ屬セサル者此局ニテ取扱ノ事

十二年第四十六號
布告ニ依リ消滅

○達第四百四十三號 (十二月十七日)

徵兵令參考第十一條中別紙之通追加候條此旨相達候事

(別紙)

徵兵令參考第十一條追加

翌年ニ廻スヘキ徵兵ハ鎮臺ニ於テ其人員ヲ每府縣ニ區別シ入營延期翌年廻名簿ヲ製シ各自ノ事故ヲ摘載シ引揚ノ割符ト共ニ本省へ差出其原簿ヲ剛ルヘン府縣ニ於テハ其年末ニ至リ徵兵連名簿ニ準シ入營延期翌年廻名簿ヲ製シ徵兵諸名簿ト同時ニ陸軍省へ差出し置キ徵兵検査期限ニ至レハ検査場へ召集スルコト本年相當ノ徵兵ト異ナルコトナシ最モ補充ヨリ常備ニ繰上ケ入營延期スル者ノ扱モ亦之ニ同シ

○達第四百四十四號 (十二月十七日 陸軍省)

陸軍給與概則別冊之通相定候條此旨相達候事(別冊略ス)

但明治九年一月一日ヨリ可致施行事

陸軍全部

九年陸軍省達第三
十八號達參看十三
年同達乙第七十六
號達ヲ以テ改正

○達第四百四十五號 (十二月十八日)

歲末參賀式別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

式書

一十二月三十日午前第十時在京之將官佐尉官及會計軍醫馬醫部右同等官之輩正服用陸軍省へ

參賀陸軍卿之ヲ受ケ奏上ス其順次左ノ如シ

- 第一本省將官局ノ順序
- 第二本省佐尉官但局ノ順序ヲ以テス同局中同官ハ故參ノ者先進ス以下之ニ效フ
- 第三參謀局將官佐尉官及同等官
- 第四近衛局將官佐尉官及隊附佐尉官并同等官
- 第五東京鎮臺將官佐尉官及隊附佐尉官并同等官
- 第六砲兵本廠佐尉官并同等官
- 第七工兵第一方面佐尉官并同等官
- 第八士官學校將官及佐尉官并同等官
- 第九戶山學校佐尉官并同等官
- 第十教導團佐尉官及隊附佐尉官并同等官
- 第十一幼年學校佐尉官并同等官
- 第十二本病院將官佐尉官同等官
- 第十三裁判所佐尉官及同等官
- 第十四軍馬局佐尉官及同等官

陸軍一般

第十五病馬廐佐尉官同等官

一行禮式ハ將官佐尉官同等官共別紙第一圖ノ如ク卿着席アル次ノ間ニ於テ帽ヲ脱シ右手ニ携ヘ進テ卿ノ前面ニ至リ正面シ體ノ上部ヲ少ク前ニ傾ケ禮意ヲ表シ畢テ元ノ姿勢ニ復シ退ク圖ノ如ク但本省將官及卿ノ傳令使ハ行禮終テ後卿ノ左右ニ列位ス其他ノ將官以下ハ木文ノ如ク

一其下士及同等官ノ行禮ハ別紙第二圖ノ如ク帽ヲ脱スルコナク正面整立シ舉手ノ禮ヲナスヘン但準士官及文官判任ノ輩ハ第一圖ニ準シ行禮スヘキ者トス

一本省ニ出仕スル判任官ハ本日午前第十一時禮服着用參省第一局長之ヲ受ク

一戸山學校學生尉官并各官廐ニ出仕スル判任官ハ該所管ニ於テ長官之ヲ受ケ隊附下士ハ該隊長之ヲ受ケ各所管ニ於テ名刺取纏差出スヘシ

一本口不參ノ輩ハ屆書定例ノ如ク差出スヘキ者トス

一東京ヲ除クノ外各鎮臺及營所并砲工兵方面等歲末禮式之儀ヲ總テ前項ニ準シ各所管ニ於テ施行スヘシ

但名刺ハ各所管ニ於テ取纏メ差出スヘシ

一文官奏任官ハ宮内省ヘ參賀可致尤各地在勤ノ輩ハ佐尉官ニ準シテ拜賀ヲ行フヘシ

一本日參省諸將校及同等官午前第九時三十分マテニ出頭左ノ場所ニ控居第一局ヨリノ報知ニ從ヒ順序ヲ亂サス拜禮スヘシ

但各長官及隊長等ハ部下ノ拜禮ノ式ニ合シ候様注意スヘキ者トス

參謀局 工兵第一方面 裁判所

右各該處ニ

近衛局并隊附

右裁判所内ニ

東京鎮臺並隊附

右該臺ニ

砲兵本廠

右第三局内ニ

士官學校戸山學校幼年學校

右第一局内ニ

教導團

右玄關溜

本病院病馬廐

右法則掛ニ

軍馬局

右面謁所ニ

(圖面略ス)

○達第四百四十六號 (十二月十九日)

近衛局 各鎮臺 教導團

(別紙)

雛形

(△印ハ朱色)

△諸官解(隊)(人名)宛		△清(送)(隊)(人名)		△受領ノ印	
常十	發午 時分	受	領	送	受領
急十	着午 時分	此ノ封袋ハ受領ノ後書翰使ニ返附スヘシ發翰ノ時不用ナル語ハ一線ヲ畫シ消却スヘシ			
至急十					

○達第四百十七號 (十二月二十日)

陸軍全部

來明治九年新年式別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

新年式

- 一月二日在京奏任官以上朝拜ハ明治九年新儀式ノ通タルヘシ
- 同日午前第十一時在京判任官本省へ參賀陸軍卿之ヲ受ク 但行禮式歲末ニ同シ
- 一戸山學校學生ノ奏判任官同校ニ於テ長官之ヲ受ク
- 一隊附下士ハ該隊ニ於テ隊長之ヲ受ク
- 一各地勅奏判任官各所管長官之ヲ受ク
- 但隊附下士ハ該隊ニ於テ隊長之ヲ受ク
- 一各地奏任以上并戸山學校學生ノ奏任ハ賀表壬申十一月太政官第三百四十七號布達之通差出スヘク且在京各地共判任官ハ其所管長官ニ於テ名刺取纏メ差出スヘシ
- 一本日不參ノ向ハ其所管へ屆書差出スヘシ以下同シ
- 一同四日午前第九時政始諸官員參仕

一同五日前第十一時新年宴會在京勅任官宮中ニ於テ酒饌ヲ賜フ各地勅奏任官并在京奏判任官共各所管ニ於テ酒饌料ヲ賜フ

但賜方兼テ布達之通

一同八日午前第十時陸軍始東京日比谷練兵場へ

臨幸府下在營ノ諸兵整列分列式ヲ行フ其式左ノ如シ

陸軍始式

本日午前第九時諸隊日比谷練兵場ニ集合シ第一圖ノ如ク整列ス圖面略之

傳令使

變輿ノ臨御スルヲ報告スレハ指揮長官氣ヲ附ケノ號音ヲナサシム此號音ニテ諸隊氣ヲ附ケ劍ヲ裝シ肩銃ヲナス

指揮長官ハ直チニ門内右側ニ出テ

變輿ヲ迎ヘ敬禮シ其右ニアリテ總軍檢閱ノ誘導ヲナス此時樂隊ハ樂ヲ奏シ諸隊順次ニ敬禮ヲ行フ點檢終レハ指揮長官ハ敬禮シ而シテ諸隊ノ方向ヲ右ニ換ヘシメ

變輿御駐位アリテ分列式ヲ行ハシム分列式終レハ第二圖ノ如ク步兵ハ中隊縱隊ニ編制閉列シ砲兵騎兵輜重兵ハ其右方ニ移リ而シテ指揮長官號音ヲ以テ諸隊ヲ左側面ニナシ前進セシメ 變輿

二十歩前ニ到リテ靜止シ敬禮ヲ行ハシム 但變輿ハ一ニ同變輿遠御アレハ解散ノ號音ニテ順次退歸ス

一同日午前第九時在京武官士官以上日比谷練兵場へ參集

海軍士官以上爲拜見同所へ參集

東京ヲ除クノ外各鎮臺及營所ニ於テハ該地屯在ノ諸兵練兵場へ整列分列式ヲ行フ

○達第百四十八號 (十二月二十三日) 陸軍一般

一同九日午前第十時海軍始武官士官以上爲拜見海軍兵學寮へ參集
本省金貨出納取扱今年之儀ハ本月廿五日限相止候條此旨相達候事
但臨時非常之儀ハ此限ニアラス

十二年陸軍省布第
二號達ヲ以テ廢止

同上

○達第百四十九號 (十二月二十三日 輪原附) 陸軍全部

徵兵事務手續書第十七條中徵兵表縱形別表之通改正候條此旨相達候事(別表略ス)
○達第百五十號 (十二月二十五日) 鎮臺府縣

徵兵事務手續書別紙之通追加並正誤候條此旨相達候事
(別紙)

徵兵事務手續書へ追加

一入營延期翌年迴名簿ヲ徵兵連名簿ト共ニ受領シ右名簿中ノ者ハ該府縣本年徵兵一同最寄検査場
ニ於テ検査スヘキ者トス

一検査合格ノ者ハ常備番號以內ノ籤ヲ抽カンメ其他番號割符授與等ノ扱ハ總テ本年徵兵ト異ナル
コナシ

一検査ノ節兵役ニ堪ヘサル者ト認ルルハ軍醫ノ診斷書ニ依リ免役ノ當否ヲ處分スヘシ
一検査ノ節若シ重病或ハ事故等ニテ出場シ難キ旨届出ル者ハ其屆書並容體書ニ依リ篤ト取糺シ事
實止ヲ得サル者ハ尙翌年迴ノ部ニ編入スヘシ

但翌年迴名簿編製ノ節尋常翌週年ノ者ト混淆セサル様何年入營延期翌年迴ノ部ト簿中ニ區別
シ各自ノ事由ヲ摘載スヘシ
徵兵事務手續書正誤

第二條 第二行「各軍管派出ノ徵兵課ニ求メ」ノ十二字ヲ刪ル

第五條 第七ノ第四行「筆算」ヲ「讀算」トス

第十三條 第七行該府縣ノ「該」ヲ「他」トス

第十七條 第十二行「筆算」ヲ「讀算」トス

○達第百五十一號 (十二月二十四日) 陸軍東京部内

來ル廿七日雜司ヶ谷ニ於テ演習式 天覽被 仰出候ニ付在京隊外將校及會計軍醫馬醫部右同等之
輩ハ軍服着用准士官下士及諸科生徒ハ略服着用同日午前第七時三十分マテニ同所へ出場可致此旨
相達候事

但生徒ハ其司令官或ハ取締ノ者等引繼メ出場可致且文官之輩出場ノ儀勝手タルヘキ事

○達第百五十二號 (十二月二十四日) 陸軍東京部内

來ル廿七日府下雜司ヶ谷村邊ニ於テ東京在營諸兵隊演習式 天覽可被爲在旨被 仰出候條此旨相
達候事

但午前第八時同所へ着御尤雨天 御延引之事

○達第百五十三號 (十二月二十五日) 陸軍全部

改正陸軍服制中將校以下前立之儀ハ正服着用隊伍ニ列シ候節而已相用候儀ト可相心得此旨相達候
事

但隊外タリル軍旗御授與式分列式等ノ節右場所へ列シ候節ハ前立可相用候事

○達第百五十四號 (十二月二十五日 輪原附) 陸軍全部

陸軍停年名簿編纂概則別冊之通相定候條此旨相達候事
(別冊)

十五年陸軍省達第
四十五號達ヲ以
テ改正

停年名簿編纂概則

將校ノ席次ノ事

第一條 凡ソ將校ノ席次即チ停年名簿ノ順序ハ在職停年ノ新舊ニ從ヒ之ヲ次第スルヲ法トス故ニ各科一連ノ番號ト其席次トハ常ニ同シカラス何トナレハ第二部非職ノ時間ハ之ヲ停年中ニ算入セサレハナリ

第二條 停年名簿ハ毎年三月一日九月一日ヲ以テ改正スル者トス

第三條 停年計算ノ方法ハ宣旨ノ日ヲ以テ起算スヘシ

第四條 其順序ハ停年ノ長短即チ在職ノ新故ニヨリテ定ムト雖モ停年同シキ者ハ番號ノ前後ニ隨フヘシ

第五條 甲乙ノ將校同日同官ニ任セラレ甲ハ東京ニ在リテ即日拜命シ乙ハ遠隔ノ地ニアリテ多少ノ時日ヲ經テ之ヲ拜スト雖モ拜受ノ早晚ニ均ハラス尙前官ノ先後ニヨリテ順序ヲ定ムヘシ

第六條 凡ソ停年名簿席次番號等ハ全國將校ノ進退ニ關涉スル者ナレハ最モ精細詳密ナルヲ要ス

第七條 停年名簿ヲ編纂スルニ於テ用ユヘキ書目左ノ如シ

- 各將校名簿 第一 大日記 第一 履歷書
- 第一 處刑人名簿 局 第一 大日記 第一 履歷書
- 陸軍省日誌 太政官日誌 職員錄

第八條 大中尉其一官内二等アル者一等ニ昇ルハ明治八年十月十五日達第七十五號ノ如ク同官全員ヲ中分シ上一半ヲ以テ之ニ充ル者ニシテ二等ノ上席タルヘキハ勿論ト雖モ其發令以前ハ停年ノ多寡ヲ論セス一等給ヲ下賜シ來ルヲ以テ右等ノ順序ハ一等二等ニ均ラス停年新故ノ席次ニ從フヘシ然レモ此規則發行ノ後ハ一等給ノ人員ハ其全員ノ半ニ過ルヲ許サス警ヘハ百人ノ内其第

四十九番迄一等給ノ者アリ而シテ其第五十一番以下ノ者一人一等給タルハ第五十番ノ者ハ尙二等タルヘキカ如シ

第九條 各科ノ將校ヨリ會計部等ニ轉任スルハ其共同等官ナル者ハ前官ノ年月ヲ通算シテ停年ノ順序ヲ定ムヘシ其前官ニ於テ既ニ一等給ヲ下賜スル者ハ轉任スル所ノ同官一等給ノ人員已ニ滿ルト雖モ當分ノ内尙一等給ヲ下賜スルモノトス

番號順序ノ事

第十條 數人同時士官ニ昇級スル者アルハ其前官ノ高卑ニ從ツテ順序ヲ定ムヘシ

第十一條 同等ノ文武官同時同武官ニ任スルハ其武官ヲ以テ上席トシ文官ヲ次席トス

第十二條 從前無官ニシテ新ニ將校ニ任セラレハ拜命ノ順序ニ隨フヘシ

第十三條 陸軍省ニ奉仕スル文官ニシテ同等ナル者同時同官ノ將校ニ任セラレハ其前官ノ停年ニヨリテ順序ヲ定ムヘシ

但停年同シキハ拜命順序ニ從フヘシ
非職區分ノ事

第十四條 將官並ニ參謀科佐尉官其職ヲ免セラル、者ハ之ヲ待命非職將校ト云フ此將校ハ其職ニ就カサルモ新故ノ順序停年進級方法共ニ在職將校ニ殊ナルヲナシ

第十五條 非職將校ヲ大別シテ二部トナス第一部ニ屬スル者左ノ如シ

- 第一 解隊或ハ變革ニ因リ減員セサルヲ得サルヲ以テ非職トナリシ者
- 第二 敵ノ俘トナリテ歸リシ他ノ將校既ニ其職ニ居リ外ニ虛位ナキ者
- 右第一部ノ將校ハ缺員アルヲ待テ再ヒ職ニ就ク者ナレハ即チ待命將校ニ準シテ停年ノ算法新故ノ順序待命將校ニ殊ナルヲナシ然レトモ五ヶ月以上職ニ就カサル者ハ尙第二部ニ屬スヘシ

第十六條 其陸軍卿ノ特旨ヲ以テ待命ヲ命セラレタル將校ハ即チ待命將校ニ殊ナルコナシ

第十七條 第二部ニ屬スル非職左ノ如シ
第一 一時ノ病ニヨリテ非職トナリシ者
第二 事故アリテ非職トナリシ者

右第二部ノ將校ハ其非職中ノ時日ヲ停年ニ算入スルコトナシ故ニ其新故ノ順序モ隨テ變スル者トス
又甲乙二人アリ甲チ故參トス然ルニ甲ハ第二部ニ屬スル非職トナリシ故ニ其新故ノ順序モ隨テ變スル者トス
又甲乙二人アリ甲チ故參トス然ルニ甲ハ第二部ニ屬スル非職トナリシ故ニ其新故ノ順序モ隨テ變スル者トス

第十八條 會計軍醫馬醫各部モ上條ノ例ニ準スヘシ

第十九條 席次並ニ番號ノ順序ハ各兵科ノ將校及ヒ會計軍醫馬醫各部毎ニ其區域ヲ分チ彼此殊別ナル者トス

第二十條 從前ノ諸規則之ト矛盾スル者ハ皆廢止ニ屬ス
○達第百五十五號 (十二月二十八日)

諸兵備附兵器並預備共別表之通改訂候條來明治九年一月一日ヨリ右表面ニ照準シ支給可致就テハ過數ノ兵器等無遺漏取調砲兵本支廠へ還納可致且缺品ハ同廠ヨリ更ニ支給可致ニ付過不及並現在員數共明細書載シ表面ヲ以テ可申出此旨相達候事(別表略ス)

砲兵本支廠
諸兵備附兵器並預備共別表之通改訂候條來明治九年一月一日ヨリ右表面ニ照準シ支給可致就テハ過數ノ兵器等無遺漏取調砲兵本支廠へ還納可致且缺品ハ同廠ヨリ更ニ支給可致ニ付過不及並現在員數共明細書載シ表面ヲ以テ可申出此旨相達候事(別表略ス)
○達第百五十六號 (十二月二十八日)

陸軍全部

十三年陸軍省達乙第七十六號達ヲ以テ給與概則改正

十一年陸軍省達乙第二十二號達ヲ以テ改正

十年陸軍省達乙第二十二號達ヲ以テ改正

今般給與概則發行候處右書ハ簡易輕便之爲メ書籍之體裁ニ製本候ニ付例數配達候外於各官廩入用之分ハ該廳定額金之内ヲ以テ直ニ參謀局へ照會之上請取相當之代價可相納此旨相達候事
○達第百五十七號 (十二月二十七日)

陸軍全部

陸軍一般

(印ハ朱書)

近衛步兵召募並免除年紀表

年	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
六	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
七	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
八	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
九	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
十	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
十一	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
十二	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
十三	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
十四	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
十五	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103

透第百四十一號達
參看

十三年陸軍省達乙
第三十七號達ヲ以
テ改ム

但元官員追テ何分之儀相達候迄砲兵本廠提理及ヒ兵器取纏ノ御用掛之指揮ヲ受ケ事務取扱可罷
在候事

○號外 (二月十九日) 工兵各方面

諸建築修繕何濟金額並其入費届表ノ儀昨七年送第二千三十二號ヲ以テ相達是迄届表指出來候處今
般工兵方面條例決定ニ付本年一月分ヨリ右届表ヲ廢止シ更ニ新築修繕費月計表並年計表別紙離形
之通改定致候條右ニ照準シ取調月計表ハ翌月十五日限リ年計表ハ一月ヨリ六月迄之分七月十五日
限リ七月ヨリ十二月迄之分翌年一月十五日限リ無遲滯可指出此旨相達候事

但計表書式別紙之通相心得取調可致事

月計表離形 (別紙)

新築修繕費月計表		工兵第何方面	
明治何年何月	何月ヨリ何月マテ	何月ヨリ何月マテ	何月ヨリ何月マテ
本月總計金額幾千圓	幾千幾百圓	本月總計金額幾千幾百圓	幾千幾百圓
何方何管	何第何號	何方何管	何第何號
何方何倉	何第何號	何方何倉	何第何號
何方何庫	何第何號	何方何庫	何第何號
何方何々	何第何號	何方何々	何第何號
本月總計金額幾千圓	幾千幾百圓	本月總計金額幾千幾百圓	幾千幾百圓

年計表離形

(印ハ朱書)

新築修繕費年計表		工兵第何方面	
明治何年	何月ヨリ何月マテ	何月ヨリ何月マテ	何月ヨリ何月マテ
名	稱	何方何管	何第何號
何方何管	何第何號	何方何管	何第何號
何方何倉	何第何號	何方何倉	何第何號
何方何庫	何第何號	何方何庫	何第何號
何方何倉庫	何第何號	何方何倉庫	何第何號
總計	幾十幾萬幾千圓	總計	幾十幾萬圓

計表書式

一年計月計表共新築ト修繕トハ分ツテ二葉ツ、ノ表ニ製ス

一年計表ノ名稱ハ何方鎮臺砲兵營步兵營或ハ館倉倉庫練兵場等各其類ヲ分ツテ之ヲ記載ス

一同表ハ何濟多端ナリトモ同年限内ニテ其類同シキモノハ一區郭内ニ合算シテ之ヲ記ス

一同表其入費ハ新築修繕共營繕ノ成否ニ關セス其年限内ノ總拂金高ヲ合載ス

一同表殘金ハ二區行ニ分ツテ其一ツハ營繕成功ノ未全クノ殘金ニシテ返納スルモノヲ一種ニシテ
墨書ス共一ツハ未タ仕業中ニシテ金額明年ニ越スモノヲ一種ニシテ朱書ス總計モ亦之ニ準ス

一月計表ノ名稱ハ一區郭内ニ一事件ヲ記載ス

一月計表ノ内仕業數月ニ涉ルモノハ一箇月分拂金高ノ肩ニ番號ヲ朱書スヘシ假令ハ起工ノ初月ニ
ハ一號ト附シ二箇月目ニハ二號ト附シ卒業ノ終月ニ至テハ何號竣功ト附スヘシ

九年五月十三日陸軍省號外達ヲ以テ改ム

○二月二十四日
正午號砲之儀自今於其臺可取計此旨相達候事

○號外 (三月十三日)
近衛局 各鎮臺

○二月二十四日
東京鎮臺

一同二箇月目ヨリハ何濟月日記載ニ及ハス但名稱番號何濟金額ハ落成ニ至ル迄毎月同様記載スヘシ

一同表起工ヨリ落成迄二箇月ニ涉ラスヲテ全額拂濟トナルモノハ拂金高ノ肩ニ番號ヲ附スルニ及ハス

一月計表ノ内何濟金額ノ總計ハ本月新ニ許可ヲ受ルモノ而已ヲ算シテ先月ヨリ再三掲載スルモノハ其數ニ加ヘス

○號外 (三月十四日)
各鎮臺

今般調査之儀有之候條明治六七兩年間其臺管轄各地方ニ屯在ノ兵隊下士以下之兵員每一箇年取調別表之通記載シ可指出此旨相達候事

但月々之現員ハ其月末之員數ヲ以テ取調書面到着之日ヨリ十日ヲ限り可差出事

○號外 (三月十四日)
各鎮臺

一 辛未七月廢藩更ニ四鎮臺被置候節舊藩ヨリ募リ候召集兵ト稱スル者ニ限り下賜候事

一 舊藩々ヨリ補欠トシテ召集スル者ハ不賜候事

一 不審之分ハ詳細取調追テ可伺出候事

一 辛未以前徵兵并徵募兵或ハ教導隊修行兵等ハ舊藩ヨリ募ルト雖モ不賜候事

○號外 (三月十四日)
各鎮臺

全國壯兵漸ヲ以テ免役申付候ニ付賞賜之儀本年二月九日布第四十二號ヲ以テ相達候條テハ兼テ伺出許可之分ハ夫々免役可申付允賞賜之儀ハ左之件々之通相心得可下賜分ハ其旨本人手帖ヘ記載可致此旨相達候事

(別表)

明治何年下士以下現員		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
兵種	何千何百何十何員												
何兵	何千何百何十何員												

十四年陸軍省達乙第九號達ニ依リ消滅

○號外 (三月二十日)

教導團

其團諸科生徒ノ内平素行狀不正ニシテ屢諸法則ヲ犯シ且怠惰等ニシテ往々成業ノ目途無之者是迄除團復籍申付來候處自今右等ノ者有之節ハ其出處ヲ取調各隊ヨリ召集ノ者ハ復隊申付入團前ノ日數ヲ算シ常備年限殘餘ノ日數服役可申付候條其時々成業目途無之事件詳細書面ヲ以テ可伺出且又他ノ四民中ヨリ志願ニヨリ入團差許候者ハ生徒差除キ尙三箇年間其團小使炊夫ノ中へ使用可申付候條是亦其時々經伺取計可申此旨相達候事

十二年陸軍省達甲第二十八號達ニ依リ消滅

○號外 (三月二十三日)

軍馬局

其局蹄鐵生徒之儀自今卒業之者ハ検査之上免狀相渡シ蹄鐵工可申付尤是迄生徒之名稱ヲ以テ隊附申付置候分モ同様蹄鐵工ト可心得此旨相達候事

但日給之儀ハ當分本年布第三十二號ヲ以テ相達候通ニ候事

九年陸軍省達第百九號達ヲ以テ改訂

○號外 (三月二十七日)

仙臺名古屋大阪廣島熊本鎮臺

東京鎮臺ヲ除キ各鎮臺玄關番給仕小使傭夫人員別表之通相定候條此旨相達候事

工兵方面派出會計官人員表今般別表之通改正候條此旨相達候事

(別表)

訂改工兵方面派出會計官人員表		軍吏	軍吏	書記
第一方面	一名	四名	四名	四名
第二方面	二名	二名	一名	一名
第三方面	同	同上	同上	同上
第四方面	同	同上	二名	同上
第五方面	同	同上	一名	同上
第六方面	同	同上	同上	同上

備考
如新人員ヲ定ムト雖モ事務開ナルトキハ減少スヘシ○團區ノ在勤ハ本署在勤内ヨリ命スルモノトス○團區ノ人員ヲ定ムト雖モ在勤ヲ要セサルトキハ本署ニ在ルモ妨ケナシ○第一團區ハ區内ニ本署ノ在ヲ以テ別ニ團區ノ人員ヲ置カス

○號外 (六月二十九日)

砲兵本支廠

砲兵射的場之儀自今砲兵方面ニ於テ管理可致此旨相達候事

陸軍東京部内

○號外 (七月九日)

追日酷暑相成候ニ付來ル八月一日ヨリ九月五日迄御履佛國陸軍教師休暇差遣候條右日限中諸兵傳習雖相成候爲心得此旨相達候事
但日本教師ニテ教練致候儀及ヒ兵隊課業等ハ總テ平常ノ通候事

十二年陸軍省達乙第七十八號達ニ依リ消滅

九年九月九日陸軍省達ヲ以テ廢止

○七月十七日

大阪鎮營

造幣寮番兵心得別冊之通相定候條此旨相達候事

(別冊)

造幣寮番兵心得

- 第一條 造幣寮番兵ハ半小隊ツ、タルヘシ
但一週間毎ニ交代スヘシ
- 第二條 番兵心得ハ一般ノ規則ニ異ナルコトナシ故ニ此ニ記セサルモノハ屯所番兵規則ニ由テ施行スヘシ
- 第三條 一週間即チ詰中ハ狼ニ外出スヘカラス
- 第四條 番兵内務ノ事ニ於テハ寮ノ長官ト雖モ之レニ關スルコトナシ然レトモ寮ノ長官施行セント欲スル事件アラハ之ヲ番兵令官ニ合議スルコトモアルヘシ
- 第五條 前條ニ付令官獨斷ヲ以テ難行事件ハ其本隊長官ニ申告シテ許可ヲ乞フヘシ
- 第六條 令官ハ風雨烈シキ夜ハ殊更諸事ニ注意シ巡視シ怠惰スル者ハ之ヲ警戒スヘシ以ハ下士ヲシテ代テ巡檢セムヘシ
- 第七條 令官ハ時宜ニ依リ哨兵ノ人員ヲ増加スルコトハ其權内ニ在ルト雖モ速ニ其狀ヲ本隊長官ニ申告スヘシ
- 第八條 哨兵ハ通常二時間ヲ出スシテ交代セムヘシ然レモ夜間ハ怠慢ナリ易キヲ以テ交代時間ヲ短縮スル等凡テ令官ノ權内ニアルヘシ
- 第九條 寮中官員ヨリ小者ニ至ル迄印鑑或ハ徽章見手本等ノ類ハ豫メ番兵令官詰所ニ受取置クヘシ
- 第十條 哨兵寮中ニ於テ胡亂ノ者見當ラハ速ニ令官ニ告ケ其命ヲ待ツヘシ

明治八年七月 陸軍省 達 號外並無號

但場所ニヨリテハ直ニ捕ヘ置キ然ル後其次第ヲ申告スヘシ縱令賦タリモ自己ノ計ヲ以テ處置スルコトヲ禁ス

第十一條 不時ニ砲聲喇叭其他ノ合圖或ハ出火非常等アレハ其場所或ハ方角ヲ觀察シ直ニ令官ニ報告スヘシ

但報告ノ際ヲ得サルトハ喇叭手ヲシテ非常ノ合圖ヲナサシメ然ル後其旨ヲ申告スヘシ

第十二條 近火ノ節番兵心得方ハ豫テ寮長ニ合議シ其方法ヲ定メ置クヘシ

第十三條 哨兵ハ己レノ持場ヲ離レ他方ニ往來シ或ハ銃器ヲ携ヘサル等其職掌ヲ怠ルモノハ律ニ依リテ之ヲ罰ス

第十四條 哨兵ハ兼テ演習スル處ノ野外哨兵同様ノ規則タルヲ以テ別ニ其方法ヲ示サス

第十五條 番兵交代ノ節ハ前番ノ者ト立合ヒ置附ノ諸物品ヲ検査シ之ヲ請取ルヘシ又寮長ヨリ臨時ノ報告取分ケ注意スヘキ事件ナキヤ否其他詳細取調交代スヘシ

但交代ノ節請取渡シ不調ニテ物品紛失シ又ハ故ナクシテ破損品等取調疎念アルトキハ其當番隊ノ落度タルヘシ

○號外 (十月八日) 工兵各方面本署
本年二月十九日送第七百四十五號ヲ以テ相達置候新築修繕經費年計表並月計表共離形等ノ内ニ同濟金額併月日本省番號ト有之候分別紙之通致改正候條右ニ照準シ取計本年七月分ヨリ同濟ハ勿論方面ニ於テ決定遣拂候分ト雖モ營繕費ハ一切記載候儀ト可相心得此旨相達候事

但從前ヨリ方面決定ノ小費モ一切記載致來候者ハ已來連モ是迄之通取計標目ノ分改正可致事
(別紙)
一年計表標目中左之通改正
(△印ハ朱書)

十三年陸軍省達乙
第三十七號達ニ依
リ消滅

△此所從前之通 方面決定 金額 △此所從前之通 △此所從前之通

一月計表標目中左之通改正

△此所從前之通	△本省方面而兩號	△同濟地方而決定月日	△此所從前之通	△此所從前之通	△此所從前之通
△此所從前之通	△同濟地方而決定月日	△此所從前之通	△此所從前之通	△此所從前之通	△此所從前之通
本月	何濟並	總計金	△此所從前之通		
方面決定					

一計表書式中云々同濟ト有之下ニ「並方面決定」ノ五字ヲ増ス

○號外 (十月十二日) 砲兵支廠

和歌山國廠都合有之閉廠致候條此旨相達候事
但在勤官員免除及家屋保護ノ方法等取調意見可申出候事

○號外 (十一月十四日) 工兵各方面

當省所轄諸城並土地家屋一時不用ニ關スル場所ハ貸銀ヲ課シ貸渡方別紙送第九百三十八號書面之通御指令有之依テ別紙送第四千八百十六號之通在存城ノ府縣ニ相達置候條不都合無之様注意可致且借地料受取ノ都度工兵方面在勤ノ司契へ引渡可届出此旨相達候事(別紙送第九百三十八號略ス)

但今後一時不用地等新ニ借受度又ハ是迄ノ借受地返附致度願ノ者有之ニ於テハ該府縣ノ申渡ヲ得之ニ國區長ノ見込書相副可伺出候事

(別紙)

號外 (十一月十四日 送第四千八百十六號)

府 縣

九年三月十二日及
十年七月二十八日
陸軍省號外達ヲ以
テ改メ

海軍省

布達 達

記三套第百四十號
達ニ依リ消滅

○記三套第一號 (二月四日)
昨七年記三套第百十三號一月五日新年宴會酒饌料賜方布達但書取消左之通改定候尤以來トモ宴會之節ハ同様可相心得此旨更ニ相達候事
但若シ不參候共被下候事

○記三套第二號 (二月七日)
來九日海軍始例年之通 臨幸被 仰出候ニ付別紙御手續書之通執行相成候條此旨相達候事
別紙御手續書

明治八年第一月九日海軍始ニ付同日午前十時 臨幸之節海軍兵學寮於テ奏上之式如左
一 外郭門外ニ隊附佐官奉迎察門外ニ海軍省諸寮司部所府艦船奏任以上並御雇外國人奉迎總海兵捧銃樂隊奏樂玄關ニテ 御下車此時御旗ヲ省旗竿ニ引揚寮内ニ於テ貳十一發祝砲施行ス同時品海碇泊ノ各艦ヨリモ同敷祝發スル事
一 判任官並諸生徒寮門内左右ニ整列禮式スル事
一 大少輔並兵學頭御先導ニテ圓室ノ 玉坐へ被爲占御休息ノ事
一 午前第一號演習練第二於省内入壕水雷點火第三同所碇泊ノ乾行艦ニ於テ帆前調練ヲ施行ス畢テ水夫一統へ賜物有之候事
但本文 玉坐甲乙二ヶ所ニ設置ス一ヶ所ハ省東岸堤上ニ設ク此 玉坐ニ於テ第一第二ノ式
天覽アリ一ヶ所ハ入堀碇泊ノ乾行艦近傍ニ設ク此 玉坐ニ於テ第三ノ式 天覽有之候事

一十二時御晝饌ノ事
 一午後二時開講海軍歴史ヲ講ス諸官員生徒ニ至ル迄御次ノ間ニ列席拜聴スル事
 一第二時海軍式畢テ 還幸其式 臨幸ニ同シ
 一御乘車ノ節二十一發祝砲ス此時諸艦ニ於テモ同様祝發之事

明治八年一月

○記三套第三號 (二月七日)

來ル九日海軍始ニ付本日午前第九時文武諸官員兵學寮へ出頭可致此旨相達候事
 但出頭之諸官員其他へ昨年之通酒肴料被下候條受取方並刻限等ハ都テ昨七年甲第三號同第八號
 布達之通可相心得事

府 縣

○記三套第四號 (二月七日)

海軍下士官等ノ内別表ノ職役缺員ニ付志願ノ者ハ本年三月廿日限海軍省內提督府へ出願候得者檢
 査ノ上採用候條壬申九月乙第百二拾七號及布達置候海軍兵員徵募規則並ニ別冊試驗法照準ノ上管
 下へ無洩布達候條可取計此旨相達候事

(別冊)

紙 表

下士徵募試驗法

海軍下士試驗法

艦内教授役ノ試験

年齢二十一歳以上四十歳以下ニシテ行狀正シク讀書國史略日本外史 算學算術 代數 幾何學 等ヲ詳ニ
 教授シ得ル者ヲ要ス

警吏同

年齢二十五歳以上四十歳以下ニシテ曾テ陸海軍兵士或ハ巡查選卒等勤仕シタル者ニテ行狀正シク
 殊ニ才智アリテ大略讀書算術ニ達シ平常往復ノ文ヲ綴ルニ差支ナキヲ得ル者ヲ要ス

掌砲上長同

年齢二十一歳以上三十五歳以下ニシテ以前航海ニ從事シ行狀正シク從來砲術ヲ學ビ砲砲ノ使用並
 操練各大小砲藥量ノ割合藥包ニ火藥ヲ填裝スル法並火藥庫ニ貯蓄スル法空彈及導火管ノ扱ヒ一箇
 ノ口徑ニ循ヒ一砲栓ノ製造算術ノ大略等ヲ能クシ得テ軍艦掌砲職務及ヒ要具ヲ簡易ニ書記シ得ル
 者ヲ要ス

水夫上長同

年齢二十一歳以上三十五歳以下ニシテ以前航海ニ從事シタル者ニテ行狀正シク諸艦船檣桁綱具諸
 帆ノ名稱用法運用術等ヲ了解シ及略圖ヲ畫キ概略算術ニ達シ並水夫長職務及ヒ要具ヲ簡易ニ書記
 スルコトヲ要ス

帆縫長同

縱横種々ノ帆及天幕等各適應ノ帆布ヲ用ヒ以テ尺度ヲ定メ巧ミニ裁縫スルヲ要ス

造網長同

麻質ノ良否ヲ鑒査シテ素索ロープ及脂裝索タウリンヲ綯製シ並ニ綯索機械ノ用法ヲ辨識スルヲ要ス
 木工上長同

年齢二十一歳以上三十五歳以下ニシテ以前艦船ニ從事シ行ヒ正シク木工ノ手術ニ達シ能ク船體ノ

成立ヲ知り略圖ヲ畫キ船身ノ虛隙ヲ填充シ構桁破損ノ預防及修繕圓材ノ新製算術ノ大略並ニ職務及要具ヲ簡易ニ書記スルヲ要ス

棋箱工長同

船身ノ虛隙ヲ填塞スル業ニ以前從事シテ最モ巧ミナル者ヲ要ス

塗工長同

艦船ノ内外ヲ塗裝スル業ニ以前從事シテ塗具ノ配合等詳ニ辨識スルヲ要ス

桶工長同

艦内使用ノ水桶甲板洗桶其他桶類等巧ミニ新製及修繕スルヲ要ス

艦内廚宰同

年齡二十一歳以上ニシテ性質實直才智アリテ能ク會計上ノ算術ニ長シ讀書算學及通例ノ綴文ニ差支ナキヲ要ス

機關士副同

蒸氣機械及鐘ノ成立諸部ノ名稱並ニ略圖ヲ製シ機械活動ノ理及運轉ヲ掌ル事「機械活動中不慮ノ破損處ヲ修補スル工業算術ノ大略通例ノ綴文並ニ寫字ニ差支ナキヲ要ス

火夫長同

蒸氣機械及鐘ノ成立諸部ノ名稱並ニ汽鐘ノ保護安全ノ法及ヒ其鐘ニ應シテ蒸氣強弱ノ度ヲ量知レ或ハ機械及鐘ヲ脩繕スル工事ニ長スル者ヲ要ス

鍛冶長同

艦内諸部ノ機械鐵具及銅鐵釘ノ製作其他鐵具ヲ鍛鑿スル等ノ工業ニ長スル者ヲ要ス

兵器工長同

施條銃諸部ノ分解集合磨淨修繕等ノ事ヲ辨識シ或ハ大彈機ヲ製造シテ他ノ銃鑿ニ合シ或ハ後視ノ銃鑿並ニ銃鑿ヲ製造スル等ノヲ要ス
右ニ舉クル者ハ各官上等ノ試檢法ナルカ故ニ假令落第スルト雖モ一技所長アル者ハ夫々能ニ應ニ相當ノ職ニ採用スヘキ事
但本文年齡記載無之分ハ二十一歳以上四十歳以下ノ者タルヘキ事
水夫上長以下信號長屬マテノ業務ハ概子同一ナルカ故ニ試檢ノ上各自所長ト巧拙トニ由テ夫々職務ヲ可命事

海軍下士徵募人員表

相十	當等	相十	當等	相十	當等	相十	當等	相十	當等	員數
艦内教授役	艦内教授役介	警	警	警	警	警	警	警	警	+
軍砲上長	軍砲上長	軍砲次長	軍砲次長	軍砲次長	軍砲次長	軍砲次長	軍砲次長	軍砲次長	軍砲次長	+
水夫上長	水夫上長	水夫次長	水夫次長	水夫次長	水夫次長	水夫次長	水夫次長	水夫次長	水夫次長	二十
	指揮官船長	艦長	艦長	艦長	艦長	艦長	艦長	艦長	艦長	+
	甲板長	甲板長	甲板長	甲板長	甲板長	甲板長	甲板長	甲板長	甲板長	+
	按針長	按針長	按針長	按針長	按針長	按針長	按針長	按針長	按針長	+
	信號長	信號長	信號長	信號長	信號長	信號長	信號長	信號長	信號長	+
										五十五

本月以降ハ翌月五日迄ニ必可差出此段相達候也

但主船寮ハ日限之通勘定帳差出調査済之末此金員額外ニテ請取之順序可相運猶亦鹿兒島製造所調帳ハ翌月廿日迄ニ該廳ヲ差立其他ハ主船寮ニ準據可致事

(別紙)

第六百六十四號

諸收入及返納金等本納之順序整頓候迄銀行預ケ手形各管廳ニ管守致シ置候處爾後銀行預リ手形ハ速ニ出納寮へ假納御取計引續キ本納之順序ニ御運ヒ可有之仍テ別紙假納順序書相添此段及御達候也

但本年乙拾貳號府縣へ之達書添及御達候銀行預ケ之金員ハ以來不及御届候得共掛ケ屋ヨリ直ニ銀行へ預ケ替等之弊無之様御注意有之度此段申副候也

十二月二十日

大藏卿大隈重信

院 省 使

右 長 官 宛

(別紙)

諸收入金及返納金假納順序

凡ソ稅外收入及返納ノ金額ニシテ大藏省へ納付スヘキモノハ各管廳へ領收スルニ隨ヒ之ヲ銀行ニ預ケ右手形へ甲號離形ノ如ク添書ヲ付シ直チニ出納寮ニ假ニ納付シ同寮ノ假預リ證書ヲ領取スヘシ最此金額ニ於ル科目年度ハ必ス之ヲ區分シテ納付スルモノトス

但本納ノ際ニ方リ若シ年度科目ノ變換スルアルモ妨ケナシトス

諸收入及返納金ハ每一ヶ月ヲ收束シ勘定帳ヲ差出スヘキハ從前ノ成規ニ準據シ右帳簿ノ精理了

ルニ隨ヒ假預ケノ金額ヲ本納ニスルハ出納寮ノ假預リ證書ヲ用ユヘン而シテ本納ノ時ニ際シ端敬等ノ差アリテ假預ケノ金額ヨリ不足ヲ生スル等ノ事アラハ銀行ノ預リ手形ヲ取交セ納付スルモ妨ケナシトス

假預ケノ證書ヲ一紙ニテ交付スルモ本納ノ際ニ方リ其金額ヲ分裂スヘキモノアル時ハ乙號離形ノ如キ書面ヲ以出納寮ニ書替ノ義ヲ申達シ最前ノ假請取證書ヲ返致シテ更ニ證書ヲ領取スヘシ

諸收入金ヲ一旦納入シ直チニ經費ニ支用スルノ成規アルモノハ假納ニ及ハス從前ノ如ク本納ノ節ニ至リ納受ノ順序ヲナスヘシ

右之通順序相定候事

大 藏 省

明治七年十二月

甲號離形 用紙幣用郵紙

記

東京 大藏 銀行預

一金何圓

此譯

金貨何圓

新紙幣何圓

右假納御取計可有之候也

年 號 月 日

出 納 頭 宛

長 官 名 印

年度科目等不明了ノモノハ如此記載スヘシ

年度科目ハ本納ノ節可申立分

何年何月中何々

收入金

貨幣各種ノ品類ヲ區分スルハ本年四月太政官第四十九號布達ニ照準スヘシ

乙號離形 用紙常用野紙

記

一金何圓

但假請取證何號

內

金貨何圓

新紙幣何圓

小以金何圓

但證書一枚

銀貨何圓

洋銀何弗

小以銀貨何圓

但證書一枚

右何年何月假納之分本文之通分裂納入可和成品ニ付證書替御渡有之度候也

年號 月 日

長官名印

出納頭宛

府 縣

○記三套第十二號 (二月三十一日 輪附)

政表御編制之義ニ付客年十二月中御達ノ趣モ有之候ニ付海上記事常省水路寮於テ編輯候條使府縣沿海ニテ暴風雨或ハ洪波其他海上ニ現象有之候節ハ其時々同寮へ詳細可届出候此旨布達候事

○記三套第十三號 (二月二日)

諸向於テ建築致候節右場所之義自今本省之見分ヲ請候上ニテ着手可致此旨相達候事

○記三套第十四號 (二月四日)

十一年海軍省甲第一號
一號海軍省第十五號
太政官第六十五號
達ニ依リ政表消滅

九年海軍省丙第三號
達ニ依リ政表消滅

九年海軍省丙第七號
十八號海軍省丙第七號
會計部則ノ整理ニ

從七海軍

記三套第五十六號
九年海軍省丙第三號
達ニ依リ政表消滅

十四年海軍省乙第五號
達ニ依リ政表消滅
海軍省丙第七號
達ニ依リ政表消滅

各寮司ニ於テ製造或ハ其所轄品物ヲ相互ニ讓受定額内ヨリ代金交附致候處右ハ會計上不都合不
少候間以來其時々本省ニ申出許可濟之上該騰拂切ニ相立可申此段相達候事

○記三套第十五號 (二月四日)

看病夫長以下先般軍醫寮所轄相成候ニ付テハ當分船船乘組看病夫介並看病夫副陟之儀ハ般長見込
相立指揮官其他所轄長之檢査ヲ請ケ軍醫寮へ申立其書付ヲ請取般長ヨリ可和渡候此旨布達候
事

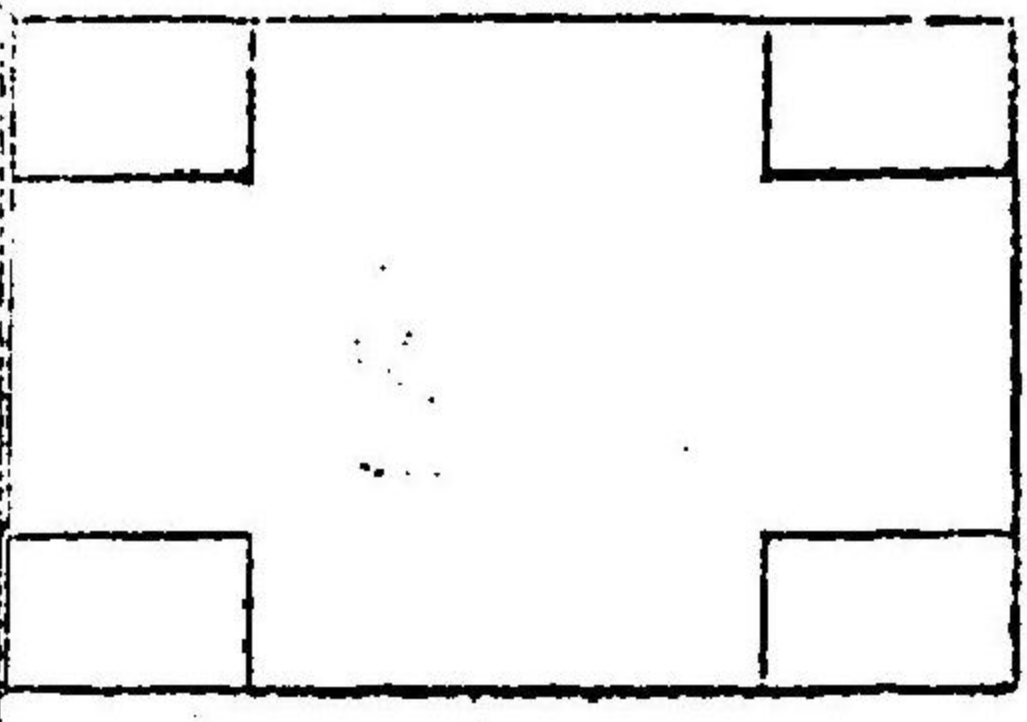
府 縣

○記三套第十六號 (二月十日 輪附)

海軍軍醫寮旗章並武庫司旗章之儀別紙圖面之通相定候條爲心得此旨布達候事

(別紙)

軍、醫、寮、病、院、旗



白布開紅 四分一ヲ以テ赤トス
四分二ヲ以テ白トス

大横七尺八寸
大横一丈一尺七寸

右非常ノ節病院本圖ニ揚ケ

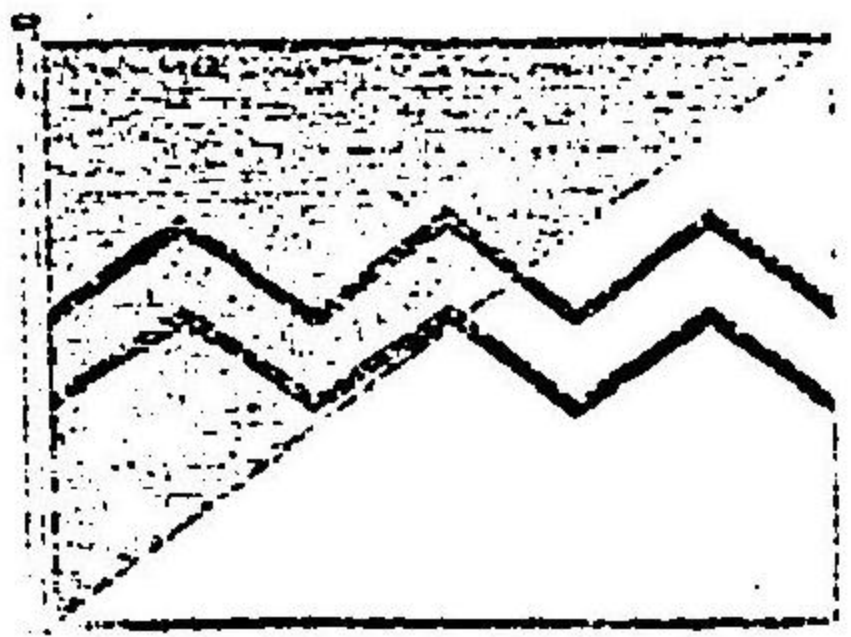
中横二尺五寸
中横三尺

右同前病院船並病院支圖ニ揚ケ

小横一尺
小横一尺五寸

右同前舟車等病院ニ屬スル物並遊遊ノ時ニ用フ

武庫司旗



白布紅白斜線山形二條 (國印ハ朱)
大縱五尺 大横七尺
兵器庫前ノ屯所ニ掲ク
中縱二尺 中横三尺
兵器庫前ノ屯所ニ掲ク
但其大小ニ因テ中小ノ差アリ
小縱一尺五寸 小横二尺

九年海軍省丙第一號

○記三套第十七號 (二月八日)

諸官員歸省御暇之義各廳長官ニ於テ情實取札シ開屆候例規ニ基キ自今在勤之各所ニ限リ事實取札シ事務差支等無之候ハ、該長官ニ於テ開屆候上其筋々へ可届出候此旨布達候事

記三套第百四十號 遠ヲ以テ取消

○記三套第十八號 (二月八日)

來十一日紀元節ニ付諸官員へ參不參ニ不拘酒饌料下賜候ニ付本省各課艦船各寮司部所府共奏任ト判任以下ト別冊之名前帳ヲ以其筋取扱之者當日午前第九時ヨリ十二時迄之間會計局へ請取方可申出此旨相達候事

但向後天長節新年宴會共酒饌料受取方本文之通可相心得候事

○記三套第十九號 (二月十日)

來ル十一日紀元節ニ付參賀並賀表差出方等手續之義都テ昨七年十二月記三套第百十二號布達新裁式之節通り可相心得此旨相達候事

○記三套第二十號 (二月十三日)

來明治九年米國ヒラテルヒヤ府萬國博覽會開興ニ付御國ヨリモ出品相成候ニ付テハ別紙拔書個條之内當省關係之事件取調米國博覽會事務局へ可差出義ニ候條其寮司掌管之廉々並其事ニ就キ見込等早々取調可申出此旨相達候事

(別紙)

- 一山林ノ產物
- 一造船所用材木即チ艇桅、橫木ニ用フルモノ
- 一衣服暨ハ新衣、軍服、禮服、格段ノ目的ニ用フル服式及ヒ衣服
- 一醫術及ヒ外科道具、病人ノ療治道具、養身ノ機器及ヒ方法、生命ヲ斷ツル器具及ヒ狩獲、絲蹄、魚、獵ノ器具
- 一遊戯狩獵ノ火器
- 一小キ火器
- 一輕砲兵抱、合砲
- 一重砲及ヒ同科ノ品
- 一彈藥、破裂丸
- 一海底ノ修造○水底上陸場造船場等
- 一陸軍ノ土工作
- 一海軍ノ工作
- 一海及ヒ海岸圖
- 一病人ノ救治、醫療諸課及ヒ其職業戰爭ニツキテノ本道及ヒ外科ノ記

○記三套第二十一號 (二月十三日)

記三套第百五十九號 明治十三年海軍省丙第一號 遠ヲ以テ取消

諸船修葺ケ所並製造品引替等申出之義從前一ケ所又ハ一品限リ申出尙引續キ漸々申出候向有之候處右ニテハ其筋作業上甚差支不都合不少候條自今申出之後差懸リ損所等出來候分ハ格別前廣相分リ候修葺ケ所並製造品等ハ篤ト注意點檢之上廉潔無之様一限リ一纏メニ取調一同申出候様可致此旨相達候事

○記三套第二十二號 (二月十三日)

諸船カッブル用木炭渡之義自今左之通相定候條此旨相達候事

十二月ヨリ

カッブル壹個ニ付

二月マテ

○記三套第二十三號 (二月十五日)

諸向ヨリ申出書面へ指令捺印下附候末其向々於テ取計濟之上届出方書式之儀區々ニ候條自今都テ指令濟之番號月日ヲ指令之通リ云々 記載致シ可届出此旨相達候事

○記三套第二十四號 (二月十五日)

自今出勤中自宅近傍出火有之候節ハ御暇下賜候條該長官へ一應届之上退廳候義不苦候條此旨爲心得相達候事

○記三套第二十五號 (二月十九日)

來ル廿二日招魂社大祭ニ付同社へ 臨幸被仰出候條爲心得此旨相達候事

但同日同社へ參集候官員送迎之位置別紙圖面之通候條此段添達候事 (別紙圖面略ス)

○記三套第二十六號 (二月十九日)

臺灣番地ニ於テ戰死之者來ル廿二日招魂祭別冊之通被爲行候條諸官員並艦船在營卒夫等ニ到ル迄本日午前第八時招魂社へ參拜可致尤所勞等ニテ不參之向ハ其旨可届出候此旨相達候事 (別紙圖面略ス)

但本日休暇其他例大祭日之通可相心得事

○記三套第二十七號 (二月十九日)

來ル廿二日招魂祭ニ付神酒料八錢ツ、被下候條受取方ノ義ハ紀元節之通可相心得候事 但參不參ニ不拘被下候事

○記三套第二十八號 (二月二十日)

來ル廿二日招魂祭ニ付兵員參拜順序之義陸軍總兵員拜禮畢テ海軍砲步兵水火夫ト順序相立參拜可致此段相達候事

○記三套第二十九號 (二月二十四日)

概額ハ經費差引殘金月々返納之定規ニ候處右ニテハ今般出納順序改正事業上ニ於テ差支有之候ニ付爾後歲尾ヲ除之外ハ經費差引殘金其儘翌月へ引送該金員ヲ翌月分概額元請之内ニテ引去殘金相渡候條勘定帳書式別紙離形ニ照準可致此段相達候事

(別紙)

概額金勘定帳書式

元請之部

一金何程

此譯

金何程

金何程

仕拂之部

此離形ハ概額差引殘金翌月へ受送之體ヲ要ス故ニ仕拂並額外等ノ書式ハ記三套第百八號布達離形ニ依テ

年號何年何月分

何月ヨリ越高

何月分概額

何月何日受取

十四年海軍省往出第八〇九號ヲ以テ艦船需用品取扱定則並需用品總括表假定ニ依リ消滅
文書取扱順序改正ニ依リ消滅
記三套第百二十四號達ヲ以テ但書追加
九年海軍省丙第一號達ニ依リ消滅

記三套第百五號及第百八號達ニ依リ消滅

一金何程

年號何年月
仕務高

內

何々費

一金何程

此譯

概額

金何程

前年未決算之分
本年概額

年 月

長官官姓名印
府 縣

右者年號何年月金貨出納御勘定仕上書面之通和違無之候也

○記三套第三十號 (二月二十七日)

艦内致授役三上長下士以下定員之家族東京府下へ全戸寄留ノ者扶助金渡方ノ備直ニ共寄留先ニ相渡候旨昨七年六月中記三套第九號ヲ以相達置候處今般府縣出張所被廢候ニ付テハ自今東京府ヨリ渡方ノ手順相立候條管下ノ内從前同府下へ全戸寄留ノ者ハ悉皆取調來ル三月十五日マテ同府へ可届出此旨布達候事

○記三套第三十一號 (二月二十四日)

練習艦乘組艦内致授役及下士以下給與方左之通改定候條此旨相達候事
一艦内致授役及下士以下祿制第五十九條練習艦へ更ニ定員トシテ乘組申付候者ハ全給ヲ給シ定

十一年海軍省丙第百二十六號達十七年丙第八號達ヲ以テ廢止

同上

九年海軍省丙第百二十九號達依リ日記編成録ヲ停メ日記編成

九年海軍省記三套第十九號達依リ同丙第一號達ニ依リ減

員外爲練習乘組候者へハ本給四分ノ三ヲ給スヘキ事

但定員ハ共艦之大小ニ隨テ士官以下二等卒迄ヲ以テ相定尤海兵及ヒ諸工ハ勿論所轄限リ雇入ノ者ハ二等卒以下ト雖モ定員中ニ充候事

○記三套第三十二號 (二月二十七日)

從前海軍布達書上梓之上相迴來候處右相廢止本年一月ヨリ別冊日記輯録編纂相迴候條此旨爲心得相達候事(別册略)

○記三套第三十三號 (舊號)

○記三套第三十四號 (二月二日)

海軍條例第二十條第二款へ左之通但書相加候條此旨相達候事

一但豫メ一週以上ノ療養御暇ヲ願出ルルハ必醫師ノ證書相副且日限ノ概數ヲ定メ可願出若シ在再四週以上ニ及フルハ更ニ醫師ノ證書ヲ副増暇ヲ可願出尤奏判任ハ本省ノ許可ヲ乞ヒ等外以下ハ所轄廳コレヲ許可シ本省へ可届出事

○記三套第三十五號 (三月三日)

來ル五日横須賀造船所へ 臨幸被 仰出候ニ付テハ別紙御手續書之通執行相成候條此旨爲心得相達候事

但本日休暇之事

追テ諸官員勝手ニ拜見候儀不苦候條横濱へ當日午前第七時出發ノ汽車ヨリ差越大阪丸へ乗組可申事

(別紙)

明治八年三月五日横須賀造船所ニ於テ新製ノ軍艦清輝號舩卸執行ニ付同所へ 臨幸 御一泊

翌六日 還幸被 仰出候ニ付御手續書

一本日午前七時十五分御出門八時十五分汽車ニテ新橋鐵道館ヨリ御發車橫濱 著御

一橫濱鐵道館ヨリ波止場迄御馬車波止場ヨリ端船へ被爲 召

但橫濱碇泊ノ諸艦長波止場ヨリ御本艦マテ端船ニテ奉送

一右端船ヨリ御本艦龍旗號ニ 乘御御旗ヲ中檣上ニ引揚二十一發ツ、内外艦ヨリ奉祝ス

一十時御本艦拔錨船中ニ於テ午饌シ玉ヒ午後第二時橫須賀 著御

一御上陸ノ節各艦ヨリ二十一發奉祝ス且主船頭始主船寮諸官員及御雇佛人首長副首長奉迎ノ事

一東雲揚兩艦奉護艦大阪丸ハ運送船トシテ供奉致候事

一御上陸ノ上橫須賀官廳ニ 御小憩ノ事

但此時首長副首長始ノ士官ノ分拜謁被 仰付候事

一御小休後清輝迅鯨兩艦ノ機械 天覽其後船臺近傍ニ所設ノ 玉坐ニ 著御船卸式 天覽有之

一式畢テ 行在所ニ被爲入御一泊

一六日午前八時四十五分 行在所御出發同九時波止場ヨリ工部省所轄ノ船ニ 乘御 還幸ノ事

一本日強風雨ニ候ハ、御順延ノ事

但六日七日共強風雨ニ候ハ、潮合等モ有之候ニ付 臨幸御延引船卸ノミ取計候事

一御本艦ニ樂隊一小隊乗付候事

○記三套第三十六號 (三月四日 輪席附)

府 縣

當省軍人軍屬犯罪之者俸給概則別冊ノ通相定當三月十五日ヨリ施行候條此旨爲心得布達候事

(別冊)

十六年海軍省乙類六號達ヲ以テ廢止

犯罪人俸給概則

第一條 一軍人軍屬當罰中公罪私罪ノ別ナク俸給總テ不賜懲罰中モ之レニ準ス

第二條 一將校閉門半年ニ該リ貧窮飢餓ニ及フ可キ者ハ其親戚ヨリ情由ヲ具シ請願スレハ其現實ヲ詳審シ一日一口九錢宛ヲ給ス 七歳未満ハ其半ヲ給ス

第三條 一公事失錯等ニテ糾問中ハ月俸全額ヲ給ス

第四條 一犯罪有無未決ノ者監倉入獄及ヒ拘留或ハ停住等月俸ノ者ハ其五分ノ一ヲ給シ日給ノ者ハ統テ不賜尤糾鞠シテ無罪ニ決スル者ハ全額ヲ賜ヘシ

第五條 一下士以下輕罪糾問中艦外或ハ營外禁足ノ者ハ其給五分ノ一ヲ給スヘシ

第六條 一軍人軍屬犯罪ノ者糾問且訴訟等ニ付呼出ノ節ハ旅費不被下下士以下ハ現費タル可シト雖モ旅費定則其等級三分ノ一ヲ過クヘカラス

但糾問ノ上無罪ニ決スルハ定則旅費全數下賜リ私ノ訴訟ハ此限ニアラス

第七條 一公務取扱上ニ付取調ノ筋有之呼出ノ節ハ定則旅費全ク賜ル可シ

第八條

記三套第四百三十三號達ヲ以テ第四條但書增加

記三套第四百三十三號達ヲ以テ第五條中改正

十四年海軍省乙類七號達ヲ以テ第六條中改正

記三套第四百三十三號達ヲ以テ第六條但書改正

第百九十二號布告
ニ依リ第十條消滅

一 停官以上ノ刑ニ處セラレ歸國スル者ハ免職歸國定則旅費四分ノ一ヲ賜ルヘシ
第九條

一 私罪停官以上並破廉耻甚シキ者ハ滿年賜金賜ラサルヘシ
第十條

一 放逐ノ刑ニ處スル者ハ一日行程十里詰ヲ以テ一日旅費十八錢七厘五毛宛賜ル可シ
第十一條

一 徒刑滿期ノ者東京府ヘ引渡シ追テ歸國旅費東京府添書ヲ以テ願出レハ放逐同様一日行程十里詰
メ旅費十八錢七厘五毛宛賜ルヘシ
第十二條

一 犯罪者捕縛ノ上入牢拘留セララルハ傳給總テ不賜ヘシ
第十三條

一 下士卒夫逃亡スル者ハ即日ヨリ家族扶助金ヲ止ム後日捕縛或ハ悔悟歸投スル者其刑除隊ニ不至
ハ處刑ノ日ヨリ更ニ扶助金ヲ給ス
第十四條

一 前條ノ者悔悟シテ二週内ニ歸投スル者ハ扶助金ヲ止ルコナク二次ニ及フ者ハ此限ニ非ス
第十五條

一 囚人徒刑人病死スルニ親族又ハ朋友ヨリ死體引取願出レハ埋葬料トシテ金三圓賜ル可シ
但其死亡スル者ノ親族等其所ニ不在シテ引取不願出ハ現費ヲ以テ計算スヘシ

○ 記三套第三十七號 (三月四日)
大阪丸明五日午前九時横濱發船致候間兼テ相達置候同船乘組之海兵舟卸拜見トシテ出張之諸官

十六年海軍省乙第
六號ニ依リ消滅

員右時限前乘組候様可致此段相達候事

○ 記三套第三十八號 (三月九日)

下士以下當罰中日給引揚方之儀六年一月甲第卅七號ヲ以テ相達置候ニ就テハ同號布告以來引揚候
金員各所轄ニ積置キ有之分明細ニ取調會計局ヘ上納可致尤本月以後ハ記三套第三拾六號布達之通
相心得月末毎ニ決算可致此旨相達候事

十六年海軍省丙第
三十七號及會計
整理上ノ規則ニ依
リ消滅

○ 記三套第三十九號 (三月十三日)

諸艦船乘組生徒病氣入院之節支給方之義自今俸給三分ノ一其月十五日前後之區別ヲ以テ相渡入院
中必用品代ヲ除ク之外藥價及ヒ賄向諸入費ハ軍醫察ニ於テ官費ニ相立可申此旨相達候事
○ 記三套第四十號 (三月十五日)

本年一月記三套第六號ヲ以テ入院患者ヘ面會之節其所轄之添書持參可致旨相達置候處往々其儀無
之面會願候向モ有之由不都合候條自今尙更注意所轄長之添書可致且危篤之者ニ限必醫官之許可ヲ
得テ問病可致此段更ニ相達候事

○ 記三套第四十一號 (三月十五日)

艦船並隊附士官等忌服之義壬申八月乙第壹百貳號ヲ以相達置候處今般左之通改定候條此旨更ニ相
達候事

一 乘艦並隊付之將官以下及在營之兵夫忌服有之候トモ公務ニ服從可致事
一 乘艦外之諸生徒ハ父母死去之節ノミ三日間於舍内可相慎事

○ 記三套第四十二號 (三月十八日)

武官初任ノ節自今別紙之通辭令副達致候條此旨布達候事
但從前拜任ノ輩ヘハ改テ辭令書不相渡候條現今從事スル所ヲ以其本科ト可相心得候事

十六年海軍省丙第
十一號消滅

明治八年三月 海軍省 布達 記三套第三十八號 記三套第三十九號 記三套第四十號 記三套第四十一號 一五五九

(別紙)

十一 年 大政官第五
號達ヲ以テ海兵部
停止

砲兵科被 仰付候事

年 月 日

海 軍 省

海軍大中少尉 何誰

砲兵科申付候事

年 月 日

海 軍 省

海軍少尉補 何誰

右辭令書拜受セシ者ハ時トシテ本省並部府其他寮司等へ出勤又ハ昇級等命セラレ候月俸ハ俸給制第七表ノ通り服制ハ海兵隊砲兵ノ部ニ照準可致事

海軍大中少尉 何誰

歩兵科被 仰付候事

年 月 日

海 軍 省

海軍少尉補 何誰

歩兵科申付候事

年 月 日

海 軍 省

右辭令書拜受セシ者ハ時トシテ前件ノ命令有之候月俸ハ俸給制第八表ノ通り服制ハ海兵隊歩兵ノ部ニ照準可致事

兵ノ部ニ照準可致事

右兩様ノ外ハ都テ運用科航海科等ノ乘艦武官ト定ム故ニ時トシテ前件ノ命令有之候トモ月俸ハ俸給制第一表ノ通り服制ハ武官ノ部ニ照準可致事

○記三套第四十三號 (三月十八日)

十九年海軍省令第
六十號ヲ以テ俸給
制停止
十六年大政官第四
十四號達ヲ以テ服
制改正
記三套第四十四號
達ヲ以テ改正

九年海軍省丙第三
號達參看

下士以下之者副陸轉乘之儀一昨六年四月中相達置候處右ハ詮議之次第有之自今艦隊外之艦船ニ限リ甲艦ヨリ乙艦へ轉乘之節達方之儀ハ共主管ヨリ提督府へ申立同府ヨリ辭令書請取候上該艦長ニ於テ達方取計候條可致此旨相達候事

○記三套第四十四號 (三月二十三日)

記三套第四十三號達不都合之廉有之候ニ付取消シ更ニ左之通改定候條此旨相達候事

下士以下乘組替達方之儀月給或ハ等級ニ不關係之分各管轄廳ニ於テ相達來候處甲管轄之諸艦船ヨリ乙管轄之諸艦船へ轉乘之儀自今乙管轄ヨリ甲管轄へ打合濟之上提督府へ申立同府ヨリ相達候事ニ更定候條此旨相達候事

但管轄中甲艦ヨリ乙艦へ轉乘之儀及海兵之儀從前之通可相心得事

○記三套第四十五號 (三月二十四日)

函容丸之儀今般開拓使へ讓渡候條此旨爲心得相達候事

○記三套第四十六號 (三月二十七日)

使丁附屬等之類新採用ヲ始メ都テ褒貶副陸等之儀本省ヨリ辭令書不相渡候分諸管轄ヨリ申出之節往々具狀界紙へ相認メ差出候向有之候處自今右之類ハ檢印界紙へ相認メ正副書ヲ以テ可申出此旨布達候事

○記三套第四十七號 (三月三十日)

看病夫之義患者取扱之際傳染症ニ感候節ハ以來官費ヲ以入院爲致候條此旨爲心得相達候事

○記三套第四十八號 (四月五日)

海陸軍刑律第四十九條降等處分之者滿限之後舊任ニ復シ候義ハ伺出ニ不及其筋長官取計濟之上可届出此旨爲心得相達候事

十五年海軍省丙第
五十五號達ニ依リ
海兵
十四年第七十號布
告ニ依リ消滅

明治八年四月 海軍省 達 記三套第四十四號 記三套第四十五號 記三套第四十七號 記三套第四十八號 一五六一

記三套第八號達
九年海軍省丙第百
三十五號達ヲ以テ
改定
記三套第九十二號
達ヲ以テ第十一條
改定

○記三套第四十九號 (四月五日)
太政官御達第四十號金穀出納勘定帳及内譯明細表ニ用ル界紙ハ調度課ヨリ可請取此旨相違候事
*○記三套第五十號 (四月五日)
長崎海軍出張所職制並事務章程ノ義別冊之通假リニ相定候條此旨爲心得相違候事

(別冊)

職制

長

- 第一條 所中ノ諸官員ヲ統督シ一切ノ事務ヲ管理ス
- 第二條 所中諸般ノ事務成規ト章程トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ本省ニ對シテ擔保ノ責任ヲ有ス
- 第三條 掌管ノ事務ニ於テハ本省ニ對シテ其當否ヲ論辨スルヲ得
- 第四條 事務章程ニ照シ判決ヲ乞フノ條ハ本省ニ具狀シ專任ヲ得ルノ件ハ便宜處分ス
- 第五條 所中諸官員ノ能否勤怠ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ或ハ事務ノ煩簡ヲ量リテ之ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ本省ニ呈シ其判決ヲ乞フヘシ
- 第六條 碇泊諸艦船ノ諸務ハ都テ該長ノ申出ニヨリ章程ニ照準シ施行スヘシト雖モ或ハ決シ難キノ件々ハ該長ト協議ノ上尙章程ニ照準シテ施行スヘシ
- 次長 臨時置之
- 第一條 職掌責任長ニ亞ク
- 第二條 長闕席ノ時ハ其代理タリ
- 屬僚

九年海軍省記三套
第三十五號達ヲ以テ
第三條改正
十年海軍省丙第百
三十五號達ヲ以テ
第五條但書增加

十年海軍省丙第百
三十五號達ヲ以テ
第九條改正
記三套第九十二號
達ヲ以テ第十一條
改定

長ノ指令ヲ受ケ所中ノ事務ヲ分掌ス

但長次長闕席ノ時ハ上席ノ者假リニ之カ代理スヘシ

事務章程

- 第一條 所中ノ規則ヲ改定スル事
- 第二條 倉庫及屋舎等ヲ新タニ建設シ或ハ三拾圓以上ノ金額ヲ以テ修繕スル事
- 第三條 三拾圓以上ノ金額ヲ以テ必用諸物品ヲ購求スル事
- 第四條 必用ノ諸物品ヲ外國ヘ注文スル事
- 第五條 諸官員ヲ進退黜陟スル事
- 第六條 事務章程ノ條件ヲ増減更正スル事
- 以上各件ハ長之レヲ判案シ其要旨ヲ概記シ或ハ處置ノ法案ヲ作り本省ノ判決ヲ乞フテ然ル後施行スヘシ
- 第七條 既成ノ屋舎倉庫等三拾圓以内ノ金額ヲ以テ修繕スル事
- 第八條 三拾圓以内ノ金額ヲ以テ必用ノ諸物品ヲ購求スル事
- 第九條 小使門番等ヲ雇入且ツ之ヲ進退スル事
- 第十條 諸官員ヲ臨時唐津大瀬等へ出張セシムル事
- 第十一條 等外官ヲ進退シ及一等卒以下ヲ進退黜陟スル事
- 第十二條 定用外ノ諸物品引替及石炭等ヲ臨時艦船ノ需メニ充ル事
- 以上各件長之ヲ判決施行スト雖之ヲ行フノ後細大緩急ヲ量リ其要旨ヲ本省ニ具狀スヘシ
- 第十三條 至急處置ヲ要スル事件ハ電信ヲ以テ本省ニ申告スヘシト雖モ其文ノ長短ニ注意シ且ツ成ルヘクハ郵便ヲ以テ巨細ニ申告スヘキ事

十一年太政官第五
號達ニ依リ消滅

第十四條 常ニ港内ノ外國艦船ヲ認視シ其出入ノ月日及名號國號ヲ記載シ一月毎ニ之ヲ本省ニ報告スヘシ其景況ノ緩急ニ因リテハ臨時電信ヲ以テ報告スヘキ事

第十五條 所中ノ書類ハ式様ノ如ク編纂シテ後日ノ考據ニ備フル事

第十六條 所中諸官員ノ旅費諸修繕ノ經費及諸雜費等ハ式様ノ如ク總計表ヲ作り一月毎ニ之ヲ本省ニ進呈スヘキ事

○記三套第五十一號 (四月二十二日)
海軍概則並條制第九表中都合モ有之候ニ付別表之通増減改定來ル五月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

海兵武官加俸表

大隊長	大隊副長	隊長	主計係	砲	兵射	官法	佐給	砲	兵射	官法	體	操	馬飼料
八圓	四圓	六圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	八圓
四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓
五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢

記三套第百四號達
ヲ以テ取消

○記三套第五十二號 (四月二十二日)

文武官員其他月給三十圓以下品海出張日當之義別表之通創定候條此旨相達候事 (別表)

品海出張日當表

等	級	當日
文武官月給三十圓以下 拾貳圓迄	等外吏及附屬一級ヨリ 十級迄其餘術業等ニテ 雇抱ノ者月俸十六圓以 上	金七拾五錢
附屬十一級ヨリ二十八 級マテ其他器械保護手 用使察司番便丁諸番人 下小使及定雇夫ノ類		金四拾三錢八厘
		金貳拾貳錢五厘

但一日間又ハ二日ニ往返スル日數ニ應シ本文ノ日當ヲ給ス尤御用柄ニ寄
滯留スルハ一般定期ノ滯留日當ノミヲ可給事

十一年海軍省丙第
百二十六號達十七
年同丙第八號達ニ
依リ消滅

○記三套第五十三號 (四月二十二日 輪廊附)
昨七年三月常省甲第二十八號達條中第三款左之通改定候條此旨更ニ相達候事

府 縣

下士以下歸省不差許規則候處艦内教授役及三上長諸工水火夫年限未定ノ者ニ限リ事實不得止歸
省開屆候未萬一事故アリ往來之外日數百日ヲ過ル時ハ扶助金差止候ハ勿論滿年賜金之儀モ同様
百日已上之日數ハ勤務中ニ不算入追而永暇申付候節滿年數ヨリ右日數引去賜金相渡候事

○記三套第五十四號 (四月二十二日 輪廊附)
府 縣

海軍下士官等之内職役欠員ニ付志願之者三月廿日限リ當省内提督府江可願出旨本年一月記三套第
四號ヲ以テ相達置候處尙別表之通欠員相成居候ニ付志願之者ハ檢査之上採用可致候條先般相達候

明治八年四月 海軍省 達 記三套第五十三號
布達 記三套第五十四號

手續ヲ以同府ニ可願出此旨更ニ布達候事
但出京路費等ハ都テ自費タルヘキ事
(別表)

海軍下士徵募人員表

相十當等	相十一當等	相十二當等	相十三當等	相十四當等	員數
掌砲上長	掌砲長	掌砲次長	掌砲長屬		二十名
水夫上長	水夫長	水夫次長	水夫長屬		二十名
		指揮官端舟長	艦長端舟長	中端舟長	
		甲板長	大端舟長	小端舟長	五十四名
		按針長	檣長	檣長屬	
		信號長	信號次長	信號長屬	
		帆長	帆次長	帆長屬	
		造網長	造網次長	造網長屬	
木工上長	木工長	木工次長	木工長屬		三十名
		積器工長	積器工長		十名
		備工長	備工長		十名
		火夫長	火夫次長	火夫長屬	二十七名
		火夫長屬			十五名
		鐵砲士副			
		鐵砲士			
		鍛冶長	鍛冶次長	鍛冶長屬	
		鍛冶長屬			
		右總計	二百九名		

九年八月三十一日
提督府廢止

九年八月三十一日
軍醫寮廢止
十一年海軍省甲第一號布達參看

記三套第百六十四號
陸達參看

記三套第百二號
陸達參看

○記三套第五十五號 (四月二十二日)
提督府所轄之下等士官以下勤仕年期未定ノ者無據事故ヲ以テ永暇願出候向モ往々有之候處右ハ明治五年壬申五月乙第四十六號布達之通一切永暇不差遣候條猶又此旨布達候事

○記三套第五十六號 (四月二十三日)
看病夫長之義是迄於提督府所轄致來候處自今軍醫寮所轄被仰付候條此旨更ニ相達候事
但シ從前之分送籍其外總テ取扱等之義ハ昨七年記三套第八十四號ニ可照準事

○記三套第五十七號 (四月二十八日)
砲歩兵樂隊手等ニ相渡候石輪靴墨代價及被服靴修復料等渡方並期限等之義詮議之次第有之從前之定則相廢シ更ニ左之通改定候條此旨相達候事
但靴墨料及被服靴修復料等ハ本月分ヨリ石輪料ハ五月分ヨリ施行候條每月廿五日ヲ以渡日ト相定乘艦又ハ歸營等之者重複不相成候條注意可致事

一石輪料 一ヶ月金八錢五厘

一靴墨料 同 金三錢五厘

一被服修復料 同 金八錢

一靴修復料 同 金八錢

○記三套第五十八號 (四月二十九日)

明治八年四月 海軍省 布達 記三套第五十五號
記三套第五十六號 記三套第五十七號 記三套第五十八號

當省昇降時限來五月二日ヨリ午前第八時出省午後二時退省候條此旨相達候事

○記三套第五十九號 (四月二十九日)

當省所轄文武諸官員等外ニ至ルマテ府下住居之向轉居届出方之儀是迄區々ニテ宿所取調等之節不都合不少候ニ付爾後轉宅等致候節ハ其宿所何大區何小區何町何丁目何番地ト詳細相認共都度都度無遺漏可届出此旨相達候事

但艦船乘組ニテモ府下住宅有之分ハ本行ノ通タルヘキ事

○記三套第六十號 (五月二日)

文武諸官員及ヒ等外吏以下ニ到ル迄一身ニ關係諸願同屆等從前姓名ノミ記載差出候輩往々有之不都合候條何官何等出仕或ハ何職等之字ヲ記載候條可致此旨相達候事

○記三套第六十一號 (五月七日)

提督府中演習所之名號ヲ廢止自今屯集處ト改稱候條此段相達候事

*○記三套第六十二號 (五月七日)

艦船新製及修復之儀ニ付別紙之通主船寮へ相達候條此旨爲心得相達候事

(別紙)

一今般石川島之儀修復而已ト被相定候ニ付テハ端舟及ヒ拾馬力以下小蒸氣船ノ外同所ニ於テ蒸氣船帆前船等製造之儀ハ今後悉皆相廢止候積リニ可被相心得候事

但是迄打建掛ケノ分ハ落成可爲致候事

一横須賀造船所於テ修復可致艦船ハ艦長副艦長ノ内登人並諸器具看守及掃除等ノ爲メ機カノ水火夫ヲ殘シ置キ其餘ノ人員ハ一時乘組差免シ其寮所轄ニ可申付候事

十二年海軍省丙第三號達ニ依リ消滅

九年海軍省丙第三號達ニ依リ消滅

九年八月三十一日提督府廢止同年十一月二十一日東海守府府所轄トス九年海軍省丙第九十二號達
九年海軍省丙第三號達
九年海軍省丙第三號達

但ドック入外廻リ而已ノ修復ニテ格別ノ日數ニ無之分ハ此限ニアラス

一其寮定額金繰リノ都合ニハ候得共横須賀造船所ニ於テハ蒸氣軍艦及帆前船ノ内不絶三艘宛新製ニ着手致シ居候積ニ可相心得就テハ其寮所轄ニ可申付程ノ修復ニ無之分並ニ石川島へ乘入候儀出來メケ之船艦ハ總テ石川島ニ於テ修理取計候條可致候事

一石川島ニ於テ製作出來カメキ鑄物其外鐵物等ハ同所ニテ委シテ繪圖等相認メ横須賀へ申達シノ上製造致候條可取計候事

一横須賀造船所へ引受候修復艦船ノ製作品ヲ石川島へ申込製造爲致又ハ石川島ノ方へ引受ケ候修復艦船ノ製作品ヲ横須賀ノ方へ申達製造爲致候儀ハ其節雙方各職場等ノ繁閑ニ寄リ便宜ニ隨ヒ可取計候事

○記三套第六十三號 (既覽)

○記三套第六十四號 (五月八日)

文部省ヨリ藏版取調之儀ニ付別紙之通懸合有之候ニ付テハ藏版之分取調來八月中迄ニ可差出此旨相達候事

(別紙)

全國藏版調之儀別紙之通府縣へ相達候條諸達書日誌等之外御藏版之分離形ニ照準シ悉皆記載御廻有之度此段及御掛合候也(別紙ハ文部省第(四號達ニ同シ)

八年四月廿八日

海軍大少丞 御中

文部省

准刻課長

記三套第八十二號
達發有十六年海軍
省丙第二十七號達
ヲ以テ移轉

九年太政官第六十
四號達ニ依リ消滅

十年海軍省丙第四
十八號達ニ依リ消
滅

九年八月三十一日
提督府廢止

九年八月三十一日
提督府廢止同年十
二月二十一日屯集
所ヲ東海軍守府所
轄トス

○記三套第六十五號 (五月八日)
本省中兵器局被置元武庫司ヲ以同局ト被定候事
但元造兵武庫兩司之庶務管理セシメ候事

○記三套第六十六號 (五月十五日)
將佐尉祕書主計軍醫及三副機關士旅費之儀追テ確定候迄總テ現官ノ等級ヨリ一等下リヲ以テ相渡候旨明治六年九月中甲第百八十壹號ヲ以テ相達置候處自今現官等級相當ノ旅費相渡候條此旨相達候事

○記三套第六十七號 (五月十五日)
艦内教授役三上長以下諸工水火夫艦船乘組中犯罪之者裁判所ニ於テ處刑濟引渡方之儀都合モ有之候就テハ本艦船品川碇泊ヲ除ク之外横須賀横濱ヲ其乘組之免不免ニ不拘提督府其他本人所轄ハ一時引渡候條自今犯罪人有之本省ハ上申裁判所へ差送候ハ、其艦船ヨリ速ニ提督府其他本人所轄へ通告可致此旨相達候事

○記三套第六十八號 (五月十八日)
海軍下士官等ノ内欠員ニ付志願之者提督府ニ可願出旨去ル四月中記三套第五十四號ヲ以及布達置候處右表中機關士副ノ義滿員相成候條此旨爲心得相達候事

○記三套第六十九號 (五月十八日)
提督府中屯集處被置候ニ就テハ規則別紙之通りニ候條此段爲心得相達候事

- (別紙)
- 一上下士官ヲ始メ卒夫ニ至ル迄定員ヲ取極メ其他ハ都テ非役タルヘキ事
 - 一定員ニ編入スル者ハ一般ニ本給ヲ與フヘキ事

- 一定員外下士以下ノ者小蒸氣船運轉石川島及其他ノ使役申付候時ハ使役給ヲ與フヘキ事
 - 但シ日課外傳習爲致者ヘモ本給三分ノ二相渡候事
 - 一屯集處日課ノ義ハ協議ノ上相設候事
 - 一屯集處中ノ義ハ入院退院ヲ始メ百般ノ事件諸艦船同様タルヘキ事
 - 一雇入候者ハ屯集處人數ノ多少ニ依リ増減致候事
- 屯集處定員

少佐	壹名
大尉	二名
中尉	二名
少尉	三名
大機關士	壹名
中機關士	二名
少機關士	二名
大軍醫	壹名
中軍醫	二名
少軍醫	二名
軍醫副	壹名
大主計	壹名
中主計	二名
少主計	二名
主計副	二名

艦内教授役	之内	三名
同 介		
掌砲上長ヨリ	之内	一名
同 長副迄		
水夫上長ヨリ	之内	一名
同 長副迄		
木工上長ヨリ	之内	一名
同 長副迄		
警吏	之内	四名
同補		
筆生		二名
機關士副		二名
火夫長ヨリ	之内	一名
同 長副迄		
厨宰	之内	三名
同介		
割烹		二名
鍛冶長ヨリ	之内	一名
同 長副迄		
看病夫長		一名

- 下士ノ内
- 六名
- 一二等砲夫
- 二名
- 一二等水夫
- 四名
- 一二等火夫
- 四名
- 一二等木工
- 二名
- 一二等鍛冶
- 二名
- 守燈夫
- 一名
- 以上

○記三套第七十號 (五月二十日)

海軍文武官員並下士卒夫諸生徒ニ到ル迄當罰中者祭祀日共酒饌料不賜候此旨相達候事
但日曜日賜酒料被下候者モ本文同様不賜候事

○記三套第七十一號 (五月二十日)

艦内教授役三上長及海兵曹長以下黜陟轉免乘退艦等之節辭令書相渡來候處詮議之次第有之自今乘
退轉ニ限リ木人へ口達之末兼而相渡置候手帳へ其旨記載所轄長官檢印可致候條此旨相達候事
但達方等之手順ハ總テ本年三月記三套第四十四號之通可相心得事

○記三套第七十二號 (五月二十三日)

艦隊及諸向所轄之艦船長崎港及其近海へ航海中同港出張處ヨリ諸物品相渡候ニ付テハ黜陟轉免等
ヲ始メ其他之事件モ悉皆右出張處ニ於テ關係不致テハ不都合ニ候條向後同港及其近海へ航海之諸
艦船ニ於テハ總テ右出張處へ申出候様可致此旨相達候事
但本文申出ノ内其事件ニヨリ本省ヨリ該管へ質問之上施行候儀モ可有之就テハ該艦船ニ於テ同

十一月大政官第五
十六號達十六年海
軍省丙第十九號達
ニ依リ但書消滅
十七年海軍省丙第
百十四號達ヲ以テ
廢止
記三套第七十八號
達ヲ以テ文中改定
記三套第七十五號
達ヲ以テ改正

出張所へ申出候事件ハ悉ク該管へモ可届出事

○記三套第七十三號 (五月二十三日)

來ル二十七日午前八時御出門ニテ越中島へ 臨幸鐵板砲擊試驗 天覽被 仰出候條此旨爲心得相達候事

○記三套第七十四號 (五月二十四日)

來ル廿七日越中島ニ於テ鐵板砲擊試驗 天覽被 仰出候ニ付本日休暇候事

○記三套第七十五號 (五月二十四日)

來ル廿七日越中島ニ於テ鐵板砲擊試驗 天覽被爲在候ニ付テハ諸官員勝手ニ拜見候義不苦候條此旨相達候事

○記三套第七十六號 (五月二十四日)

高雄丸大阪丸之義運送船之心得ヲ以諸事取扱候條此旨爲心得相達候事

○記三套第七十七號 (五月二十五日)

來ル廿七日於越中島鐵板砲擊爲 天覽行幸被 仰出候處右ハ御延引相成候間此旨相達候事

○記三套第七十八號 (五月二十八日)

記三套第七十號達書本文中所謂轄長官之四字ヲ隊艦長ニ相改並但書左之通改定候條此旨相達候事 但シ申出方等之手續ハ總テ從前之通可相心得事

○記三套第七十九號 (五月二十八日)

海軍武官制服卷首附錄第八款並下士以下制服第五條へ別紙之通但書追加候條此旨相達候事

(別紙)

附錄第八款但書增加

但シ「白リンチル」ノ上衣ヲ着スル時ハ各其階級ノ袖章ヲ附スヘシ

記三套第七十七號

大坂丸ハ十二月二

十五日開防洋ニ沈

没十一月海軍省丙

第二十三號達ヲ以

テ高雄丸ヲ測量船

トス

記三套第八十四號

達參行

十七年海軍省丙第

百十四號達ニ依リ

消滅

十六年太政官第四

十四號達ニ依リ消

滅

正百一十年海軍省丙第

一號達ヲ以テ改

諸規則制定ニ依リ

海軍下士以下制服第五條但書增加

但シ三等筆生以下割烹夫使丁ニ到ル迄黑色角製ノ鈕ヲ用ユヘシ

○記三套第八十號 (五月二十八日)

艦隊事業定期別冊之通相定本月一日ヨリ施行可致旨指揮官ヨリ届出候條爲心得各所轄之艦船へ可被相達此旨相達候事

(別冊)

定則

一少尉以下正略服ノ外商人ノ帽服用ヲ禁スル事

一當直艦ノ少尉以上ノ士官艦長ノ命ヲ受ケ内外國ノ軍艦ニ往ク時ハ旒旗ヲ其端船ニ曳クヘシ而シテ先ノ艦船ニ於テハ號笛ヲ吹ク

一内國ノ士官少佐並艦長以上ニアラサレハ舷門昇降ノ砌號笛ヲ用ユヘカラス

一當直ヲ勤ムル艦ニハ端船ヲ曳キ卸シ置其日上陸ヲ許スヘキ水夫モ餘日ニ讓リ候事

一艦長互ニ秘密信號ヲ取扱フ事

但艦長ノ外他見ヲ許サス

一一般ノ手旗信號ヲ用ユル事

一コンボートハ當番海兵へ小銃持タセシテ宜シキ事

一官員艦長以上端船ニテ艦船ノ船首ヲ通航ノ節遠方ヨリハ禮式ニ不及事

一止ムヲ得サル事故アリト雖モ艦長副長不在艦ノ儀無之様可致艦長上陸ノ節ハ副長必ス在艦ス可シ

一艦船乗組ノモノ陸上宿泊ノ度數ヲ嚴重記シ置キ病氣引入陸上ニテ施療願出ル時ハ醫へハ一月ヨ

但横濱須賀邊碇泊ノ節私事此限ニ非ス

一金穀諸物品拂出及ヒ積卸ノ儀無洩艦長ニ申出例外ノ義ハ指揮官ニ伺之上會計官出納ヲ致スヘキ事

一月俸並日給渡方ノ節艦長立合ノ上取計ノ事

一クルセルノ義ハ艦長室艦士室ニ限リ晒帆木綿ニテ製造シ其他ハ並帆木綿ニテ作ルヘシ

一大小綱具ノ留メヲ一般ニナス事

但綱徑三倍トスル事

一木曜日ノ朝點檢ニハクオートルノ喇叭ニテ集合致來候處以來ハヂビシヨシニテ整列ヲ爲ス事

一管轄外ノ艦船タリトモ二隻以上ノ節ハ先任士官代分旗ヲ揚グヘキ事

一各艦航海ノ時測量及ヒ運用ニ關スル士官等ハ正午經緯度又ハ艦ノ方向ヲ替ル時又運用ニハ帆ノ伸縮投錨出港等ノ儀其時々其艦長ヘ届出方ヲ一般ニナス事

一整列イダシ候末開ケノ喇叭ニテ船首ヲ向キ中樁ヨリ船尾ノ方ハ開ケノ令アルト雖モ中樁ヲ過ル迄ハ決シテ亂ルヘカラス

一釣床納方ノ節各受持ノ取場ヘ持行キ兩舷ヘ之ヲ立テ掛ケ後當直士官悉ク點檢シ若シ結東方不法ノ者ハ曳去置充分檢査ノ上納メノ命ニテチツチンダニ納メ方齊正スヘキ事

一艦内事業ハ緩急ヲ以區別シ而シテ其司令士ハ翌日ノ事業ノ箇條ヲ筆記シ必ス其日ノ休憩喇叭前ニ夫々長職ノ者ヘ達スヘシ其事業ノ條ヲ筆記セシ書札ハ司令士所持シテ毎夜之ヲ艦長ニ呈スヘシ

一指揮官以上ノコモドミラールニエハ水夫長號笛ヲ携ユヘシ其以下ニハ水夫長屬ニテ吹クヘキ事

一戰爭中火災起ルトキハ防火隊ヲ以テ防ク可シ之レニテ防キ得サル時ハ火災ノアル場所ニ近キ砲手ヲ以防カシムヘシ假令ハ船尾ニ火災アラハ船尾ノ回轉砲打方ヲ止メ防火隊ニ加フヘシ夫ニテモ防キ難キ時ハ四番砲ノ打方ヲ止メテ防火隊ヲ助クヘシ船首ノ時モ此レニ同シキ事

一此迄戰爭用意ノ喇叭ヲ吹ケハ各兵員其持場ニ整頓スルヲ待チ其旨受持士官ヨリ副長ヲ經テ艦長ニ届ケ出テノ上點檢シ來リシ處自今戰爭用意ノ喇叭ヲ聞ク時ハ各持場ニ齊頓スルヤ否ヤ艦長各砲打方ノ令ヲ下シ打方準備ノ上直ニ受持士官之ヲ副長ニ届ク此時打方止ノ令ヲ下シテ點檢ヲ爲ス

一トツブ狙撃ノ所帆布覆ニ小銃ヲ出ス程ノ穴ヲ穿ツ事

一戰爭操練ノ喇叭ハ前後ニシ一ツ付ル事

一戰爭操練ノ節號令ノ内

各砲打方水平中央ヲ狙ヘ

何々々々丁ニ(實)榴彈ヲ裝填

照準ヲ(前)(後)部ニ一交換

照準ヲ中央ニ一交換

一回轉砲ヲ左右舷ニ準備スル號令

砲口ヲ(左)(右)舷ニ準備

一彈擊ヲ避クルノ號令

(前)(背)面彈擊ヲ避ケ

前面ヲ防ケ但吾カ艦ニ擊撃セラル、時 背面ヲ防ケ

前面ニ進メ但敵船ニ進入ノ時

背面ニ進メ

一 戰爭中ノ火災訓練ハ平常火災訓練トハ區別ヲナス事

一 接戦ノ節ハ一番二番分隊ト號令ニヨリ進退イタス可キ事

一 海兵ヲ各砲ヘ配當水夫ト混同ヲナス事

但艦々操練熟達ノ上施行シテ遲シトセス

一 戰爭及帆前訓練號令熟達ノ上ハ和英兩語ヲ兩様用方ノ事

一 戰爭操練之節砲座及諸甲板上水並土砂用意ノ事

一 又小銃ノ彈藥適宜ノ場所ヘ差出置ク事

一 戰爭操練ノ節預備ノ大綱並リギン修理用ノテークル等ヲ備フル事

一 トップ狙撃手ハ掛筒ヲナシテトップヘ登ル可シ

一 戰爭操練ノ節ハ小測鉛手ヲ設ケ置ク事

一 紀元節ノ式左ノ如シ

午前第八時三橋上ニ御國旗及信號旗ヲ飾ル各艦モ同シ此時旗艦ニハ

天皇禮式ノ奏樂

同九時整列大和畝傍山御陵遙拜式ヲ行フ指揮官各艦ニテハ艦長拜辭ヲ誦ス

掛卷母良支

神武天皇乃大前乎遙爾拜美奉止 其久 白須

一 射的試験之節上等ノ者ヘ褒賞ヲ與フル一般ノ規則ヲ行フ事

一 戰爭操練ノ節是迄拔劍致シ候處以來ハ拔劍スヘカラス

但拔劍ハ接戦用意及ヒ時機ニヨルヘシ

一 艦船ニ於テ下甲板ヲ土曜日ノ外水洗ヲ爲ス可ラス日毎ニ拭巾ニテ清潔ニスヘシ然シテ濕氣去ラ
サル時ハ炭火ヲ用テ乾カスヘシ

一 艦船表下甲板及ヒ諸蓄藏等ヲ白塗具ニテ塗ル可ラス士官室ノ外總テ下甲板ハ「タイム」ヲ以テ塗
ル可キ事

○ 記三套第八十一號 (五月二十八日)

諸艦船備付之洋食器渡方別表之通確定候條此旨相達候事
但毀損引替之儀ハ其時々事狀爲ト取札シ可伺出候事

(別表)

艦船備付洋食器之定則

第一等艦	上等食器	壹揃
第二等艦	中等食器	壹揃
第三等艦	中等食器	同
第四等艦	同	同
第五等艦	同	同
第六等艦	同	半揃
第七等艦	同	半揃

但シ旗艦トナル中ハ來客多ク可有之ニ付艦ノ等級ニ拘ハラズ中等ノ食器壹揃ヲ增加ス尤旗艦解任ノ時
ハ返納スヘキモノトス且ツ食器一揃ノ定數當分左表ノ如ク定ムヘシ

西洋食器壹揃定數之表

品名	上等壹揃	中等壹揃	下等壹揃	下等半揃
ソップ皿	十二枚	十枚	二十枚	六枚

第十四年海軍省達出
第八〇九號ヲ以テ
艦船備用品取扱
規則假定ニ依リ消
滅

ノ責任ヲ有ス

- 第三條 掌管ノ事務ヲ調理スルニ於テハ本省ニ對シテ其當否ヲ論辨スルヲ得
- 第四條 事務章程ニ照シ判決ヲ乞フノ條ハ本省ニ具狀シ專任ヲ得ルノ件ハ便宜處分ス
- 第五條 局中諸官員ノ能否勸怠ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟スルト事務ノ煩簡ヲ量リテ之ヲ増減スル等トハ審案具狀シテ本省ニ呈シ其判決ヲ乞フヘシ

關係

長ノ指令ヲ受ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

但長闕席ノハ上席ノ者假リニ之カ代理スヘシ

事務章程

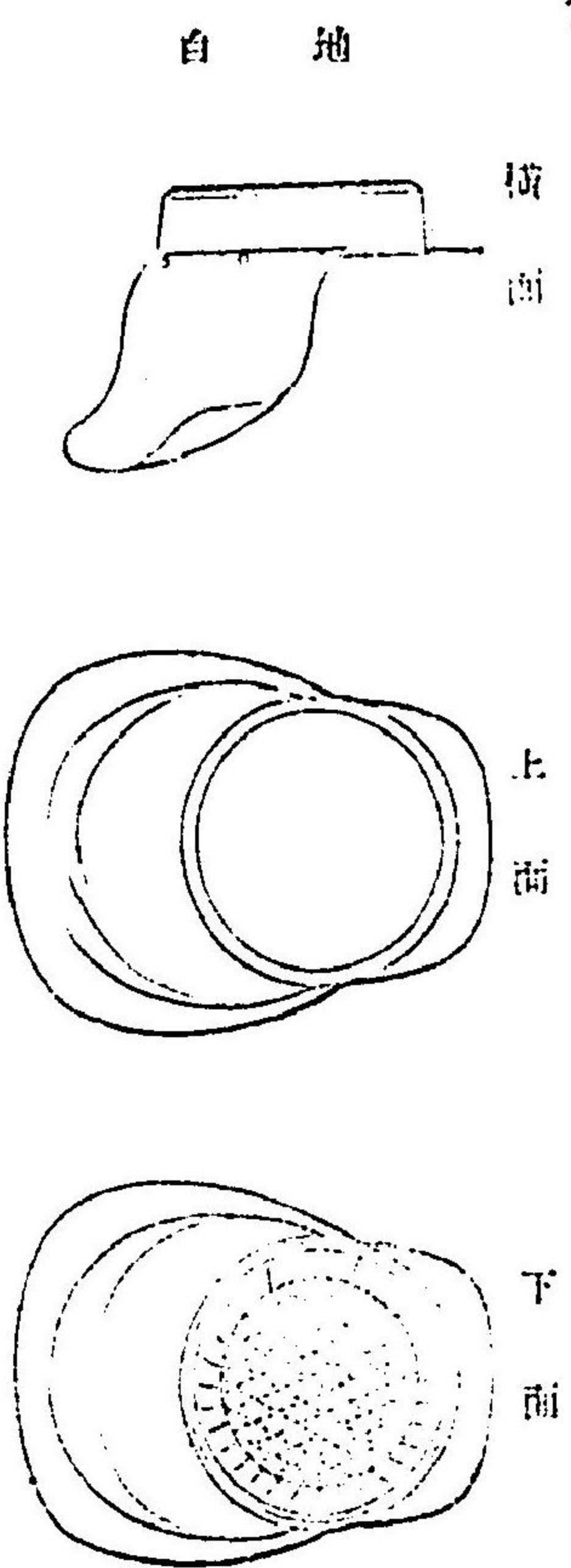
- 第一條 局中ノ規則ヲ改定スル事
 - 第二條 兵器諸物品ヲ製造試驗シ及之ヲ配賦スル事
 - 第三條 蓄品ノ額ヲ増減スル事
 - 第四條 概額外ノ經費ヲ以テ兵器諸物品ヲ購求及修理スル事
 - 第五條 兵器諸物品ヲ外國ヘ注文スル事
 - 第六條 倉庫及屋舎等ヲ新タニ建設シ或ハ成規外ノ經費ヲ以テ修繕スル事
 - 第七條 關係諸員ノ進退黜陟及委任官以上ノ分課ヲ定ムル事
 - 第八條 所管ノ諸員ヲ臨時各處ヘ出張セシムル事
 - 第九條 事務章程ノ條件ヲ増減更正スル事
- 以上各件ハ長之レヲ判案シ其要旨ヲ概記シ或ハ處置ノ法案ヲ作り本省ノ判決ヲ乞フテ然ル後施行スヘシ

記三卷第九十三號
邊ヲ以テ第十四條
削除

- 第十條 概額内ノ經費ヲ以テ兵器及諸物品補闕及修理スル事
 - 第十一條 艦船並本部各隊等ノ缺損兵器ヲ臨時交換スル事
 - 第十二條 既成ノ倉庫屋舎等ヲ成規内ノ經費ヲ以テ修繕スル事
 - 第十三條 關係諸員ノ分課ヲ定メ或ハ之ヲ更替スル事
 - 第十四條 等外以下ノ屬員ヲ進退スル事
 - 第十五條 職工人夫ヲ雇入及其給金ヲ定ムル事
 - 第十六條 以上各件長之ヲ判決施行スト雖モ之ヲ行フノ後細大總意ヲ量リ其要旨ヲ本省ニ具狀スヘシ
 - 第十七條 一月毎ニ準備品配賦品損廢品ノ詳細ナル一覽表ヲ調製シ且一年毎ニ總計一覽表ヲ調製シテ其時々之ヲ本省ニ進呈スヘキ事
 - 第十八條 局中ノ書類ハ式樣ノ如ク編纂シテ後日ノ考據ニ備フル事
 - 第十九條 局中ノ諸費ハ式樣ノ如ク總計表ヲ作り一月毎ニ之ヲ本省ニ進呈スヘキ事
- 局中事務ヲ分課スルコト左ノ如シ
- 製造課
 - 兵器諸物品ノ製圖製作鑄造修理ヲ掌ル
 - 倉庫課
 - 兵器諸物品ノ貯藏出納ヲ掌ル
 - 庶務課
 - 往復文案記録等ノ庶務ヲ掌ル
 - 算計課
 - 物品ノ購求金錢ノ出納等ヲ掌ル

○記三套第八十三號 (六月三日)
艦内ニ於テ夏季帽ノ上覆ニ白布ヲ用來候處汗ノ爲メ保テ方不宜候ニ付今般上士官ニ限り更ニ別紙
離形之通製造着用作爲致度旨指揮官ヨリ申出聞届候條此旨爲心得相達候事

(別紙離形)



○記三套第八十四號 (六月四日)
來ル七日午前第八時御出門越中島へ 臨幸鐵板砲擊試驗 天覽被 仰出候條此旨爲心得相達候事
○記三套第八十五號 (六月四日)
來ル七日越中島へ 臨幸被 仰出候ニ付本日休暇候尤諸官員勝手ニ拜見候義不苦候條此旨相達候
事

但雨天順延之事

九年海軍省記三套
第五號達ヲ以テ改

○記三套第八十六號 (六月五日)
上海港内規則之義別紙之通決議相成候趣ヲ以テ今般在上海品川領事ヨリ差越候條此旨爲心得相達

候事

(別紙)

上海港内規則

一 左開ノ規則ハ當港ニ在ル各國領事並ニ總商局之同意許可ノ上設立スルモノ也

第一章 停泊所ノ事

一 外國船舶ノ停泊所ハ東門埠並ニ大英國海軍物置ノ埠邊ヲ境トス

第二章 入港ノ各船碇泊ノ事

一 進港ノ各國船舶大英國海軍物置所ノ前面ニ到ラハ港長助役ノ者乗船ス此者適宜ノ泊所ヲ差圖ス
ヘシ
但蒸氣引船ヲ以テ入港ノ時ハ浦東ニ於テ港長局河下出張所前面ヲ通行スル時ニ蒸氣ヲ止息ス
ヘシ

一 郵船○沿海往來船並河蒸氣等常ニ停泊ノ定所在ル船舶ハ河下出張所前面ニ止ムルヲ要セス

軍艦停泊所ノ事

一 港内上河ノ所ニ四艘分ノ泊所ヲ常ニ軍艦ノ爲メ設置クヘシ

第三章 特別ノ免許ナク停泊所ヲ變改セサル事

一 船舶ハ港長ノ差圖ヲ得テ停泊ス故ニ特別ノ許容ヲ得スシテ停泊所ヲ換ユヘカラス

第四章 停泊所ヲ變換スルノ類事ハ其船長一
等士官或ハ掛リノ水導者ヲ適任トス

一 停泊所又タハ其遷改ノ許可ヲ乞フハ港長局或ハ出張所へ宛船長一等士官或ハ其船ニ雇リレタル
水導者ヨリ出願ス茲ニ於テ停泊所ノ適當ナル場所ヲ差圖スヘシ

第五章 夜間燈明ノ事

一 各國船夜間ハ輝照タル燈ヲ右舷ノ桁或ハ右舷ノ前繩ニ日没日出ノ間ヲ照ス可シ

第六章 軍艦横木之事

一 軍艦ヲ除ク外各國船船發出横木ヲ用ユルヲ得ス軍艦ノ發出横木ハ日没後ヨリ日出迄ノ間船隊ニ取着ヘシ

第七章 碇繩ヲ整束スル事

一 各船碇繩ヲ整束スルハ肝要タリ滿月並ニ月ノ更改ノ頃ハ一層注意ヲ加フヘシ且又肝要ノ時間ヲ除ク外ハ一ノ船ヨリ他船ヘ繩ヲ引クヘカラス

但先立シテ船船ヲ引ク船ハ繩ヲ短カフシテ通行船ノ航路ヲ妨クヘカラス

第八章 船砲發射セサル事

一 港内ノ商船ハ港長局ノ免許證ヲ得シテ大小銃ヲ放ツ事ヲ得ス

第九章 火藥裝載船ノ事

一 貯品之外火藥石炭油ナイマミツト○アジツト其外發引火物ヲ裝載スル船舶ハ河下停泊所ヨリ責テハ英里一マイル下流ノ所ニ止メ赤旗第五號マルマルシヤルト或ハB號ヲ白晝ハ前桅ヘ懸シ又タ其荷物陸揚等ノ事ハ海關ノ指令ヲ固執スヘシ

第十章 他ニ傳染スヘキ病者アル船進口之事

一 傳染病者ヲ裝載セル船舶ハ河下停泊境界ヨリ一マイル以内ニ近寄スルヲ得ス其船ハ前桅ヘ黃旗ヲ揚ケ且ツ港長ノ免許ヲ得シテ上陸ハ勿論他船ヘモ登人トシテ移ル事ヲ得ス

第十一章 輕荷或ハ無用物ヲ河中ヘ棄サル事

一 船長ハ固ク守ツテ輕荷或ハ灰ナトヲ河中ニ投棄テサル様示諭スヘシ

第十二章 船ニ人員ヲ捕ヘ置ク事

一 港内各國船ハ碇繩ヲ延縮スルニ充分ノ役夫ヲ平常船中ニ備ヘ置カシムヘシ

第十三章 船嘴接木ヲ引付置ク事

一 進口ノ船ハ成丈手順ヲ爲シテ船嘴接木ヲ引付置キ停泊中是ヲ接續セス又タ出港ノ整束ヲ爲シ船嘴接木ヲ出サントセハ河中第九區ニ下リテ後ニ爲スヘシ

第十四章 錨標之事

一 港長ノ免許ナク錨標ヲ浮フヘカラス又現在用ヒシテ浮置モノハ必其上ニ日没日出迄ノ間燈明スヘシ

第十五章 船舶失火之事

一 港内停泊中若シ失火ニ逢フ時ハ其船ト共前後ニアル船ヨリ迅速梵鐘ヲ打鳴スヘシ而レテ二千百〇九號之メリヤツト合旗或ハB T D之コムメルシヤルコードヲ白晝ハ成丈其船ニ引上ケ其前後ノ船ヘモ然カ爲スヘシ夜間ハ帆架ヘ燈ヲ照シ上下スヘシ加之水巡捕船港長出張所浦東旗章並ニ近隣之巡捕房ヘモ速ニ報告スヘシ

第十六章 犯則ノ事

一 上件第二第三第四ニ掲ケタル如ク港長或ハ其代人ヨリ指示セル處ノ碇泊所ヲ用ヒサル船長ハ水巡捕總章第十二節ヲ以テ處置スヘシ則チ出入港並ニ荷物揚卸ハ指令ヲ全スル迄差留ムヘキ條ニ照準スヘシ此外規則ヲ犯スモノハ其自國ノ領事官ノ所置ニ從フ可シ

上海港長局ニ於テ

千八百七十五年五月一日

追加告白

港長ウ井グニ識

旗章所ノ事

一 碇泊所へ近寄時ハ順ヲ追フテ數旗ヲ引クヘシ然ル時ハ港長旗章所ニ於テ同様ノ旗章ヲ揚クヘシ

船長へ告知ヲ乞フ事

一 暗礁淺洲小島破船或ハ困難船又ハ航海中合旗ヲ揚タル外船共位置途中暗雨之模様大風ノ景象出港着船ノ時刻ヲ船長港長同助役ノ者へ告知スヘシ

一 若シ從前ヨリ浮標ノ位置ヲ變シ燈明ノ正シカラサル等ノ事ヲモ告知ヲ請求ス

水導者ノ過失在ル時報知之事

一 水導者ノ職掌及ヒ行狀ニ係ハリ過チ在ラハ港長へ書面ヲ以テ報告アラハ港長迅速ニ之ヲ辨スヘシ

告示ハ港長局ニ揭示アリ

一 港長局内ニ告示板アリ是ニテ局内關係ノ事ハ瞭然タリ加之船舶事件ニ付各船長之告知等ヲモ揭示アリ水導者ノ姓名又タ之ヲ附ス

潮水ノ事

一 潮水ニ隨ヒ蒸氣或ハ帆ヲ掛ケ迅速航スルハ危難多シ春日ハ特ニ注意ヲ爲スヘシ若シ是ヨリ難ヲ生セハ損傷ノ難題免ル、事ナカルヘシ

○ 記三套第八十七號 (六月九日)

別冊昨七年記三套第二十八號達懲罰假規則中何字ヲ何時ト改メ第一條中四十八分ハ四十八時ノ誤ニ候條朱筆改正之通可心得此旨相達候事

(別冊)

懲罰假規則

十四年海軍省丙第七十九號達ニ依リ附載

凡ソ下士卒夫規律ヲ犯ス者軍律ニ備ル所アレトモ輕罰ニ處スル共刑五

第一 禁錮

第二 雜役

第三 立番

第四 謹慎

第五 營外禁足

一 禁錮ハ罪ノ輕重ニ依テ一週二週三週ノ別アリ親友ノ通問ヲ許サス

一 雜役ハ其罪ノ輕重ニ從ヒ三日ヨリ三週間ノ別アリ其隊中食事ノ運送ヲナシ食器等ヲ洒洗シ或ハ仕ヒ水汲揚部屋部屋内外雪隠等ノ掃除ヲ役ス

一 立番ハ罪ノ輕重ニ從ヒ一日ヨリ一週之別アリ樂隊ハ樂器ヲ携ヘ番兵屯所ノ前ニ立タレム但朝六時ニ初メ夕六時ニシテ止ム

一 謹慎ハ罪ノ輕重ニ從ヒ一日ヨリ三週ノ別アリ部屋ヨリ外出ヲ禁シ親友ノ通問ヲ許サス操練並番兵等ノ節ハ之ヲ勸メシム水夫モ亦之ニ準ス休足ノ時間ニ及テハ謹慎ノ形ヲ設ケ外方ノ公務ヲナサシムル事ヲ止ム

一 營外禁足ハ公務ヲナサシムル事平常ノ如シ唯私用外出ヲ禁ス

第一條 允許ヲ受ケ外出致シ規則ニ背キ歸營歸營時刻ニ及フ者

二十分間

同

四十分間

同

下士謹慎三日

卒夫謹慎一日

下士謹慎五日

卒夫雜役三日

一時間

下士 謹慎一週間

二時間ヨリ

卒夫 立番一日或

四時間ニ至ル

下士 謹慎二週間

同

卒夫 立番二日間

五時間以上

下士 謹慎三週間

同

卒夫 立番三日或

十時間以上

下士 立番四日間

同

卒夫 立番五日或

四十八時ヲ過ル者ハ本省ノ裁判ニ附

但病疾盜賊等ノ難ニ罹リ證述アル者有メテ治セス

以下略之

○記三套第八十八號 (六月九日)

横須賀造船所へ海軍旗ヲ掲來候處本年第六拾四號公布ニ基キ右相廢シ自今御國旗ヲ掲示候條此旨爲心得相達候事

○記三套第八十九號 (六月十五日)

諸向ニ於テ寫字生雇入候節給料之義區々相成居候ニ付今般假ニ左之通相定候條此旨相達候事
但校合書記等ノ分課申付候義ハ其主任ノ勝手タルヘキ事

雇寫字生日給表

一金六拾錢

一等

十九年海軍省令第百二十號ヲ以テ廢止

一金五拾錢
一金四拾錢
一金三拾五錢
一金三拾錢

二等
三等
四等
五等

○記三套第九十號 (六月十五日)

出納期限釐正ニ付本月限リ勘定結局相立候間金銀仕拂之儀來ル廿五日限リ出納差止候條本月中可請取金額取調來ル二十日迄ニ會計局ニ可差出此旨相達候事

○記三套第九十一號 (六月十五日)

諸艦船提督府其外等ニ於テ修覆中支給之義ハ中士及曹長以下祿制第五十九條ニ揭示之通定給三分ノ二支給候處定員乘組之儘ニテ修覆艦ト相成候時ハ其碇泊所ニ不拘定給四分之二支給可致此旨相達候也

記三套第百十四號

○記三套第九十二號 (六月十五日)

長崎出張所事務章程第十一條中左之通改定候條此旨相達候事
第十一條

一等外官ヲ進退スル事

但海兵ヲ除之外一等卒以下ヲ進退黜陟セシテハ其要旨ヲ概記シ之ヲ提督府ニ通告スヘシ

○記三套第九十三號 (六月十七日)

本月二日記三套第八拾貳號達兵器局職制章程箇條中第拾四條取除キ候條此旨更相達候事

○記三套第九十四號 (六月十九日)

明廿日正院休暇被仰出候ニ付テハ常省之義モ休暇候條此旨相達候事

九年海軍省丙第三號ニ依リ職制章程

明治八年六月 海軍省 達

記三套第九十號 記三套第九十一號 記三套第九十二號 記三套第九十三號

十一年海軍省内
百二十六號達
十七年同之第五號
達ヲ以テ廢止

○記三套第九十五號 (六月十九日)
艦内教授役三上長及下士以下江相渡候家族扶助金請取證書之義從前當省ヨリ相渡候界紙江銘々證
印之末差出來候處右界紙相廢シ更ニ名簿郵送候ニ付テハ各自受取證書ハ各廳ニ取置悉皆渡濟之上
其旨當省江可届出義ト可心得此旨相達候事
但金員内務省ヨリ郵送到達之上證書同省江差出候義ハ本年第六十號御達改正府縣往復規程第十
五條之通タルヘキ事

○記三套第九十六號 (六月十九日)
諸艦船へ定用品六ヶ月分一同相渡候ニ付來ル七月一日ヨリ同十五日迄於調度課現品相改候條右日
限中ハ臨時至急ヲ除ノ外諸品渡方差止候此旨相達候事

○記三套第九十七號 (六月二十二日)
七年三月第三拾九號御達並ニ本年四月第六拾八號御達有之候ニ就テハ追次編纂之書類ハ勿論御創
業以來之記録文書諸簿類別紙雛形ニ照準シ來月五日迄ニ取調拾三行野紙へ明了ニ相認メ可差出此
旨相達候事
(別紙)

書簿目錄

自明治元年何月至同年何月 何ノ何套或ハ何號 何卷
書名何々 同 何卷
自明治二年正月至同年十二月 同 何卷

書名何々 同 何卷
書名何々 同 何卷
自明治三年正月至同年十二月 同 何卷

書名何々 同 何卷
書名何々 同 何卷
以下右ニ倣ヘ昨七年分迄取調之事 何卷

○記三套第九十八號 (七月二日)
來ル四日招魂社大祭別冊之通被執行候條本日午前第六時文武諸官員並艦船在營率夫等先規之通參
拜可致尤不參之者ハ前日可届出候事(別册察文略ス)
但本日當省休暇之事

○記三套第九十九號 (七月二日)
當省官員着服ノ義ニ付テハ明治四年九月二日並明治五年三月十日達置候次第有之候處往々心得
違ノ者相見不都合ノ義ニ候條自今此度注意可致此旨更ニ相達候事
但當直ノ者ト雖モ本文ノ通り可相心得候事

○記三套第一百號 (七月三日)
來ル五日元老院開院式ニ付正院休暇被 仰出候條當省之儀モ休暇候此旨相達候事
府 縣
○記三套第一百一號 (七月七日輪附)
今般當省水兵本部ニ於テ砲術生徒貳拾四名撰舉入校差許候條志願之者ハ別紙雛形ニ照準來ル八月

記三套第九十七號
達ヲ以テ改正

十五日限り同部ニ願出候様可致此旨布達候事
(別紙雛形)

- 一 明治八年八月海軍省水兵本部ニ於テ砲術生徒二十四人撰舉スヘキ事
- 一 砲術生徒志願ノ者ハ華士族平民ヲ論セス本年八月十五日限り水兵本部ヘ左ノ如ク願書差出スヘシ
- 但當府下在住ノ親戚或ハ知音ノ者ニテ身元引受可致事

寄書料紙美濃紙ニツ折共二通可出

何年何月何日於	何府縣華士族平民
何國何郡何地何生	何某男或ハ女
父兄住所何々々	何年何月
當人住所何々々	

右之者海軍出身志願ニ付御検査ノ上砲術生徒御付度尤當人身上ニ付テハ諸事引受ケ可申ハ勿論或ハ身持放逸ニ付生徒破免候節ハ入校以來諸費一切返上可仕此段奉願候也

明治八年 月

海軍水兵本部 御中

何府縣華士族平民 何某 印

東京府 何某 印

同 何某 印

同 何某 印

前書之通相違無之候也

折返シ基 年月日

東京府

一 本年八月下旬ヨリ海軍水兵本部ニ於テ入校ノ生徒ヲ検査シ合格ノ者ヲ撰舉シ入校ヲ許容ス

- 一 入校生徒ノ年齢ハ十三歳ヨリ十六歳以下タルヘシ
- 一 生徒入校ノ節ハ終身海軍ニ従事スヘキ誓書ヲ爲スヘシ
- 一 右生徒入校ノ日ヨリ衣服ハ勿論其他ノ諸具ニ至ル迄悉ク官費ヲ以給スヘシ
- 但フジシケツト二枚五フ蒲團一枚三フ蒲團一枚靴二足靴刷毛一ツ「フ」ラネル下濡袴五枚下股引五枚靴下足袋十足稽古川筆墨紙並ニ必用ノ手道具等ハ初メ入校ノ節而巳持參可致事

明治八年七月

海軍大輔河村純義

○記三套第百二號 (七月九日)

出頭退時限之義本月十二日ヨリ休暇中午前第八時出勤正午十二時退出ト相定候條此旨相違候事但右休暇中諸進達物等午前第十時限ニ可差出尤臨時差向候事件ハ此限ニ非ス

○記三套第百三號 (七月十六日)

明十七日地方官會議終會式被爲行候ニ付正院休暇被 仰出候當省之義ニ休暇候條此旨相違候事

○記三套第百四號 (七月二十三日)

本年四月記三套第五拾二號ヲ以文武官員其他月給三十圓以下品海出張日當創定候旨相違置候處右

明治八年七月 海軍省 布達 記三套第百二號 記三套第百三號 記三套第百四號

十四年海軍省丙第五十四號達ヲ以テ廢止

○記三套第百十二號 達ニ依リ消滅

ハ取消シ更ニ別紙之通横濱品川之兩港へ艦船用物配達所取設候條來ル廿五日ヨリ諸事右ニ準シ可
取計此旨相達候事

(別紙)

横濱元辨天通海軍出張所番人

横濱

江間 和助

一 艦船用物配達所

品川

福井吉五郎

南品川二丁目三十九番地

一 兩港共碇泊艦船ニ通船差立方時限毎日午前第八時午後第五時ト相定候事

但臨時非常ニ屬スル分ハ此限ニ非ス

一本省並屬局寮部所府等ノ官員品海碇泊之各艦船ニ御用ニテ出張之節ハ右配達所ニテ通船用意
可致事

可致事

但臨時非常ノ御用ニテ直ニ各艦船へ出張之節ハ雇船料ハ現費タルヘキ事

一本省並屬局寮部所府等ヨリ乗組申付候歟或ハ退院處刑濟等ニテ艦船へ送付ス可キ分ハ總テ同
所へ宛同所ヨリ定規之通船ヲ以本艦へ輸送方可取計事

一本省並屬局寮部所府等ヨリ郵便ハ勿論諸御用狀及總テノ諸物品等各艦船へ遞送方ノ儀モ前同
斷ノ事

但大至急ノ文字認候分ハ通船別仕立之事

○記三套第百五號 (七月二十五日)

海軍收入經費科目御改正之儀別冊之通御達相成候ニ付此旨相達候事

但勘定雛形ハ追テ可相達候事

十四年太政官第三
十三號達ニ依リ海
軍省
記三套第百八號達

(別冊)

全歳出納期限釐正之儀明治七年十月十三日相達候ニ付而者百般之收入及ヒ經費等一周年之總額ヲ
豫算シ本年ヨリ毎歳會計年度別冊雛形ノ通計表其外帳簿共期限通大藏省へ送達可致尤明治八年分
第一葉計表及ヒ内譯明細簿之儀御發令ノ日ヨリ三十日ヲ限可差出此旨相達候事

但雛形ノ内簿ハ差出スニ不及且明治七年第二十七號達改正全歳出納順序第八條ニ掲ケル經費
概算帳ノ儀ハ爾後廢止候事

一本年ノ儀ハ順序制定ノ際且第一葉計表ニ付添スル内譯明細簿等送達期限モ差迫居候ニ付雛形ノ
如ク調整ニ至リ難キ向ハ明治八年經費豫算内譯明細簿ニ限リ大科目給與或ハ中費中需用ノ金
穀ヲ區分概算候迄ニテ小科目中ノ細目ヲ云ハハ官員月給ノ内勅任奉任判任月給ヲ區分スル
ニ不及候條來ル明治九年分ヨリハ總テ雛形ノ通取調可差出候事

明治八年五月十八日

太政大臣三條實美

收入金概計表及内譯明細簿ヲ製スルノ順序

十四年海軍省丙第
六號達參看

此表ハ一歳中即會計ノ一歳ニシテ其年七月ヨリ收入金額ノ多寡ヲ統理概計シテ之ヲ登上シ猶三ヶ月
毎ニ現實收納セシ員數ヲ記入シ其比ヲ凡積ノ該額ニ取リ一ヶ年五葉ニシテ比較ノ全キヲ見ルヘシ
第二款 第一葉ノ概計表ハ一歳收入金額ノ多寡ヲ參考量シ遺漏ナク掲記スヘシト雖此計表ヲ
差出スノ後諸稅ノ興廢等ニ隨ヒ納額ノ増減スルアレハ三ヶ月毎ニ其多寡ヲ添加削減スヘシ

但事故アリテ諸稅及收入等ノ延納ニ涉スルノ類ハ該年ニ屬スルヲ以テ本年ノ部中ニ算セス

第三款 前年ニ於テ翌年一歳ノ收額ヲ概計シタル計表ヲ第一葉トシ二月二日ヲ限リ大藏省へ送致
シ第二葉ハ該年七月ヨリ九月迄第三葉ハ十月ヨリ十二月迄第四葉ハ一月ヨリ三月迄第五葉ハ四月
ヨリ六月迄各三ヶ月間ツ、ヲ累次合算シ翌月二十日 五十里以外ニ支離アル向ハ七年第百五十六號
達書出納勘定帳申渡期限日ト同規タルヘシ

明治八年七月 海軍省 達 記三套第百五號 (海軍收入經費科目)

ヲ同省へ送致スヘシ

第四款 表面ノ書式體裁ハ左ニ起リ右ニ推歩シ縦ハ七區ニ分別シ横ハ若干段ニ分界ス其第一區ハ收入スヘキ凡積ノ員數ヲ揭ケ第三區ハ七月以降諸稅及諸收入ノ新タニ納付スヘキノミニシテ凡積ノ高ヨリ増加スルモノヲ揭ケ第四區ハ納額ノ減耗スルモノヲ揭ケ第五區ハ右三區中ノモノヲ每差引タル高ヲ揭ケ第六區ハ七月ヨリ以降每三ヶ月現實收入セシ金額ヲ大藏省へ納付シタル員數ヲ舉ケ第七區ハ漸次納付シタル員數ヲ引去リ爾後納入スヘキ員數ヲ示スヘシ

但第一葉ノ計表ハ二區ニ止リテ三區以下ハ省クヘシ

第五款 第五葉ノ計表ヲ差出ノ時ハ諸收入皆納ノ後ニ在レハ未納高ナルモノハ必スアルヘカラスト雖モ不得已事故アリテ延納スルトキハ第五葉ノ計表ハ期限ノ如ク差出シ翌年第二葉以下ノ計表ヲ差出ス時離形ノ如ク第五葉ノ副表ヲ製シ其高ノ皆納ニ至ル迄ヲ限リテ差出スヘシ

第六款 第一葉ノ計表ハ一歲收額ノ多寡ヲ豫定シ一般歳入出ノ目途ヲ立ツル爲ニ差出ス處ノモノニシテ最緊要ナレハ別冊離形ニ做ヒ内譯明細簿ヲ製シ計表ト共ニ差出スヘシ而シテ此明細簿ニハ前十八ヶ月(即前々年七月ヨリ前年十二月迄)年中ノ收額ヲ平均シテ一年ノ收額ヲ算ス比較ヨリ十二月迄ノ比較ヲ取ルハ前一年ヨリ前年一月ヨリ前年十二月迄ノ收額ヲ比照シ本年ノ景況ヲ參酌シテ逐件詳記スヘシ尤其金額ヲ計表ニ登記スル等ノ順序ハ離形ニ詳ナリ

但第一葉ヲ差出スノ後第二葉ニ掲ル如キ納額ノ増減アルハ其増減ヲ記シタル内譯簿冊ヲ離形ノ如ク製シ計表ニ添ヘ差出スヘシ

第七款 數位ハ圓ヲ一位トシ碎數ハ厘位ニ止リ大數ハ表面四位コトニテヲ標スヘシ
(收入金額内譯明細簿離形略ス)

十二年太政官第五十號達ヲ以テ廢止

海軍省經費概目

海軍省經費概目例言

一 一般經費ヲ大別シテ三トス則左ノ如シ

一定額常費

一 額外常費

一 臨時費

一 每歲費額ヲ定メ該額ヲ十二分ニシテ每一月該額ニ交付スルモノ之ヲ定額常費トス

但定額常費ヲ以任拂フト雖其事業ニ付テ許可ヲ經ヘキ條件ハ從前成規ノ通タルヘシ

一 每歲費額ヲ豫算シ費額ヲ確定セシ每件事由ヲ詳悉シ時々許可ヲ經テ大藏省ヨリ受領スル費用及成規ニ從テ同請求スル平常ノ費用ヲ額外常費トス

一 臨時費ハ凡ソ概目ニ掲ル如シト雖其非非常ノ費途アラハ之ヲ臨時費トスヘシ

但臨時費中ノ各科目及ヒ小科目等ハ概テ定額常費及ヒ額外常費中ノ科目ニ照準シテ之ヲ部分スヘシ

一 各費中各科目 給與中費等ノ如及ヒ小科目 小科目トハ給與中官員月給諸給其外ヲ云ニ應シ費途ヲ分ツテ其額ヲ定メ或ハ之ヲ豫算ス故ニ各科目ハ勿論小科目ノ金額トモ彼是流用スルヲ許サ

ス 醫ハ給與ノ金額ト雖中費ノ金額ヲ流用シ或ハ給與中官員月給ト旅費等ノ金額ヲ流用シ又ハ中費中需用費運送費等ノ金額ヲ流用スル等ハ總テ之ヲ許サハルノ類 尤小科目中細目 細目トハ給與中官員月給ノ内勤任給任月給 金員ハ彼是流用スルモ妨ケナシ

但實際ノ都合ニ因リ各科目及小科目ノ費額ヲ流用セントスル時ハ其旨ヲ詳悉シテ伺出ヘシ

一 每歲費額確定後ニ與ル常費ハ其年會計年度ノ費用ヲ額外常費トシ其事業ノ翌年ニ涉ルモノアルハ之ヲ翌年ノ定額常費ニ編入スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ前以其旨ヲ公達スヘシ

一 額外常費ハ概略其科目ヲ示スノミナレハ定額常費及臨時費ニ非ラサル經費ハ總テ額外常費トス
 尤其科目ノ部分ハ總テ他ノ科目ニ照準シテ部分スヘシ
 一 各科目中百圓ノ經費ハ其類似スルモノヲ以小科目中ヘ分入スヘシト雖モ類似ナキ費用ハ雜費ノ
 小科目ヲ設ケ該目中ニ分入スルモ妨ケナシ
 一 營繕費ハ一廉費額千圓未滿ヲ以テ定額常費トス故ニ千圓以上三萬圓未滿ノ費用ヲ要スルヲハ
 之ヲ額外常費トシ三萬圓以上ヲ臨時費トシ各其部ニ編入シ事由ヲ詳細記載スヘシ
 但定額常費ハ初頭概計高即千圓ヲ以テ區分ス故ニ實際決算ニ至リ其高ヨリ増加セサルモノト
 ス

海軍省經費概目

定額常費

一 給與

官員俸給

文官十五等以上武官下士官以上及ヒ非役士官等渾テ判任以上隊附ニ非サル官員ヘノ俸給及
 ヒ加俸ヲ類聚ス

等外俸給

等外一等ヨリ四等迄ノ俸給

技術俸給

技術官等内外ノ俸給及加俸其他技術ヲ以何等出仕或ハ附屬等總テ技術ニ從事スルモノヘ月
 給日給ヲ類聚ス 技術ノ爲メ雇給モ此部中ニ入ルヘシ尤職工等ノ如キハ此例ニ非ス

雇月給

御用掛無等ノ出仕或ハ雇抱等ノ名義ヲ以テ出仕セシムル者ノ十五等ニ當ル月給

諸雇給

寫字生通辨用使以下水火夫ノ給料等總テ雇給一ヶ月十二圓未滿ニシテ等外ノ名義ナキモノ
 日給ハ金額ニ拘ラ 諸職 密給ニ付雇入ノ分ハ 定用臨時雇入并足留人足馬車人力車船等ノ雇
 ス此部ニ編入ス 其部ニ編入スヘシ
 料 運送等ニ關スルモノ 銀行手数料等ノ如キ諸雇料ノ類

內國旅費

文部官員等外兵卒ヲ始メ雇御用掛リ其他總テ公事ニ付內國各地出行ノ節旅費日當及ヒ登庸

免職歸國等ノ旅費ノ類

恩賞

免職 滿年賜金并事務勉勵手當金諸職工等公事ノ爲メ死傷ノ節定規ノ手當金等ヲ類聚ス 恩賞
 恤金扶助金及ヒ傷病ヲ受ルモノノ手當金祭茶 料等兼テ成規アルモノモ此部ニ編入スヘシ

賜饌料

御祝日酒饌料其他閱兵等ノ節賜ル酒肴料ノ類

諸賄料

官員等外并技術官等内外及用使以下總テ宿直ニ付定規ノ賄料事務繁劇ノ際午後八時ヲ過キ
 退廳ノ者定規ノ賄料兵卒水火夫食料并臨時備人ノ辨當料等ノ類

宿代

官員等外其他雇ノ者等ニ給スル定規ノ宿代

被服費

用使以下等ノ被服代

一 廳中費

需用費

器械書籍^{印刷}立料^器字料^器書籍^器 文篋筆硯墨紙^器印肉算盤椅子^器テーブル^器火鉢^器カーヘル^器蒲團^器
臨時借上^器提燈^器ランプ^器土瓶^器茶碗^器新炭^器油燭^器等ノ類
右ハ概略ヲ示ス此他廳中需要ノ品類ニシテ日用消耗品^器備品^器等^器買上及ヒ修復
ニ屬スル費用ハ一切之ヲ該目中ニ類聚ス

石炭費

諸船艦へ給スル石炭買上代^器但省中ニテ用ルルハ
廳中需用費ニ屬ス

刊行費

布達活版料其他書籍類彫刻料及仕立料紙代等ノ類

運送費

運送物保險料爲替手数料荷車荷船雇料物品運送ニ屬スル藏敷料右ノ外海陸運搬ニ屬スル諸費

接對費

外國人接待ニ付茶烟草菓子酒等ノ類^器但廳中ニ付用ユル分
ハ額外廳中費ニ屬ス

郵便電信

内外郵便稅及ヒ電信料其他内地郵便爲替料等ノ類

探偵費

探察及捕縛等ノ費用

雜費

官用地區入費借家料等ノ類

一 廠費

諸雇給

馭者馬丁馬醫并刈毛等ノ雇給幣馬取捨等ノ人足賃其他總テ厩ニ關スル諸雇給ヲ類聚ス

需用費

馬車并雜具買上^器馭者馬丁被服^器洗滌^器消耗品^器蹄鐵及馬藥飼食等ノ類

馬買上

馬匹買上及引換手数料ノ類

一 營繕費 但新營修繕共一際費額千圓未満ノ分

諸職工及ヒ木石鐵物敷物類ニ至ルマテ總テ營繕ニ付必需ノ費用ヲ類聚^器此部ニ編入スヘシ

一 外國人諸費

雇月給

雇外國人給料及ヒ増給トモ

內國旅費

雇外國人公事ニ付內國各地出張巡迴在勤等ノ旅費

恩賞

外國人へ謝金并事務勉勵等ニ付手當金トモ

諸賄料

給料ノ外約束ヲ定メ支給スルモノ

宿料

雇外國人へ金額ヲ定メ支給スル宿料

一 內國生徒費

但他人ノ家屋ヲ其職へ借上ケ之ヲ雇外國人へ貸與スルニ付テノ宿料ハ國中雜費ノ部ニ入ヘシ

給料

生徒給料

需用費

筆硯墨紙蒲團炭油其他浴室等ノ需用品類

諸賄料

生徒ニ賜ル賄料ノ類

內國旅費

生徒公事ニ付內國各地出行旅費

被服費

洋服洗滌靴下帽子等ノ類

一 外國生徒費

學資金

一 船艦修繕費 但シ船買上トモ尤内外人民ノ依頼ヲ受ルモノハ明細簿確形ニ照準區分スヘシ

諸雇給

職工其他人足賃等製造修繕ニ關スル諸雇給ノ類

需用費

船艦製造并修繕等ニ付テノ需用品ノ類

小船買上

舢舨其他端船及附屬品等買上ノ類

被服費

職工等ニ給スル被服

一 患者費

諸雇給

看病人雇給等ノ類

需用費

藥品蒲團洗滌費 其他患者ニ付テノ諸物品類

諸賄料

病者食料菜代其他食用消耗品ノ類

被服費

患者被服

一 兵器費 但製造買上共

諸雇給

定雇人足鍛冶大工大砲職手傳人足等總テ兵器製造ニ付テノ諸雇給ノ類

需用費

松炭竹磨石火藥計天秤等製造ニ付テノ品類

兵器買上

大小銃喇叭太鼓其他總テ附屬品ノ類

被服費

諸職工股引半天等類
 一 彈藥費 但製造買上共
 諸雇給
 職工人足等
 需用費
 硝石硫酸火藥計木槌天秤木ホイス其他需用消耗品等ノ類
 彈藥買上
 被服費
 諸職工等ノ被服
 一 海兵砲兵費
 士官俸給
 武官下士官以上ノ俸給
 兵員給料
 一等卒ヨリ五等卒マテノ給料
 諸雇給
 解舟雇入ノ類
 需用費
 石鹼香墨磨砂其他一切需用品ノ類
 諸賄料
 兵卒ノ食料并諸賄等ノ類

被服費
 兵員ニ給スル制服帽子等ニ至ルマテヲ類聚ス
 一 海兵歩兵費
 内譯總テ砲兵ニ同シ
 一 樂隊費
 内譯砲兵費ニ準ス
 一 徵兵費
 需用費
 徵兵一切需用品ノ類
 諸賄料
 徵兵食料
 内國旅費
 徵兵ノ節營所ニ至ルマテ附添人并徵兵ノ旅費
 一 囚獄費
 諸雇給
 守卒仕丁其他囚人病氣入院ノ節人力車雇賃等ノ類
 需用費
 囚獄一切ノ物品買入並藥品日用消耗品ノ類
 諸賄料
 囚獄番宿直賄料並囚人病氣入院等ノ節出張仕丁賄代等ノ類

囚人賄料

囚人食米鹽附等總テ食物買上ノ類

被服費

囚人被服買上及ヒ修復ニ關スル費用

一徒刑費

諸雇給

守卒雇給定用備人足及ヒ臨時雇人足賃等ノ類

需用費

刑人用器具其他消耗品等ノ類

諸賄料

守卒雇人等ノ賄料

刑人賄料

刑人食米鹽附茶等總テ刑人ノ食物買上ノ費用

被服費

一炭坑費

諸雇給

諸職工并坑中柱木片付人足其他總テ坑場雇人足等ノ類

需用費

坑場器械買入及坑内用繩鏈釘轆轤水揚車修復トモ石割地雷火用焰硝其他消耗品等ノ類但坑内柱木買上ノ類

類ニ入ルヘン

運送費

坑物其他運送船賃及運送ニ關スル人足賃等ノ類

各船艦費

一給與

官員俸給

文官十五等以上及隊付ニ非サル官員俸給及加俸ヲ類聚ス

技術俸給

一等艦内效授役以下二等若水火夫迄給料及附屬等ニ至 迄ノ給料

等外俸給

等外一等ヨリ四等迄ノ俸給

諸雇給

通船雇料雇人足賃馬駕籠乗組ノ者病氣等ニテ上陸ノ節雇船賃ノ類

內國旅費

乗組ノ者公用及ヒ病氣等ニテ上陸ノ節定規ノ旅費

賜饌料

乗組ノ者へ御祝日ニ賜ル酒饌料其他ノ賜酒賜餅等ノ代料ヲ類聚ス

諸賄料

各港へ上陸中ノ食料

食卓料

勅奏判任官以下定規ノ食卓料

被服費

水火夫其他ノ者へ支給スル被服代

宿料

乗組ノ者上陸中宿料

一海兵砲兵費

士官俸給

武官下士官以上ノ俸給及加俸

兵員給料

一等卒ヨリ五等卒迄ノ給料及加俸

諸賄料

士官及兵員上陸中賄料

食卓料

奏判任以下定規ノ食卓料

被服料

兵員ニ給スル制服帽子沓等ニ至迄ヲ類聚ス

一海兵歩兵費

内譯總テ砲兵費ニ同シ

一樂隊費

内譯砲兵費ニ准ス

一内國生徒費

給料

生徒給料

需用費

筆硯墨紙滷團炭油其他ノ需用品類

諸賄料

上陸中賄料

食卓料

定規ノ食卓料

被服費

洋服洗濯靴下帽子等ノ類

一艦内費

内譯總テ艦中費ニ照準スヘシ

一兵器費

諸雇給

定雇人足鍛冶大工大砲職手傳人足等總テ兵器製造ニ付テノ諸雇給ノ類

需用費

松炭竹磨石火藥計天秤等製造ニ付テノ品類

一彈藥費

彈藥買上

一 艦船修繕費

諸雇給

職工其他人足賃等修繕ニ關スル諸雇給ノ類

需用費

船艦修繕ニ付テノ需用品類

被服費

職工等ニ給スル被服

一 患者費

諸雇給

看病人其他患者ニ付雇給ノ類

需用費

患者ニ付需用ノ物品及ヒ藥品買入等

諸賄料

病者食料等ノ類

被服費

患者ニ給スル被服

額外常費

一 廳中費

接待費

一 給與

外國人饗應ニ付料理代並贈品ノ類

外國旅費 但ノ内國ト雖モ外國行ニ付テハ此部中ニ屬ス

文武官員等外兵卒ヲ始メ雇御用掛リ其他總テ公事ニ付外國航海ノ節支度料日當賄料汽船汽車馬車賃等總テ外國行旅ニ屬スル諸費ヲ類聚ス

恩賞

功勞アルモノヘ特別賜金職工等公事ノ爲メ死傷ノ節定規外手當金等ノ類 恩賞料 恤金 扶助ノ手當金 葬料等兼テ成規アルモノハ定額常費ノ部ニ屬ス

賜饌料

三大節并閱兵等ノ外臨時賜ル酒饌料

一 船艦製造費 但買上トモ尤内外人民ノ依頼ヲ受クルモノハ明細簿雜形ニ照準區分スヘシ

船艦製造

諸職工雇人足賃其他製造ニ關スル一切必需ノ費

同買上

軍艦等新ニ購入ノ費用

一 外國生徒費

外國旅費 但内國ト雖トモ外國行ニ付テハ此部ニ屬ス 旅費及ヒ支度料トモ

一 外國人諸費

外國旅費 但前二同シ

雇外國人公事ニ付海外旅行或ハ本國ヨリ雇入及ヒ滿期歸國ノ節旅費等ヲ類聚ス

恩賞

非常ノ功勞アル者ヘ賜金

一大工業新建築等ノ經費一應三萬圓以上ノ用途ヲ以テ着手スル者及ヒ征討攻戰出兵等ノ諸費出征ニ付購入ノ船艦軍器彈藥等ノ費用モ此部ニ屬ス

經費概計表及内譯明細簿ヲ製スルノ順序

第一款 經費概計表モ收入概計表ノ如ク一歲中云以下年度ヲ支出スヘキ金額ヲ統理概算シテ之ヲ登上シ猶三ヶ月毎ニ大藏省ヨリ受取タル員數ト實際支出スル員數ト共經費ノ増減トヲ掲ケテ其比ヲ凡積ノ該額ニ取リ一ヶ年五葉ニシテ比較ノ全キヲ見ルヘシ

第二款 一葉ヨリ五葉ニ至ルノ計表差出期限及表面ノ書式體裁數位等ノ件ハ收入概計表ニ異ナルナシ

第三款 表面ノ第一區ハ本廳或ハ支廳船等ヲ段別シ第二區ハ各其費額ヲ掲ケ第三區ハ費額ノ増加スルモノニシテ七月以降許ヲ經テ新タニ事業ヲ興スニ因リ増額スルノ員數ト事業ノ興ラサルモ凡積ノ高ヨリ増加スルニ因リ許可ヲ領受スヘキノ員數トヲ掲載スヘシ第四區ハ總テ第三區ニ反シテ減額スルノ員數ヲ舉ケ第五區ハ増減ヲ差引シタル高ヲ掲ケ第六區ハ凡積ノ内大藏省ヨリ受取タル員數ヲ舉ケ第七區ハ實際仕拂タル員數ヲ舉ケ第八區ハ甲乙ノ二區ニ分チ甲ハ大藏省ヨリ受取タル員數ト凡積トヲ差引乙ハ實費ト凡積トヲ差引シタル高ヲ舉ケ第九區ハ一旦拂出シタル金額ノ中仕切精算ニ至リ難ク假拂ニ屬スルノ員數ヲ舉ケ第十區ハ仕拂殘金ノ大藏省ヘ納

付シタル員數ヲ舉クヘシ故ニ第一葉ノ計表ハ二區ニ止リテ三區以下ハ省クヘシ

但本文第三四區ノ凡積ヨリ増減スルモノハ事業ノ興廢ニ隨ヒ必無シトスヘカラサルヲ以テ此區ヲ設ケ萬一ニ備ルナレハ第一葉ヲ差出スノ際ニ方リテハ一歲經費ノ多寡ヲ審查案算シ遺脱或ハ目途ノ大差ナキヲ要ス

第四款 第五葉ノ計表ハ諸經費ノ勘定仕上ニ至リ歲尾ノ勘定帖即其年六月ノ勘定帖ヲ云フト共ニ差出スヘキモノナルカ故ニ受取高ノ内仕拂殘金アル時ハ之ヲ大藏省ヘ返納シ決算完結ナルヲ要ストイヘ凡假拂金額ノ内其中仕切精算ニ至リ難ク許可ヲ經テ翌年ニ至リ勘定仕上ニ屬スヘキノ員數ハ離形ノ如ク第五葉ノ副表ヲ製シ其高ノ算決ニ至ルマテテ限トシ翌年第二葉以下ノ計表ト共ニ差出スヘシ

第五款 第一葉ノ計表ハ一歲經費ノ多寡ヲ豫定シ一般歲出入ノ目途ヲ立ツル基礎トスル爲ニ差出ス處ノモノニシテ最緊要ナレハ別冊離形ノ如ク内譯明簿ヲ製シ計表ニ添ヘ差出スヘシ而シテ前十八ヶ月或ハ前三ヶ年等ノ平均高又ハ前一ヶ年ノ費額ヲ比照スルハ收入明細簿ノ順序ニ准據スヘシ尤費額ヲ計表ニ登記スルノ順序ハ明細簿ニ詳ナリ

但第一葉ノ計表ヲ差出スノ後第二葉以下ニ至リ凡積ヨリ増減スルハ離形ノ如ク内譯簿冊添付スヘシ 此離形ハ收入ノ部ニ付添スルモノト
體裁異ナル無キヲ以テ茲ニ添ヘス

第六款 凡ソ一般經費ノ科目ヲシテ區畫判明ナラシムル爲メ費用概目ノ一簿冊ヲ示シ百般支出スル處ノ經費ハ皆此科目ニ因ラサルナシトイヘ凡此簿冊ニ於ル專ラ科目ヲ蒐輯スル爲ニ設クルモノナレハ概計表ニ付添スル内譯明細簿ヲ製スルニ方リ本省ノ内ニ給與廳中費ヲ舉ケ各寮等ノ内ニ又此科目ヲ舉クル事アルヘシ如此ハ經費概目ト内譯明細簿トヲ對照シ彼此混同セサルヲ要

スヘシ

但本省及ヒ各寮等ノ經費彼是混同セシムヘカラサルハ本款ニ掲クル如シト雖モ本省中ニアル各寮需用費等ノ如キハ本省於テ物品ヲ購入シテ而シテ各寮等ノ請求ニ應シ現品ヲ支給スルモノハ姑ク之ヲ本省ノ經費ニ編入シ其旨ヲ内譯明細簿ニ詳記スヘシ

第七款 凡ソ經費凡積中通貨ヲ以算出スルモ第二葉以下ニ至リ米穀ヲ買入以テ仕拂ヲナシ米穀ナルモノ之ヲ賣却シ代金ヲ以テ仕拂ヲナシ通貨ヲ洋銀ニ換ユルノ類總テ交換シテ以テ費用ニ充ツルモ凡積ノ品類ヲ書記シ而シテ實際仕拂ノ金米ハ朱字ヲ以其段中ニ掲クヘシ故ニ如此ハ一段中墨朱ノ二行書タルヘシ

(經費豫算内譯明細簿形略ス)

○記三套第百六號 (七月二十五日)

今般出納順序改正候ニ付各廳讓渡品及定用諸品等渡方之儀自今前月廿六日ヨリ翌月廿五日迄ヲ以壹ヶ月分ト相定候條此旨相達候事

但翌月分定用之儀ハ前月廿七日以後相渡可中事

○記三套第百七號 (八月二十二日)

非役之者御用出張被 仰付歸京後月俸渡方規則無之候ニ付當分左之通相定候條此旨相達候事

一内地出張歸京後

十五日間在役俸

一外國出張歸朝後

三十日間在役俸

但本文日數中各所轄へ出勤分課等命令無之者ハ十六日ヨリ下半年ノ區分ヲ以テ非役俸被

九年海軍省記三套第百六號
第四十四號達
十六年十二月各廳需用品年額及需用品取扱規則ヲ定メタルニ依リ消滅

十一年海軍省丙第四十三號達ニ依リ消滅

九年海軍省丙第四十二號達ニ依リ消滅

十年太政官第二號達ニ依リ消滅

九年海軍省記三套第三十九號達

九年海軍省記三套第三十二號達ニ依リ消滅

下候儀ト可相心得事

○記三套第百八號 (八月七日)

先般相達置候海軍收入經費科目御改正ニ基キ別冊勘定雛形ニ照準シ當七月分ヨリ施行可致事

但詳細ノ儀ハ會計局へ可承合事

○記三套第百九號 (八月二十三日)

海軍概則並條制第十六條其他四文官部分中提督府其他諸港在勤中ハ食卓料ヲ給ス云々記載有之候處右ハ詮議之次第有之當分施行不致候條此旨相達候事

○記三套第百十號 (八月三十一日)

諸官員免職之節滿年賜金取計之義不了解之向モ有之哉ニ相聞候處壬申第二百十貳號正院御達以後ハ免職即日再任スト雖モ勅諭ニ非サルヲ以テ一旦打切り其節御成規之通賜金取計他日免職ノ節ハ更ニ再任ノ月ヨリ起算シ賜金取計候義ト可相心得此旨爲念相達候事

○記三套第百十一號 (九月五日)

海軍諸生徒志願之者検査之上合格之者ヲ撰ミ試驗中更ニ通學申付候者エハ其出席之日ニ限り查食一人ニ付金五錢下賜候條此旨相達候事

○記三套第百十二號 (九月八日)

來ル十二月ヨリ出省退省時限之義午前第九時午後第三時ト可相心得此旨相達候事

○記三套第百十三號 (九月十五日)

本年六月記三套第九十號ヲ以テ諸艦船定員乘組之儀修履艦タル時ハ其碇泊所ニ不拘定給四分ノ

明治八年九月 海軍省 達

記三套第百八號 記三套第百九號 記三套第百十號 記三套第百十一號 記三套第百十二號 記三套第百十三號

三支給可致旨相達置候處右同斷之節總長以下士官加俸之儀ハ豫備艦同様支給候條此旨相達候事

十九年海軍省丙第百十六號達ニ依リ海

○記三套第百十四號 (九月十八日)
長崎出張所職制並事務章程中第十一條左之通改正候條此旨相達候事

第十一條 等外官ヲ進退シ及所轄之一等卒以下ヲ黜陟スル事

但海兵ハ此限リニ非ス尤一等卒以下ヲ黜陟セシムルハ其要旨ヲ概記シ之レヲ提督府へ通告ス

同上

○記三套第百十五號 (九月十八日)
本年五月記三套第七拾貳號布達左之通改正候條此旨更ニ相達候事

艦隊及諸向所轄之艦船長崎港ニ碇泊中ハ同港出張所ヨリ諸物品相渡候ニ付テハ黜陟轉免等ヲ除

ク之外悉皆右出張所ニ於テ關係不致テハ不都合候條同港碇泊中ハ總テ右出張所へ申出候條可致

此旨相達候事

十年海軍省丙第百三十八號達ヲ以テ改

○記三套第百十六號 (九月二十日)

非役官員御用出張歸京後月俸渡方記三套第百七號ヲ以相達置候處詮議之次第有之取消候條自今歸

京翌日ヨリ非役俸ト相心得尤渡方計算ハ其月十五日前後ヲ以區分可致此旨相達候事

十四年海軍省丙第百二十四號達參有十

○記三套第百十七號 (九月二十日)

去ル七月二日記三套第九十九號達都合有之左之通改正候條此旨更ニ相達候事

一本省並各廳出勸諸官員之張自今洋服之外着用禁止候事

但腫物等ニテ洋服着用難致トキハ醫證ヲ副へ奏任以上ハ本省へ願出判任以下ハ所轄廳へ可願

十二年海軍省丙第百三十二號達參有十

出 事

○記三套第百十八號 (九月二十三日)

水兵本部砲術生徒學舎之儀自今砲兵士官學校ト相稱候條此旨爲心得相達候事

○記三套第百十九號 (九月二十四日)

公書往復及ヒ永久貯藏之記録用野紙改形之儀本年四月太政官第五十二號御達之通ニ付テハ諸何等ハ

勿論省中往復タリトモ永久保存之分ハ右改形之野紙可相用等之處往々無其儀在來之小半紙野紙相用

候向モ有之不都合不少候條自今注意可致此旨相達候事

○記三套第百二十號 (九月二十四日)

記三套第百拾八號砲兵士官學校ノ砲ハ海ノ誤ニ候條及追達候事

○記三套第百二十一號 (九月二十四日)

海軍埋葬地之儀自今上下四等ニ區別相立並地所割渡シ方等別紙圖面之通當分相定候條此旨相達候

事

第一等 勅任官

第二等 奏任官

第三等 判任及中下士官

但生徒ハ別區域アリ

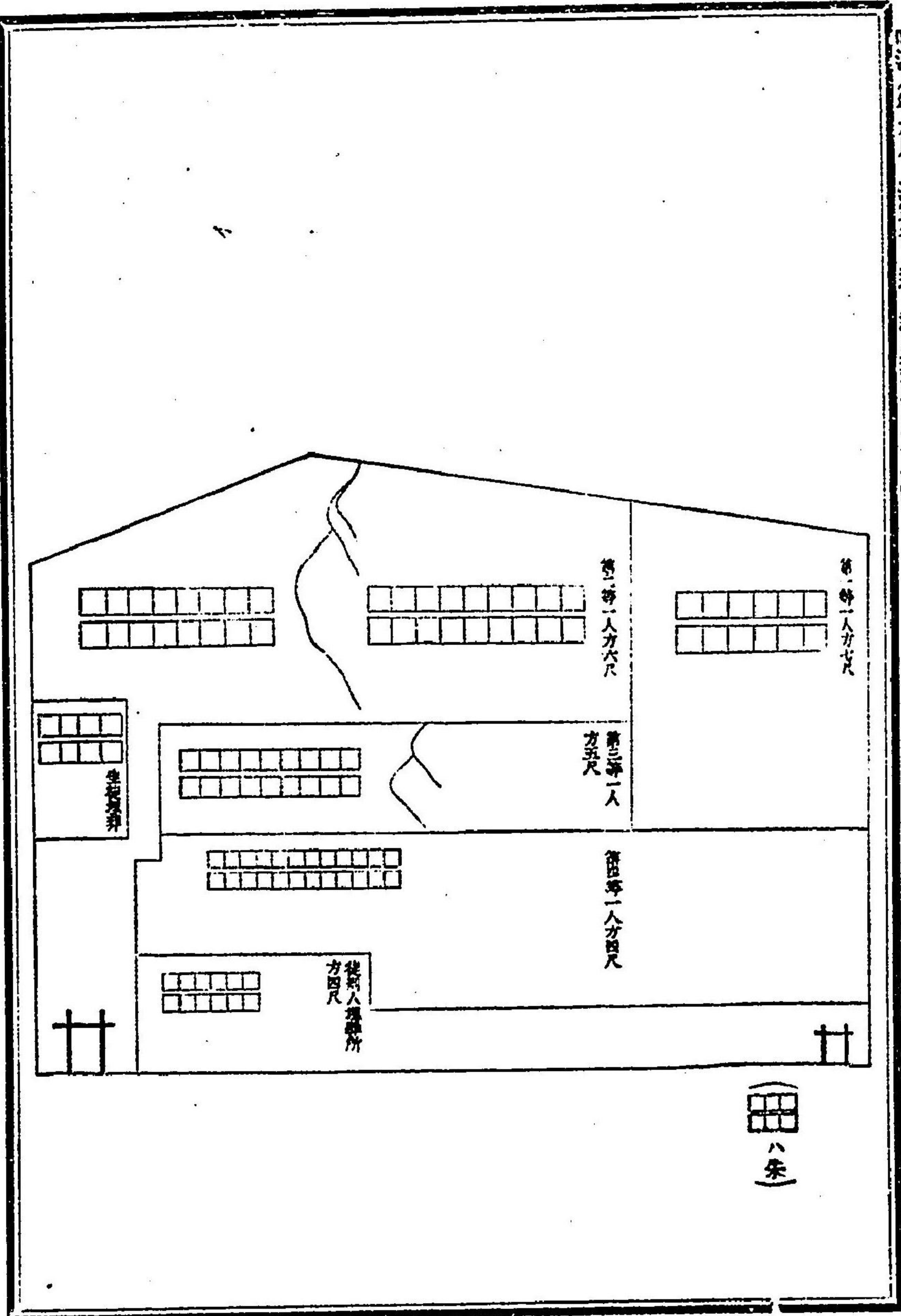
第四等 卒夫及傭夫

但徒刑人ハ別區域ヲ以之ヲ埋葬ス

(別紙圖面)

正 達ヲ以テ但書改
記三套第百二十號
九月一日正親九
月十日軍務局ニ
屬シ十月十日兵
校ニ屬シ十一月
ト改稱シ十一月
省丙第七十八號
達ヲ以テ機關學
校ト改稱

十年海軍省丙第百九號達參有



十一年海軍省丙第
八十號達第百十七
年同丙第百八十七
號達ヲ以テ廢止

九年海軍省記三套
第十六號達ヲ以テ
改正

文書取扱順序改正
ニ依リ消滅

十三年海軍省丙第
三十九號達ニ依リ
消滅
九年八月三十一日
主船寮廢止

○記三套第百二十二號 (九月二十七日)

艦内割烹介以下所轄限リ傭入之者解傭之節是迄旅費支給無之候處自今身元引受人無之場所ニ於テ
差免之者ニ限リ其本籍遠近ニ拘ラス最前傭入之地即身元引受人有之地方マテ其里程ニ應レ一日十里
詰ヲ以テ卒夫免職歸國之旅費定額貳分之壹支給可致尤右同様之場所ニ於テ本人依願差免之節ハ同
斷定額三分之壹支給可致此旨相達候事

但傭解之節ハ身元引受人へ之送狀ヲ與へ引受人ヨリ請書爲差出候様可致事

○記三套第百二十三號 (九月二十九日)

諸艦船萬一沈没破壊等致レ候節乗組人員俸給ノ義ハ自今其翌日ヨリ在役俸ノミヲ給シ歸京翌日ヨ
リハ非役俸ヲ給シ候條此旨相達候事

但該地滞留中之諸費用並歸京旅費之儀ハ都而現入費タルヘキ事

○記三套第百二十四號 (十月四日)

本年二月記三套第百二十三號省達へ但書左之通追加候條此旨相達候事

但指令或ハ諸達其他總テ原因ニ隨テ願伺申出等候節モ同様番號月日ヲ記載可致事

○記三套第百二十五號 (十月四日)

招魂社祭祀之節參拜之文武官員是迄大禮服着用候處自今禮服着用可致此旨相達候事

○記三套第百二十六號 (十月十八日)

主船寮查課職掌別紙之通假ニ相定候條此旨爲心得相達候事

(別紙)

主船寮查課職掌

一該課中平常ノ事務及臨時ノ諸件共意見アラハ詳議ヲ遂ケ然後長官へ具狀ス可シ

明治八年十月 海軍省 達

記三套第百二十二號

記三套第百二十三號

記三套第百二十四號

- 一 諸官員以下寮番等ニ至ルマテ勤惰簿ヲ管シ出頭ノ節ハ各自之ニ其姓名ヲ記セシム可シ
- 但遅刻不參ノ者アルハ其事故詳細ニ記載ス可シ
- 一 諸職工ノ勤惰ヲ監査シ且之ヲ保護ス可シ
- 一 諸官員ノ履歴及定雇日履諸職工等雇入退業ノ月日及其増減戸籍等一切ノ調査ヲ管ス
- 一 諸職工ノ到著退散ヲ調査シ或雇人足及日履船ヲ管シ之ヲ各所ニ分配ス
- 但其分配ノ際冗員ナキヤウニ注意ス可シ
- 一 造船所圍船或ハ修復艦ニテモ乗組人員不在ノ艦船ハ之レヲ監視シ又内外ノ艦船該所ノ管内ヘ入泊スル時ハ之ヲ長官ニ報知スルヲ掌ル
- 一 所轄艦船附屬ノ諸具ハ勿論其他諸物品等構内ニ雜亂スルアル時其擔當ノ課ヘ通告シ竊盜ノ豫防ニ最モ注意ス可シ
- 一 境界柵塀ハ勿論倉庫各職場等破損セハ速ニ該所轄ノ各課ヘ通告ス可シ
- 一 裁判所ノ關係ノ事件ハ渾テ該課於テ擔任ス可シ
- 一 諸門ヲ管シ及ヒ構内取締ノ事ヲ擔任ス
- 一 巡邏掛ノ等外吏ヲ管ス若シ同掛於テ不行届アルハ該課其責ニ任ス
- 一 巡邏掛ノ總括トシ該課中必ス一員ツ、宿直スヘシ
- 一 該課宿直ノ官員ハ晝間三回夜間一回必ス構内ヲ巡視シ諸門及各工場戸扉等ノ錠鎖及諸門出入ノ物品監視ノ事ヲ管ス
- 一 巡邏掛ヨリ申出ル諸件ハ細大トナク課中於テ其緩急ヲ衆議シ見込書ヲ副ヘ長官ヘ具狀ス可シ
- 一定時門鎖後ニ出入スル者アラハ守門ノ者ヲシテ其姓名ヲ記置セシム可シ
- 一 構内若シ失火ヒハ巡邏掛ヲ指揮シ消防ニ盡力スルハ勿論諸物品雜亂ヒス竊盜ノ患ナキヤウ最

注意スヘシ

- 一 横須賀造船所在勤ノ該課ハ横須賀九十馬力船等ニテ便船人ノ切符受渡シ及ヒ諸工場等一覽ヲ乞フ者アレハ之ヲ開届ケル等ノ事ヲ管ス
- 但工場等一覽開届ノ儀ハ石川島七尾共本文ニ同シ
- 一金高五百圓以上ノ諸物品買辦庫納ノ時ハ出席シテ監視ス可シ
- 記三套第百二十七號 (十月二十二日)
- 所轄限リ雇入ノ者病氣入院不差許旨客年七月記三套第二十七號ヲ以テ相達置候處自今出張先キ及ヒ親族無之場所等ニ於テ病氣ノ節ハ入院差許候條此段更ニ相達候事
- 但入院中支給方之儀定員同様可取計事
- 記三套第百二十八號 (十月二十三日)
- 外國出張加俸之儀乘艦定員之中少助助ハ大中少尉同様秘書軍醫主計三副以下文官十五等迄ハ少尉補相當總テ支給之方法ハ海軍概則第二十條ニ照準賜候條此旨相達候事
- 記三套第百二十九號 (十月二十四日)
- 諸書籍類翻譯或ハ著述之上上梓致候節慰勞トシテ上梓書籍壹部宛賜來ル處自今差止候事
- 記三套第百三十號 (十月二十四日)
- 海軍文武官艦船乘退被命候節旅費請取方申出區々相成居候處自今乘艦之節ハ前管轄所ヨリ退艦之節ハ其艦船ヨリ可申出此旨相達候事
- 記三套第百三十一號 (十月二十七日)
- 兵學寮所轄第一利根川船提督府所轄第三利根川船之義第一利根丸第二利根丸ト改稱候條此段相達候事

記三套第百三十八號ヲ以テ改正

九年第百十三號布告第十三年海軍省丙第二十八號達十九年同省令第六十號ニ依リ消滅

記三套第百五十二號達ニ依リ消滅

十四年十月第二利根丸發却十九年十月第一利根丸發却

○記三套第百三十二號 (十月二十八日)

來十一月六日招魂社大祭例年之通被執行候條本日午前第六時文武諸官員並艦船在營卒夫等先例之通一同參拜可致候尤不參之者ハ前日可届出此旨相達候事(祭典次序祝詞並圖面略ス)

○記三套第百三十三號 (十月二十九日)

(本文ハ海軍信號書中番號ノ件略ス)

○記三套第百三十四號 (十月三十日)

太政官第百四拾四號本年九月二十四日ヲ以テ公告相成候船名信號符字附點並萬國船信號書及信號旗共可致頒布ニ付テハ別紙之通相心得管下船主共ニ無洩達方可取計此旨相達候事

(別紙)

一萬國船信號法告諭第三條請求書甲乙離形ニ照シ本年十二月十五日ヲ限リ海軍省ニ願書可差出候事

但甲乙願書文中(船證書)ハ本書不及差出寫ノミヲ可差出事

一信號書及ヒ信號旗拂渡期日及ヒ代價ハ追テ可相達事

一萬國船信號法告諭第七條ノ如ク海軍省ニ於テ全備ノ號旗拂渡スヲ以テ向來紛失破損等アラハ該船舶ニ於テ定規ノ如ク補闕ス可キ事

○記三套第百三十五號 (十月二十九日)

海兵隊下士以下乘組艦務期限之義自今二十四ヶ月ト相定候條此段相達候事

○記三套第百三十六號 (十月三十一日)

測量トシテ陸行及乘艦出張中實測或ハ製圖等事業之都合ニ依リ上陸止宿中日當支給方之儀從前之分相廢シ別表之通相定候條此旨更ニ相達候也

九年海軍省記三套第百三十六號
八月十九日海兵隊
十九年海軍省令第百五號
依テ廢止

一陸地止宿測量中ハ其日數ニ應シ別表ノ日當ヲ賜リ測量加俸及ヒ食卓料ハ不賜事

一總テ測量ノ爲メ陸行出張之節ハ其測地到着迄ハ里程ニ應シ一般定則之旅費賜ル可キ事

一艦船乘組測量出張中ハ海軍概則第一表揚職之測量加俸及ヒ食卓料ヲ賜フ事從前之通りタル可キ事

一艦船乘組測量出張中實測或ハ製圖等事業ノ都合ニ因リ上陸止宿スル時ハ其日數ニ應シ別表之(別表)日當ヲ賜リ測量加俸及ヒ食卓料ハ賜ハラサル事

官名	陸地止宿中日當
大 佐	金三圓十二錢三厘
中 佐	金二圓九十五錢七厘
少 佐	金二圓五十五錢
大尉及七等出仕	金二圓二十一錢七厘
中尉及八等出仕	金一圓四十四錢
少尉及九等出仕	金一圓二十七錢三厘
少尉補及十等出仕	金一圓〇三錢三厘
ヨリ十五等出仕迄	
外 吏	金五十一錢七厘

○記三套第百三十七號 (十月三十一日)

艦内教授役三上長以下諸工水火夫非役俸之義本給四分ノ一ト改定候條來十一月一日ヨリ施行可

十二年海軍省丙第百二十六號
依テ廢止

致此旨相達候事

十一年海軍省丙第
八十六號達參看十
六年第三十八號布
達ニ依リ消滅

○記三套第百三十八號 (十月三十一日)
本年十月記三套第百貳拾七號達詮議之次第有之別紙之通改正候條此旨相達候事

(別紙)

艦船限リ雇入之者病氣入院不差許旨客年七月記三套第貳拾七號ヲ以相達置候處自今軍艦乘組官
等表ニ掲載スル所轄限リ雇入之者出張先キ及親族無之場所等ニ於テ病氣之節ハ入院差許候條此
旨更ニ相達候事

但入院中支給方之義ハ定員同様可取計事

九年海軍省記三套
第二十四號達參看

○記三套第百二十九號 (十月三十日)

來十一月三日 天長節ニ付參賀並賀表差出方等手續之義都テ昨七年十二月記三套第百十二號ヲ以
相達候新式之節通り可相心得此旨相達候事

記三套第百四十二
號達參看十一年太
政官第百五十六號達
ニ依リ消滅

○記三套第百四十號 (十月三十日)

太政官第百七拾五號御達有之候ニ付テハ本年二月記三套第百十八號達取消更ニ左之通相改候條此旨
相達候事

紀元節天長節新年宴會酒饌料之義向後參不參ニ不拘下賜候條諸向ニ於テ委任ト判任ト別冊之名
前帳ヲ以其筋取扱之者當日午前第九時ヨリ十二時迄之間會計局へ受取方可申出候事

十一年太政官第五
十六號達ニ依リ消
滅

○記三套第百四十一號 (十一月二日)

太政官第百七十五號ヲ以テ 天長節其他酒饌料賜方更ニ公達モ有之候處兵卒之儀ハ特別ニ下賜候
條受取渡方之義從前之通可相心得此旨相達候事
但艦内限リ雇入之者ハ此限ニ非ス候事

同上

○記三套第百四十二號 (十一月二日)

去月記三套第百四拾號ヲ以酒饌料賜方之儀相達置候處忌中引籠之者へハ不下賜候條此旨相達候事

十六年海軍省乙第
六號達ニ依リ消滅

○記三套第百四十三號 (十一月五日)

軍人軍屬犯罪人俸給概則第五條中改正並第四條六條ニ但書別紙之通増補致候條此旨相達候事

(別紙)

犯罪人俸給概則

第四條

一 犯罪有無未決ノ者監倉入獄及拘留或ハ停住等月俸ノ者ハ其五分ノ一ヲ給シ日給ノ者ハ統テ不
賜尤糾鞠シテ無罪ニ決スル者ハ全額ヲ賜フヘシ
但定備人ノ類其實一時ノ備役ニ屬スル者糾鞠シテ無罪ニ決スル者ハ全額三分ノ一ヲ給ス可
ク尤日備ノ者ハ一切給セサル可シ

第五條

一下士以下輕罪糾問中上陸或ハ外出差止メノ者ハ其給五分ノ一ヲ給スヘシ

第六條

一 軍人軍屬犯罪ノ者糾問且訴訟等ニ付呼出ノ節ハ旅費不被下士以下ハ現費タル可ト雖且旅
費定則其等級三分ノ一ヲ過ク可カラス
但糾問ノ上無罪ニ決スルハ定則旅費全數下賜リ尤定備夫及日雇ノ類ハ犯罪ノ有無ニ拘ハラ
ズ總テ現費タルヘシ私ノ訴訟ハ此限ニアラス

○記三套第百四十四號 (十一月五日)

七年十月十三日無號御達會計年度改定ニ付テハ本年六月迄ノ諸經費一切取調九月中大藏省ニ納帳

ノ答ニ候處未納帳不致向モ有之不都合候條本月十日ヲ期限トシ無遺漏取調會計局へ納帳可致此旨相達候事

但本文納帳相濟候向モ其趣來ル十日迄ニ同局へ可申出此旨副達候也
○記三套第百四十五號 (十一月十日)
軍醫寮看病夫長以下乘艦期限之義ニ拾四ヶ月ト相定候條此旨相達候事
但乘艦中航海先ニ於テ滿期相成候節ハ歸京之上交代爲致後期乘艦之節期限差引可致此旨副達候也

十一年二月乘艦醫
官交代假規則醫務
局上申部許ニ依リ
消滅
九年第百十三號布
告ニ依リ消滅

○記三套第百四十六號 (十一月十日)
兵學大中少助教教授之爲メ乘艦之節ハ別表之通加俸支給候條此旨相達候事
但支給之方法ハ其全額ヲ三十分ニナシ乘艦之日數ニ應シ可相渡候事
(別表)

官名		乘艦加俸	
大助	教拾	五圓	
中助	教拾	貳圓	
少助	教八	圓	

○記三套第百四十七號 (十一月十日)
東西兩部ノ艦船各區混入候節黜陟其他處置之義ニ付別紙之通兩部指揮官へ相達候條此旨爲心得相達候事
(別紙)

各通 東部指揮官 西部指揮官

西部之艦船修覆或ハ事故アツテ東部即チ橫須賀等ニ來航シ東部之艦船同様長崎等ニ碇泊東西相

九年海軍省記三套
第百四十五號達ニ依
リ消滅

十七年第八號布告
ニ依リ消滅

混シ候節黜陟或ハ死亡病人逃亡其他諸何届諸申出等有之時ハ該艦居所之指揮官ニ於テ處置可致
義ト可相心得事

但黜陟之儀上裁ニ係ルモノハ本所轉指揮官へ照會シ本所轉指揮官ヨリ可申立下士以下ハ本所
轉へ照會ノ上處分可致事

○記三套第百四十八號 (十一月十二日)
脫營脫艦之者人相書認方之義ニ付六年六月中甲第百二十九號ヲ以テ相達置候處往々認方同一ナラ
ス且不體裁之廉モ有之候ニ付別紙之通改正候條以來右離形ニ照準書載可差出此旨更ニ相達候事
(別紙)

何府 何大區 何小區 何國 何郡 何村 何町 何職業 士族 平民 何某長男 或ハ二三男又ハ兄弟

何寮局部府或ハ何艦船乘組
何官等出仕兵卒夫或諸職名

何之誰
明治何年何月何年何ヶ月

一丈ケ	何々	一肉	何々
一顔	何々	一色	何々
一眉	何々	一眼	何々
一鼻	何々	一口	何々
一耳	何々	一齒	何々
一鬚髯	何々	一髮	何々
一言舌	何々		何々

其他痘痕瘡又ハ疵痕瘡ヲ常人ニ異ナル處アラハ記載スヘシ

衣類

- 一何色何々品ノ官服何々ヲ着シ
- 但シ何々ノ印シ有之帽子靴其外トモ
- 一何品何色何編ノ單袴カヲ着シ
- 一何品何色何編ノ袴カヲ着シ
- 一何品何色何編ノ羽織カヲ着シ
- 一何品何色何編ノ袴カヲ着シ
- 一何品何色何編ノ帶ヲ着シ

其外脱營カ脱履カ逃亡ノ節携ヘ出テシ品ハ悉ク記載スヘシ

九年太政官第六十四號達發

○記三套第百四十九號 (十一月十三日)
各所出張中近方御用有之派出一泊以上支給方是迄區々ニテ不都合ニ付當分左之通相定候條此旨相達候事

各所出張御用有之該地ヨリ往返五里未滿ノ地ニ派出シ宿泊候トモ出張中滞留日當之外別段旅費支給不致候事

但各處在勤之向ハ不在此限候事

○記三套第百五十號 (十一月十五日)

少尉補以下單身外國出張之節支度料並ニ日常支給方別表之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

外國出張支給但郵船汽車並

十六年海軍省丙第
四十五號達十八年
丙第二十三號達
ニ依リ消滅

支度料	日當
少尉補並艦内教授役 三上長及下士十一等	金 五 十 圓 金 六 十 五 錢
下士 十二等	金 四 十 五 圓 金 六 十 錢
下士 十三等	金 三 十 八 圓 金 五 十 四 錢
下士 十四等	金 三 十 圓 金 四 十 八 錢
一等卒夫 以下	金 二 十 五 圓 金 四 十 三 錢

但單身旅行ニ付出發前本文ノ支度料ヲ支給スルハ百日以上ニ及フト雖正通常賜ル家族扶助金之外ニ増給ハ無之事

十四年第七十號布告ニ依リ消滅

○記三套第百五十一號 (十一月十八日)
海陸軍律第四十七四十八兩條下士之罰等法左之通候條爲心得此旨相達候事

艦内教授役三上長及ヒ下士犯罪其刑罰等ニ當ル者之罰法ハ砲夫及ヒ五等卒迄罰ク可ラサル部分之者ハ總テ四等水夫之末席ニ可罰事

九正海軍省丙第八
十一號達ヲ以テ改

○記三套第百五十二號 (十一月二十二日)
旅費渡方之儀ハ主船寮提督府ノ外是迄總テ會計局ヨリ仕拂來リ候處來明治九年一月一日ヨリ各所轄ニテ和渡シ諸經費ニ組込納帳可致此段相達候事

十九年海軍省丙第
十六號達ニ依リ消滅

○記三套第百五十三號 (十二月二日)
長崎出張所倉庫概則當分別冊之通假定施行候條此段相達候事

(別冊)
長崎出張所倉庫概則

明治八年十二月 海軍省 達 記三套第百五十一號 記三套第百五十二號 記三套第百五十三號

第壹條

一長崎港常備艦 臨時砲泊ノ需用ノ金穀諸物品飲水石炭等ヲ支給スルヲ本務トシ傍ヲ主船水路兵器等ノ諸寮局ニ關係スル物品ヲ兼辦シ併テ出張所用度小營繕等ノ事ヲ管理ス

第貳條

一艦船諸向需用ノ金穀諸品修葺引換等申出ノ節ハ例規ノ通り接受シ主務ノ官吏之ヲ成規ニ照會シ定用ニ屬スルハ之レヲ渡スヘシ且臨時成規外等ニテ其物品購求セサルヲ得サル時ハ先ツ其筋取調代價三拾圓以上ニ騰レハ本省ノ許可ヲ得ヘシ以下ハ該廳限リニテ是ヲ決ス尤主船水路兵器局等ノ諸寮局關係ノ事件ト雖右ニ同シ但事臨時至急ニ涉ルハ此限ニアラス

第三條

一於該地買辦セル物品及小營繕其他諸般ニ拂フヘキ金貨ハ兼テ會計局ヨリ常備金一ヶ月若干ノ見積リヲ以テ相渡置右ノ内ニテ仕拂連月法ニ隨テ會計局ヘ納帳スヘシ

第四條

一物品仕拂ハ費用ノ元因ニ付テ各寮局課ニ區別シ毎月末品目及代價ヲ詳記シ正副二帳ヲ製シ會計局ニ報告スヘシ會計局ハ右ノ廉々ヲ精査シ一帳ハ大日記ニ付シ一帳ハ所關ノ各廳ニ送付スヘシ所關ノ各廳ハ之ヲ受テ其月ノ入費ニ組入レ定概額金ヲ以テ會計局ヘ返戻スヘシ

第五條

一諸艦船長崎ニ廻港ノ節ハ諸物品渡高ヲ詳記シ該船主計ニ托シ長崎出張所ヘ相廻スヘシ長崎出帆ノ節モ右同様該廳主務ノ官吏ニテ取調ヘ本省ニ報告スヘキ事

第六條

一六等官以上ノ官員在務ノ節ハ金穀物品出納買辦等簿之レヲ監督ス七等以下ノ官員ナレハ兩名協議捺印タルヘキ事

第七條

一艦船諸向渡金穀諸品入費調毎月廿五日取廻メ本省ニ差出シ且庫中ニ貯蓄セル物品ハ每四ヶ月ニ一度悉皆現品數量ヲ調査シ過不足ノ有無ヲ本省ヘ可届出事但主船水路兵器等ノ所關ノ物品ハ豫テ區別シ置調査ニ便ナラシム可キ事

第八條

一貯蓄品缺乏セルカ或ハ一時多量ノ置品本省許可濟ノ上ハ品位ノ善惡代價ノ高下ニ依テ兵庫大阪其他ノ各地ニテ買入ルハ妨ケナシ元各所物價高低ハ毎月一兩回電信暗號ヲ以テ各地相互ニ報告スヘキ事

第九條

一諸買辦品ハ人民輻湊ノ地ニ揭示或ハ其他適宜ノ法ヲ以テ入札セシメ直買ノ仕法ヲ用ヒ用途用聞等ノ名義ノ者申付サル事

第十條

一金穀諸物品其他成規ニ照準シカタクキ事件ハ本局ニ伺出ヘキ事

第十一條

一該廳並稻佐倉庫取締所等用度備付諸品定員帳仕建置毎年三月九月兩度ニ検査シ損壞不足等アレハ其事故取調ノ上定員ニ充テ置クヘシ且官交代等ノ節ハ定員帳ニ基キ引渡シ致スヘキ事

第十二條

一金函並ニ倉庫ノ鎖鑰ハ主務長コレヲ預ルヘシト雖モ事竝ニ依リ當直之レヲ預ル時ハ兩名以上立

九年海軍省丙第二十五號達參看

會々ルヘキ事

○記三套第百五十四號 (十二月八日) 諸願ヨリ諸品上請書中見本ノ通或ハ繪圖相添等ノ文字ヲ記載シテ實品現圖差出サス又ハ品名等數種ノ洋語異様ノ譯字ヲ記錄シ取扱上往復ノ手數ト品名ノ疑惑ヲ生シ不都合ノミナラス自然事務ノ淹滞ヲ來シ候條自今品名ハ成丈通常易解熟字洋語ニハ易解ノ譯字ヲ書シ見本繪圖類ハ上請書ニ可付ハコレヲ付シ不可付ノ大形或ハ重量等ノ品ハ製造買辦之主務本廳ニ差出世キ上請書ニハ共旨記載シ差出候様注意致ス可ク此段相達候事

九年海軍省丙第一號達ニ依リ消滅

○記三套第百五十五號 (十二月十日) 諸官員病氣免官及非職願並歸縣湯治暇等是迄區々ノ醫證ヲ以願出候處自今海軍軍醫ノ診斷書ヲ以可願出此旨相達候事

十二年海軍省丙第六號達ニ依リ消滅

○記三套第百五十六號 (十二月十三日) 但軍醫不在ノ場所ハ必地方醫師之證書可相添事

○記三套第百五十七號 (十二月十四日) 下士以下行狀正敷精勤之者へ標章授與規則之義七年五月甲第五十號ヲ以相達置候處右規則改正方今取調中ニ付常分施行差留候條此旨相達候事

○記三套第百五十八號 (十二月十四日) 但臨時至急ニ屬スル者ハ非此限候事

金銀ハ出納規則ニ依リ物品供給ハ十四年海軍省丙第八號ヲ以テ定メ然レテ川品取扱定則假定ニ依リ消滅

○記三套第百五十九號 (十一月十五日) 諸艦船修復箇所并製造品引替等申出之儀ニ付テハ篤ト注意點檢之上廉落無之様ニ取調可致旨本年二月記三套第貳拾壹號ヲ以テ相達置候處兎角區々之申出有之差支不尠候條前號之旨趣一層之注意ヲ加ヘ不都合無之様可致此旨猶又相達候事

十三年海軍省丙第八號達ニ依リ消滅

○記三套第百六十號 (十一月十五日) 諸艦船釣床品位之義是迄渡方不一定候處自今士官以上エハ晒帆水綿製下士以下卒夫等エハ並帆水綿製ト相定候條此旨更ニ相達候事

○記三套第百六十一號 (十二月二十日) 今般英國風帆船ホルモサ號當省ニ買入候條此旨爲心得相達候事

九年海軍省記三套第三十六號達ヲ以テ改定

○記三套第百六十二號 (十二月二十三日) 海軍始ノ節是迄大禮服着用致シ來リ候處自今武官四文官ハ海軍禮服其他ハ總テ通常禮服着用可致此旨相達候事

十一年海軍省丙第百四十七號達ニ依リ消滅

○記三套第百六十三號 (十二月二十三日) 少尉補及生徒食卓料之義外國航海之節ハ六年八月甲第七拾一號ヲ以テ相達置候海軍概則第十一條ニ掲載之定則二分ノ一増支給候條此旨相達候事

十年海軍省丙第七十二號達ヲ以テ改定

○記三套第百六十四號 (十二月二十三日) 但追テ機關士補之義モ同様可相心得事

○記三套第百六十五號 (十二月二十三日) 乘艦海兵年限二拾四ヶ月ト確定候ニ付テハ支給之香并墨料隨テ水火夫渡之香墨料在之通改定候條此旨相達候事

在營曹長以下海兵

明治八年十二月 海軍省 達

記三套第百五十九號

記三套第百六十號

記三套第百六十一號

一沓

從前之通一ヶ年四足

一沓墨料

同一ヶ月金三錢五厘

乘艦同

一沓

一ヶ年三足

一沓墨料

一ヶ月金三錢

右沓支給ノ方法譬へハ渡月ヨリ三ヶ月在營四ヶ月目ニ乘艦スルノ類ハ貳足ハ在營ノ割合ヲ以相渡シ七ヶ月目ヨリ乘艦ノ定數ニ算ス可ク又乘艦ノ者四ヶ月未滿ニ上陸スルキハ總テ陸上ノ割合ヲ以相渡シ以下之レニ準ス可キ事

在營艦内教授役以下諸工水火夫

一沓

從前之通一ヶ年三足

一沓墨料

一ヶ月金三錢

乘艦同

一沓

從前之通一ヶ年貳足

一沓墨料

一ヶ月金貳錢

右沓渡方ハ從前之通

一靴修復料

一ヶ月金六錢

右ハ海兵水火夫共在營乘艦ニ拘ハラス可相渡事

○記三套第百六十五號 (十二月二十五日)

歲末御祝詞之儀ニ付別紙之通式部寮ヨリ達有之候ニ付テハ判任以下名刺差出方昨七年記三套第百九號之通可心得此旨相達候事

(別紙)

歲末御祝詞トシテ來ル二十九日ヨリ三日之内通常禮服用在京奏任官以上ハ宮内省へ可被罷出判任官以下ハ其應ニ於テ相受名刺取集メ宮内省へ言上可有之此段及御達候也

明治八年十二月廿四日

式部頭坊城俊政

制度變革ニ依リ消

十七年海軍省丙第
十四號達丙第十七
號達發行

十年海軍省丙第
十八號達發行
十二月二十二日太
政官番外達發行

○記三套第百六十六號 (十二月二十五日)
從來各寮局部等ニ備付相成居候カヘルノ儀專ラ掃除方ニ注意不致候テハ火誤ノ念不少候條左之通可相心得此段相達候事

一 每歲初度之點火以前必營繕課へ照會之上檢査ヲ受ケ同課之證憑ヲ得ルニ非サレハ不許事

一 初度點火之後掃除ハ每六ノ日ヲ以テ定日トス而シテ營繕課ハ是カ主任タルニ因リ必不怠様烟筒清潔ニ注意可致事

一 爾來定額内外ヲ不論新規出來候分ハ營繕課之檢査ヲ經サレハ決テ製造不可致事

一 在來据付之場處等ニ於テ不都合之箇所モ有之候ハ、是亦營繕課へ照會之上修繕方可申出候事

一 每歲初度點火ノ日ハ必ス本省ニ其旨届出可申候事

○記三套第百六十七號 (十二月二十七日)

御門鑑御改正之儀別紙之通御達相成候ニ付來ル九年一月七日ヨリ本省人別課ニ於テ奏任以上之面而ニ相渡候條都合次第銘々印形持參ニテ同課ヨリ請取可申候且舊印鑑之儀ハ同十五日限無違滞同課へ返納可致此旨相達候事

但出張在勤等之向ハ歸京之上引替可申事

(別紙)

今般御門鑑左之通改正候條來ル明治九年一月十一日ヨリ右御門鑑所持通行可致尤從前之分ハ同

月同日ヨリ廢シ候儀ト可心得此旨相達候事
但規則ノ儀ハ從前之通可心得事

十一年太政官第五
十六號達ニ依リ消
滅

○記三套第百六十八號 (十二月二十七日)

三大節酒餼料受取方之儀本年十月記三套第百四拾號ヲ以相達置候處同月第百八拾號公達之旨モ有
之調向差支候間自今在東京委任官ト他所出張在勸助奏官及ヒ判任以下判任以下ハ在東京出ト別册
張在勸之區別ナクニ取調ヘ會計局ヨリ可受取且是迄諸向ヨリ受取方遅々相成不都合ニ候條在東京之分ハ不及申出張
之分ト雖モ當日ヨリ日數十日限リ無相違受取方可申出此旨相達候事

○記三套第百六十九號 (十二月二十七日)

本年記三套第百六拾四號ヲ以相達置候海兵諸工水火夫沓并沓墨料支給方改正之義來明治九年一月
ヨリ施行可致此旨相達候事

○記三套第百七十號 (十二月二十七日)

來明治九年新歲式被仰出候ニ付テハ判任官以下并體內教授役三上長及下士拜賀手續其他賀表差出
方等之儀總テ昨七年記三套第百十二號之通可相心得此旨相達候事

○無號 (二月七日)

別紙之通御達ニ付當省之義モ休暇候條此旨爲心得相達候事

但九日雨天ニ候ハ、海軍始御延引之事

(別紙)

來々八日九日陸海軍始ニ付正院休暇候條此旨相達候事

院省使廳府縣

但八日雨天ニ候ハ、御延引ニ付休暇無之事

月 日

太政大臣三條實美

○號外 (七月七日)

勸怠簿自今上局へ差出置候條定期時限出省之諸官員自身捺印可致候事

但遲參之向キ可届出ハ勿論右定期時限相過キ候得ハ帳簿引下ケ遲參并ニ不參之者ハ順番當直ニ
於テ取調捺印候事

○號外 (七月十八日)

從來秘密電報并ニ通常之電報トモ都テ暗號ヲ以テ通線取計來候得共右ニテハ緩急區別立テ兼別テ
不都合ニ候條以來通常之分ハイロハ之文字相用通背可致義ト可相心得此旨相達候事

○號外 (八月十五日)

今般中仕切門設置候ニ付テハ勸任官之外總テ同門外ニテ下乘可致候條爲心得相達候事

○號外 (十月二十八日)

海上區域之義紀州潮之岬能登岬以東北海道及諸島ヲ東部ト假定シ紀州潮之岬能登岬以西四國九州
海ヲ西部ト被假定候條此旨相達候事

十三年海軍省丙第
七十七號達ニ依リ
消滅

東部指揮官
西部指揮官

九年海軍省丙第
一號達ニ依リ消滅

九年海軍省記三套
第七號達ニ依リ
消滅

文部省

布達

十二年第四十號布告ニ依リ消滅

九年內務省甲第三十二號布達ヲ以テ京都司藥場廢止

十一年文部省第二號布達ヲ以テ廢止

十一年文部省第三號布達ヲ以テ廢止

○第一號 (二月八日)

小學學齡ノ儀自今滿六年ヨリ滿十四年マテト相定候條此旨布達候事

○第二號 (二月十五日 輪廓附)

今般京都府下ニ司藥場設立候條此旨布達候事

○第三號 (三月二十日)

明治七年當省第十八號布達官立師範學校卒業生派出規則廢止候條此旨布達候事

○第四號 (三月二十日)

自今官立師範學校生徒卒業之者有之節ハ其人名等可及報告候條各地方公私學校便宜ヲ以小學訓導

ニ任用可致此旨布達候事

○第五號 (三月二十四日 輪廓附)

官立小學師範學校生徒入學心得書別冊之通相定候條此旨布達候事

(別冊)

官立小學師範學校生徒入學心得

第一條 師範學校生徒ハ行狀正クシテ普通ノ書ヲ讀讀シ得且略算術ヲ學ヒ得タル者ヲ舉ルナリ

第二條 生徒タラント欲スル者ハ入學ノ期ニ臨ミ第一號書式ノ保證狀及ヒ第二號書式ノ學科等

履歷書ヲ以テ其校へ申出ヘ

第三條 試驗ハ普通ノ書ニ就キ講義作文ヒシメ算術ハ問題ニ依リ法式ヲ作テ答書セシム

明治八年一月二日 文部省 布達 第一號 第二號 第三號 第四號 第五號

九年文部省第六號
布達ヲ以テ第七條
中金額改正
第七條布達ヲ以テ
第九條改正

第四條 試驗ノ上入學ニ適當スル者ハ第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ
第五條 體質壯健ニシテ種痘或ハ天然痘爲セシ者ニ非サレハ入學ヲ許サス故ニ醫師ヲシテ検査セシム

第六條 生徒ノ年齢ハ廿歳以上三十五歳以下タルヘシ

第七條 生徒ノ學資ハ官給タルヘシ其金額ハ一ヶ月一人ニ付金八圓以下トス

第八條 生徒ハ半途退學スルヲ許サス

第九條 全科卒業ノ上試験ヲ遂ケ學力ニ應ジテ第四號書式ノ證書ヲ與フヘシ

第十條 卒業ノ上都合ニヨリ官ヨリ奉事セシムルコトアルヘシ
但シ官資ヲ受ケ二ケ年間ニ卒業スル者ハ卒業ノ日ヨリ三ケ年ヲ過キス餘ハ此比例ヲ以テ年限ヲ定ムヘシ尤奉事中相當ノ給料ヲ受クルハ勿論タルヘシ

第十一條 學資ハ日割ヲ以テ給シ病氣或ハ不得止事故アリテ歸郷下宿スル者ハ其當日ヨリ給セス
歸校スル日ヨリ給スルヲ法トス

第十二條 每歲一回醫師ヲシテ身體ヲ検査セシム若疾病ヲ醸シ成業ノ目的ナキ者ハ退學セシムヘシ
但冬夏休業中ハ勿論醫師ノ検査ニ由テ下宿或ハ他ノ病院ニ入ルコトヲ指示スル者ハコノ限ニ非ス

第一號書式 用紙美濃紙

何府 屬族平民誰子 姓 名

何年何ヶ月

右之者儀御校へ入學志願之趣申聞候間從來之行狀相糺候處不都合之廢無之ニ付別紙履歷書持參爲致申候可然御取計有之度依テ保證狀差出候也

何府縣何大區何小區何郡何村何町

何番地住居或ハ寄宿

何府縣 屬族平民 證人 姓 名印

年月日

何師範學校

御中

第二號書式 用紙美濃紙

何府縣 屬族平民誰子 姓 名

何年何ヶ月

何年何ヶ月

生所何府縣何大區何小區何郡何村何町

宿所同上何番地住居或ハ寄宿

年月日何所誰ニ就キ何學科修業算術何々修業及ヒ出處進退賞罰等ニ關スル履歷詳細ニ記載スヘシ

年月日

第三號書式 用紙美濃紙

私儼小學訓導タルヘキ志願ヲ以御校へ入學御許可學資御給與被下置候旨致領承候付テハ總テ御規則之通相守可申依テ證書差出候也

何國何郡何村何町何番地

右之通相違無之候也

何師範學校
御中

父母或ハ證人

何縣 屬族平民
本人 姓名 何年何ヶ月
證人 姓名 名印

第四號書式 用紙為ノ子紙四ツ切

何師範學校印	何縣 屬族平民
姓名	何年何ヶ月
此證書ヲ得タル者ハ國內小學ノ訓導タルヲ得ル者也	何師範學校
年 月 日	第幾號

此證書ハ五ヶ年ヲ限リトス滿期ノ後猶 教員ヲラント欲スル者ハ學業ヲ檢査シ 更ニ證書ヲ與フヘシ	刻印
---	----

十六年内務省甲第
八號告示ヲ以テ改
正
七號ニ依リ消滅

○第六號 (三月二十四日 輪原附)
大阪府下へ司藝場設立候條此旨布達候事

十一年文部省第三
號布達ヲ以テ廢止

○第七號 (五月十八日 輪原附)
本年當省第五號布達官立小學師範學校生徒入學心得書中第九條及第四號書式如左更正候條此旨布達候事
第九條 全科卒業ノ上試験ヲ遂ケ第四號書式ノ證書ヲ與フヘシ
第四號書式 用紙為ノ子紙四ツ切

何師範學校印	何縣 屬族平民
姓名	何年何ヶ月
小學師範學校卒業候事	何師範學校
年 月 日	第幾號

○第八號 (五月十八日 輪原附)
明治七年當省第廿壹號布達ノ内第六條及第壹號第三號書式如左更正候條此旨布達候事
第六 試驗式ニ中ル者ハ證書ヲ附與スヘシ
第壹號書式中右之者云々受ノ下小學訓導タルヘキノ八字ヲ刪ル
第三號書式 用紙為ノ子紙四ツ切

何師範學校印	何縣 屬族平民
姓名	何年何ヶ月

明治八年五月 文部省 布達 第七號 第八號

二十年勅令第七十七號ニ依リ消滅

○第九號 (六月十九日)

官省藏版書籍繹刻ノ儀ニ付テハ明治七年第二拾五號ヲ以テ及布達置候處當省藏版ノ書籍ハ自今悉皆繹刻差許候條尋常出版ノ手續ヲ以テ可願出此旨布達候事
但當省藏版書目ハ可及報告候事

○第十號 (七月三十一日)

各地方ニ於テ民費又ハ私費ヲ以學校等ハ外國教員雇入雇繼雇止等ノ節其都度當省ハ可届出旨明治七年第七號ヲ以及布達置候處自今不及其儀候條此旨布達候事

○第十一號 (八月十三日 輪附)

官立女子師範學校生徒入學心得書當分別冊之通相定候條此旨布達候事

(別冊)

官立女子師範學校生徒入學心得書

第一條 生徒ハ行狀正クシテ文字ヲ書シ兼テ近易ノ書ヲ讀ミ略算術ヲ學ヒ得ル者ヲ舉ルナリ

第二條 生徒タランコトヲ欲スル者ハ入學ノ期ニ臨ミ第一號書式ノ保證狀及第二號書式ノ修業等履歷書ヲ以テ該校へ申出ヘシ

第三條 試驗ハ習字及近易ノ書ニ就キ講讀セシム

第四條 試驗ノ上入學ニ適當スル者ハ第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

第五條 體質健康ニシテ種痘或ハ天然痘爲セシ者ニ非サレハ入學ヲ許サス

九年文部省第六號布達ヲ以テ第七條中金額改正

第六條 生徒ノ年齡ハ大約十四歲以上二十歲以下タルヘシ
第七條 生徒ノ學資ハ官給タルヘシ其金額ハ一ヶ月一人ニ付金八圓以下トス尤學資ヲ自辨セント欲スル者ハ之ヲ給セス
第八條 全科卒業ノ上試験ヲ遂ケ第四號書式ノ證書ヲ與フヘシ

第一號書式 用紙美濃紙

何縣族籍誰女 姓 名 何年何ヶ月

右之者儀御校へ入學志願之趣申開候間從來之行狀相尋候處不都合之廉無之ニ付別紙履歷書持參爲致申候可然御取計有之度依テ保證狀差出候也

何縣何大區何小區何郡何村何町何番地 住居或ハ寄留

何縣族籍 證人 姓 名印

何女子師範學校 御中

第二號書式 用紙美濃紙

生所何縣何大區何小區何郡何村何町 何縣族籍誰女 姓 名 何年何ヶ月
宿所同上何番地住居或ハ寄留

年月日何所誰ニ就キ何々修業等履歷詳細ニ記載スヘシ

年號 月 日

第三號書式 用紙裝綴紙

私儀師範學科修業志願ヲ以御校へ入學御許容(學資御給與)相成候ニ就テハ總テ御規則之通相守可申依テ證書差出候也

年號 月 日

何國何郡何村何町何番地

何府族籍女
本人 姓

何年何ヶ月 名印

父母或ハ其他

何府族籍
証人 姓

名印

右之通相違無之候也

何女子師範學校

御中

第四號書式 用紙文部省證書料紙

證書

何女子師範
學校 印

何府族籍
姓

何年何ヶ月 名

女子師範學科卒業候事

年號 月 日

何女子師範學校

第幾號

十四年文部省第二十九號達ニ依リ消滅

十一年文部省第三號布達ヲ以テ廢止

○第十二號 (八月十三日 輪廓附)

東京師範學校へ中醫師範學科相設候條此旨布達候事

○第十三號 (十二月二十八日 輪廓附)

中醫師範學科生徒入學心得書當分別冊之通相定候條此旨布達候事

(別冊)

中醫師範學科生徒入學心得書

第一條 生徒ハ行狀正クシテ漢英兩學ヲ學ヒ得且算術ヲ學ヒ得タル者ヲ舉クルナリ其科目ヲ示ス

ヲ凡ソ左ノ如シ

一 漢文ノ歴史等ヲ講シ其義ヲ解シ且普通^{假名}交リノ作文ヲナシ得ルモノ

一 英書ノ文法ヲ了解シ地理書歴史等二三部ヲ讀了リタルモノ

一 算術ハ^{和算}洋算ノ内比例マテヲ學ヒ得タルモノ

一 筆跡ハ楷行草ノ三體ヲ書シ得ルモノ

第二條 生徒ノ年齡ハ大約十八歲以上廿五歲以下タルヘシ

但學力特抜ノモノハ此限ニ非ス

第三條 生徒ハ體質健康ニシテ種痘或ハ天然痘爲セシ者ニ非レハ入學ヲ許サス

第四條 生徒ノ在學期限ヲ三ヶ年ト定ムト雖モ各生徒ノ所得ニ隨ヒ長短アルヘシ半途ニシテ退學

スルヲ許サス

明治八年八月十二月 文部省 布達 第十二號 第十三號

一六五一

九年文部省第六號
布達ヲ以テ第十條
中金額改正

- 第五條 生徒ハ在學期限中家事ニ係累等ナク専ラ學術ニ從事シ得ルモノタルヘシ
- 第六條 生徒ハ即今漢英兩學ヲ兼ルヲ要ス故ニ入學ノ後從來漢學ニ長スルモノハ英學ヲ專ニシ英學ニ長スルモノハ漢學ヲ專修セシムヘシ
- 第七條 生徒タラントコヲ欲スル者ハ入學ノ期ニ臨ミ第一號書式ノ保證狀及第二號書式ノ修業等履歷書ヲ以テ該校ヘ申出ヘシ
- 第八條 試驗ハ第一條ニ舉クル所ノ科目ニ就テ行フヘシ
- 第九條 試驗ノ上入學ニ適當スル者ハ第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ
- 第十條 生徒ノ學資ハ該校ヨリ支給スヘシ其金額ハ一ヶ月一人ニ付金八圓以下トス
- 第十一條 全科卒業ノ上試驗ヲ遂ケ第四號書式ノ證書ヲ與フヘシ

第一號書式 用紙美濃紙

何縣府 華士族平民誰子
姓 名

何年何ヶ月

右之者儀御校へ入學志願之趣申候間從來之行狀相尋候處不都合之廉無之ニ付別紙修業等履歷書持參爲致申候可然御取計有之度依テ保證狀差出候也

何縣府 何大區何小區何國何郡何村何町
何番地住居或ハ寄留

何縣府 華士族平民

證人 姓

名印

年號 月 日

何師範學校

御中

第二號書式 用紙美濃紙

生所何縣府 何大區何小區何國何郡何村何町
宿所同上何番地住居或ハ寄留

何縣府 華士族平民誰子
姓 名

何年何ヶ月

年月日何所誰ニ就キ漢學何書何學科英學何書何學科修業算術和算洋算何々修業筆跡何々習ヒ得及出處進退賞罰等ニ關スル履歷詳細ニ記載スヘシ

年號 月 日

第三號書式 用紙美濃紙

私義中學師範學科修業志願ヲ以御校へ入學御許容學資御給與相成候ニ付テハ總テ御規則之通相守可申依テ證書差出候也

何國何郡何村何町何番地

何縣府 華士族平民誰子

本人 姓

名印

何年何ヶ月

年號 月 日

右之通和違無之候也

父母或ハ其他

何師範學校

御中

何府華士族平民

證人 姓

名印

第四號書式 用紙文部省證書紙

証書

何府華士族平民

姓名 何年何ヶ月

中學師範學科卒業候事

何師範

年號月日

學校印

何師範學校

第幾號

達

○第一號 (二月十七日)

府 縣

學制中揭示有之候年報諸表式之儀今般更ニ詳表ヲ製シ公私學校表共各三通配賦候條明治七年之現
敬該表へ登記且左ニ開列候條件其要略ヲ誌シ來三月中取纏各三通可差出此旨相達候事

第八號達書

但小學扶助委託金受拂帳并附納寄附金一覽表ハ成規之通記載可差出事

條件

學區分合ノ有無 民心向學ノ狀況 學校建設及廢止 學規創立及改定 教員養成ノ法
教員給料ノ額 生徒試験ノ法并進歩ノ狀況 貧民ノ子女ヲ學ニ就シムルノ法 受業料收
入ノ法 委託金配當ノ法 學費課賦ノ法 學資金^{委託}金^外遣拂ノ法 學資金積立ノ法 學
務專任任免 學區取締任免 學區取締給料 將來學事進歩ノ方法及意見 其他特別ノ事
件

(別紙詳表略ス)

○第二號 (二月二十日)

府 縣

小學扶助委託金ノ儀壹ヶ年合數凡三拾萬圓ニ有之候處教育擴張ノ主旨ヲ以テ本月ヨリ六月マテノ
分三拾五萬圓ヲ配付候條學事益隆盛ニ赴キ候様締認可致此旨相達候事

○第三號 (二月二十七日 檢附)

府 縣^{東京府}
縣^{除ク}

小學扶助委託金ノ儀十二ヶ月ニ割合當省ニ於テ現貨渡來候處自今其地方預金ヲ以テ交付管相定候
就テハ委託金額明治八年一月ヨリ六月迄ノ分別記ノ如ク候條大藏省本年二月十九日達ノ通可相心
得此旨相達候事

但預金證書交付日限ノ儀ハ追テ可相達候事

(別記)

明治八年一月ヨリ、半年分府縣小學扶助委託金分付書

第一大學區

一金五千八拾圓九拾壹錢四厘

神奈川縣

ト學文部省第一號
達十三号第五十九
號布告ニ依リ消滅

- 一金四千五百四拾九圓八拾三錢五厘
- 一金八千四百七拾八圓六拾五錢貳厘
- 一金壹萬千壹圓四拾六錢五厘
- 一金三千六百貳拾九圓五拾錢六厘
- 一金五千貳拾七圓七拾九錢壹厘
- 一金三千九百七圓九拾七錢壹厘
- 一金六千六百四拾八圓貳拾三錢八厘
- 一金三千八百四拾八圓七拾三錢壹厘

第二大學區

- 一金壹萬貳千九百八圓九拾八錢七厘
- 一金四千四百拾六圓七拾五錢貳厘
- 一金三千九百貳拾圓三拾八錢八厘
- 一金五千八百八拾壹圓貳拾貳錢三厘
- 一金七千百圓五拾錢三厘
- 一金五千七百貳拾六圓貳拾五錢五厘
- 一金七千八百四圓六拾錢八厘
- 一金四千四百四拾三圓五拾貳錢六厘
- 一金三千八百六拾五圓六拾壹錢壹厘

第三大學區

- 一金五千六百貳拾九圓拾六錢壹厘

- 埼玉縣
- 熊谷縣
- 千葉縣
- 足柄縣
- 新治縣
- 茨城縣
- 榎木縣
- 山梨縣
- 愛知縣
- 濱松縣
- 靜岡縣
- 筑摩縣
- 石川縣
- 敦賀縣
- 岐阜縣
- 三重縣
- 度會縣
- 大坂府

- 一金六千四拾壹圓五厘
- 一金六千百貳拾九圓七拾八錢七厘
- 一金四千四百八拾五圓貳拾六錢
- 一金四千七百八拾六圓七拾九錢八厘
- 一金五千九百六拾三圓四拾三錢壹厘
- 一金五千三百八拾圓八拾三錢
- 一金六千七百八拾壹圓六拾四錢九厘
- 一金貳千百貳拾壹圓貳拾八錢五厘
- 一金三千五百三拾八圓四拾八錢七厘
- 一金壹萬三千九百九拾五圓拾九錢五厘
- 一金五千五百八拾圓三拾八錢五厘

第四大學區

- 一金九千八百拾八圓三拾錢壹厘
- 一金六千四百貳拾貳圓九錢
- 一金貳千貳百八拾六圓八拾八錢九厘
- 一金三千六百七圓四拾九錢四厘
- 一金四千九拾四圓八拾六錢六厘
- 一金貳千七百七拾八圓四拾四錢九厘
- 一金八千八百壹圓四拾壹錢八厘
- 一金八千貳百五拾五圓三拾錢三厘

- 京都府
- 滋賀縣
- 奈良縣
- 堺縣
- 和歌山縣
- 豐岡縣
- 飾磨縣
- 兵庫縣
- 岡山縣
- 名東縣
- 高知縣
- 廣島縣
- 小田縣
- 北條縣
- 島根縣
- 鳥取縣
- 濱田縣
- 山口縣
- 愛媛縣

第五大學區

- 一金七千三百九拾九錢三厘
- 一金五千八百九拾九錢六厘九厘
- 一金四千七百七拾四圓七錢三厘
- 一金壹萬七拾七圓三拾錢九厘
- 一金八千五百五拾五圓八拾六錢六厘
- 一金四千五百六拾六圓四拾六錢壹厘
- 一金五千九百九拾五圓七拾七錢壹厘
- 一金四千七百七拾壹圓四拾三錢九厘
- 一金三千貳百六拾圓九拾錢貳厘

第六大學區

- 一金壹萬四千三百九拾壹圓拾錢三厘
- 一金六千六百拾六圓貳拾四錢八厘
- 一金四千九百七拾三圓三拾壹錢壹厘
- 一金貳千八百八拾四圓八拾五錢三厘
- 一金千三百九拾圓七拾五錢七厘
- 一金貳千九百九拾三圓三拾九錢九厘
- 一金千九拾八圓九厘

第七大學區

- 一金四千三百貳拾七圓拾錢壹厘

- 長崎縣
- 佐賀縣
- 三潞縣
- 白川縣
- 鹿兒島縣
- 宮崎縣
- 大分縣
- 福岡縣
- 小倉縣
- 新潟縣
- 新川縣
- 長野縣
- 若松縣
- 置賜縣
- 酒田縣
- 相川縣
- 宮城縣

- 一金貳千五百七拾五圓九拾八錢九厘
- 一金貳千八百五拾壹圓八拾六錢七厘
- 一金三千貳百拾圓九錢壹厘
- 一金六千六百六拾九圓六拾五錢六厘
- 一金五千拾八圓七拾四錢七厘
- 一金三千四百八拾貳錢四厘
- 一金三千九百八拾七圓六拾九錢八厘

第四號 (四月二十二日)

從前各地方ニ於テ官費及私費ヲ以テ明治六年十二月迄ニ出版セシ書籍圖畫一枚摺ニ至ル迄藏版ノ者ハ總テ別紙離形ノ通記載致サセ管轄屬ニ於テ取摺本年十月三十一日限リ當省へ可差出若シ該期限迄ニ不差出向ハ自今出版條例上ノ保護ハ得ヘカラサルモノニ候條此旨相達候事

(別紙)

姓名若シテ 何府縣校若シ	表題	活木版	離形	何府縣藏版
何府縣	何年幾月幾日免許	活木版		何府縣藏版
同前	同前			何府縣何國何郡何町村
同前	同前			何學校藏版
同前	同前			何府縣華族士族平民

同前	何所縣何國何郡何町何番地住居	但寄留人ナレハ寄留
表題	姓名	藏版
同前	但數名ノ藏版ハ一々記名スヘシ	
右之通	年月日	

○第五號 (五月十日)

府 縣

明治五年當省第十三號達ノ旨趣ニヨリ各種學校處分ノ未學資金殘餘ノ分モ可有之候處右ハ精算ノ成否ニ拘ラス其願末委詳取調至急可及開申此旨相達候事

○第六號 (八月二十三日 輪原附)

府 縣

學事ニ付每時當省へ届出候件有之候處自今其儘ニ不及候條前一ケ年分取束子分類ヲ以テ年報中ニ編入シ各年三月中可差出此旨相達候事

但諸願伺ハ勿論小學扶助金計算ニ關スル件及臨時異例ノ申報ハ此限ニ非ラス

府 縣

○第七號 (九月十二日)

府 縣

小學扶助委託金之儀明治八年七月ヨリ同九年六月迄ノ分從前之振合ヲ以可配付候條此旨相達候事但預金證書交付日限ノ儀ハ追テ可相達候事

○第八號 (十二月十七日)

府 縣

學事年報諸表式今般更ニ野箋ヲ製シ各四通配賦候條明治八年之計數等ヲ其欄内ニ登記且左ニ開列セル分類ニ據リ學事之現狀取調來明治九年三月中各二通可差出此旨相達候事

分類

學區分合ノ有無及其緣由 學校増設及廢止^{明治八年分} 生徒進歩ノ景況 教員養成ノ概略

將來教育進歩ニ付須要ノ件^{學校増設等}

附 錄

管下現行ノ學規 生徒試驗ノ法 貧民ノ子女ヲ學ニ就シムルノ法 受業料收入ノ法 學費課賦ノ法 學費遣拂ノ法 文部省小學扶助委託金配當ノ法 學費蓄積ノ法 教員給料ノ差等 學務課及學區取締現員 學區取締給料ノ差等 學事會議ノ概略 博物館書籍館等ノ有無

其他學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ

(別紙表式略ス)

十年第四號布告ヲ以テ教部省ヲ廢シテ事務ヲ内務省ニ付ス

九年教部省達書第八號達參看

十一年太政官第二十五號達十六年同第四十三號達參看

達書第十二號達參

九年教部省達書第十七號達ヲ以テ追

教部省

布達

○布達第一號 (二月二十四日 輪傳附) 府 縣
諸神社分社又ハ遙拜所建設出願ノ節ハ向後必ス其本社ノ承諾書相副永續方法ヲモ相認差出候儀ト可心得此旨布達候事

達

○達書第一號 (二月七日 輪傳附)

御陵墓有之府縣

昨七年第百二號第百三號ヲ以テ御陵墓守護ノ儀御達有之候就テハ法親王始御墓ノ儀ハ別紙區別ノ通相心得可申此旨相達候事

(別紙)

區別書

- 一 法親王並法師タル皇子御墓
- 一 落飾ノ皇女御墓
- 右ハ渾テ掌丁ヲ置クヘシ
- 一 四親王家相續歴代親王並降嫁ノ皇女御墓
- 一 四親王家ノ息男ニテ諸宗寺門ノ主タル御猶子御墓
- 一 姓ヲ賜リテ臣下ニ列セル皇子御墓
- 右ハ渾テ掌丁ヲ置ニ及ハス

明治八年一月 教部省 布達 達書第一號